

(様式第10)

神大医支第 52号
令和 4年 9月 28日

厚生労働大臣 殿

開設者名
国立大学法人神戸大学長
藤澤正人

神戸大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和3年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
氏名	国立大学法人神戸大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

神戸大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒650-0017 神戸市中央区楠町7丁目5-2
電話(078) 382-5111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>	11リウマチ科	<input type="radio"/>	
診療実績							
「神経内科」の診療内容は脳神経内科、「内分泌内科」の診療内容は糖尿病内分泌内科、「代謝内科」及び「リウマチ科」の診療内容は「内科」、「アレルギー疾患内科またはアレルギー科」の診療内容は「内科」、「呼吸器内科」、「皮膚科」等で提供している。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科		無	
外科と組み合わせた診療科名			
○	1呼吸器外科		2消化器外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科
			3乳腺外科
			7内分泌外科
			4心臓外科
			8小児外科
診療実績			
「消化器外科」の診療内容は食道・胃腸外科、「乳腺外科」及び「内分泌外科」の診療内容は乳腺・内分泌外科で提供している。			

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科		11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科		無	
歯科と組み合わせた診療科名			
	1小児歯科	○	2矯正歯科
			3歯科口腔外科
歯科の診療体制			
通常の歯科診療内容は歯科口腔外科で提供している。			

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	腫瘍・血液内科	2	肝臓・胆のう・膵臓外科	3	耳鼻いんこう頭頸部外科	4	美容外科	5	形成外科
6	放射線腫瘍科	7	病理診断科	8	脳神経内科	9	リハビリテーション科	10	糖尿病内分泌内科
11	食道・胃腸外科	12	乳腺・内分泌外科	13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
46	0	0	0	888	934

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	595	296	741.0
歯科医師	16	23	33.8
薬剤師	78	2	76.9
保健師	0	0	0.0
助産師	41	0	41.0
看護師	884	9	889.4
准看護師	0	0	0.0
歯科衛生士	6	0	6.0
管理栄養士	14	0	14.0

職種	員数
看護補助者	32
理学療法士	17
作業療法士	7
視能訓練士	12
義肢装具士	0
臨床工学士	38
栄養士	0
歯科技工士	1
診療放射線技師	55

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	77
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	14	
その他の技術員	40	
事務職員	280	
その他の職員	35	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	84	眼科専門医	13
外科専門医	75	耳鼻咽喉科専門医	15
精神科専門医	10	放射線科専門医	32
小児科専門医	24	脳神経外科専門医	11
皮膚科専門医	11	整形外科専門医	34
泌尿器科専門医	25	麻酔科専門医	27
産婦人科専門医	16	救急科専門医	14
		合計	391

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (病院長 眞庭 謙昌) 任命年月日 令和 3 年 2 月 1 日

医療安全管理委員会委員(令和2年9月1日～)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	637.4 人	11 人	648.4 人
1日当たり平均外来患者数	1755.6 人	92.9 人	1848.5 人
1日当たり平均調剤数	1290.8		剤
必要医師数	169		人
必要歯科医師数	7		人
必要薬剤師数	22		人
必要(准)看護師数	392		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	36 床	心電計	有
集中治療室	663.6 m ²	鉄筋コンクリート	人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	35.3 m ² 722.35 m ²	病床数	(クラス100) 5 床 (クラス100以外) 63 床	
	[移動式の場合]	台数	4 台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	36		m ²	
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	438 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動臨床化学分析装置		
細菌検査室	88 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	微生物分類同定分析装置 同定・薬剤感受性パネル自動測定装置		
病理検査室	278 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	クリオスタット、ウルトラマイクローム、染色装置		
病理解剖室	67 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、オートクレーブ、写真撮影機		
研究室	429 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
講義室	1217 m ²	鉄筋コンクリート	室数	6 室	収容定員	1082 人
図書室	2145 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1 室	蔵書数	約15万 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	87.5	%	逆紹介率	72.8	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		19055 人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		16711 人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1022 人		
	D: 初診の患者の数		22958 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
寺尾 秀一	加古川中央市民病院 副院長/臨床研究・ 治験センター長/診療 部長/内科主任科部長 /医療安全管理部長/ 医療安全推進室長	○	医療に係る安全管理又は法 律に関する識見を有する者そ 他の学識経験を有する者	無	1
丸山 英二	京都府立医科大学大学院医 学研究科 客員教授(非常勤)		医療に係る安全管理又は法 律に関する識見を有する者そ 他の学識経験を有する者	無	1
武田 高	関西住宅品質保証株式会社 監査役(非常勤)		医療を受ける者その他の医 療従事者以外の者	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
ホームページ	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	0
流産検体を用いた染色体検査	9
先進医療の種類 of 合計数	2
取扱い患者数 of 合計(人)	9

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
テモゾロミド用量強化療法	0
術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法	0
陽子線治療	0
マルチプレックス遺伝子パネル検査	0
周術期デュルバルマブ静脈内投与療法	2
術後のアスピリン経口投与療法	0
先進医療の種類合計数	6
扱い患者数合計(人)	2

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(腹腔鏡下膵頭十二指腸切除)	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 膵頭十二指腸切除を腹腔鏡下に行う。本術式は2016年4月にすでに保険収載されており、日本膵臓内視鏡外科研究会、日本内視鏡外科学会、日本肝胆膵外科合同による前向き登録研究が終了し、安全性について結果が公表されている(JHBPS.2020 Feb;27(2):47-55.)。海外からの報告も合わせ、本術式の優位性は低侵襲手術であり、開腹手術に比べて、拡大視効果より精緻な操作が可能である。また、出血量をはじめとする侵襲が少なく、腫瘍学的に過不足ない切除が可能と考えられる。膵液瘻、胆汁瘻、出血、腹腔内膿瘍、胃内容停滞、腸閉塞、肺合併症、深部静脈血栓症、創部感染等の術後合併症、術後入院期間は開腹手術に比べて同等あるいは低減すると考えられる。			
医療技術名	自己心膜大動脈弁再建術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 自己心膜をグルタルアルデヒド処理を行うことで強度を上げた上で、3枚の弁尖を作成して縫い付けることで大動脈弁を再建する方法である。自己組織を使用することで抗凝固療法が不要である点、高価な人工弁を使用しないため経済的メリットがある点において、従来の弁置換術と比較して優位性があると考えられる。一方で、遠隔期における良好な成績の報告はあるが、既存の弁置換術と比較すると遠隔期成績についての実績は少ない。既存の弁置換と比較して予想される合併症は、自己心膜で再建した弁の劣化による大動脈弁逆流の再発や大動脈弁狭窄がある。重度の大動脈弁逆流、狭窄が起こった場合は、再手術(大動脈弁形成術、人工弁置換術)を行い逆流、狭窄を解除する必要がある。			
医療技術名	腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 当該術式は、既存の内科的治療によっても十分に効果が得られない肥満症・糖尿病に対して行われる外科的治療であり、本邦では2016年に初めて保険収載された術式である。保険適応を開始するにあたり、適応条件や施設基準があり、特に5例の術者・施設経験が必要となる。当該術式で予想される術中合併症は、出血や臓器損傷が挙げられる。出血は、万一生じれば圧迫止血や電気凝固止血を行う。それらでコントロール不能の場合は縫合止血を行う。腹腔鏡による対応が困難と判断した場合は、開腹手術への移行の可能性がある。また、術後合併症としては、縫合不全、出血、逆流性食道炎などである。縫合不全が万一生じた場合は、ドレナージによる保存的加療などで対処する。改善がみられない場合は、再手術を行う可能性がある。逆流性食道炎が生じた場合は、プロトンポンプ阻害薬などの内服もしくは点滴投与を行う。			
医療技術名	経口的咽喉頭ロボット手術	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 既存の咽喉頭癌に対する経口的切除では内視鏡補助下に用手的に電気メスや鉗子を用いて切除を行う。この場合視野の確保や直線的な操作性が難しく、微細な操作が制限されるため、結果的に切除断端の陽性率が高くなる傾向にある。ロボット手術においてはより精緻な操作性が得られるため、切除断端の陽性率を減少することが報告されている。合併症頻度の減少については、出血量の減少、術後出血頻度の減少などの可能性がある。ロボット固有の手術リスクとしては機器の接触による口腔損傷が考えられる。また機器の挿入困難による手術不能のリスクがあり、その際は従来の経口切除の術式に切り替えることとなる。			
医療技術名	hinotoriTMを用いたロボット支援腎部分切除術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 臨床病期I期の腎細胞癌に対し、手術支援ロボットを用いて腎部分切除術を行う。小径腎腫瘍患者に対する腎部分切除術は、無作為化比較試験において根治的腎摘除術と比較して同等の制癌性を有し腫瘍学的安全性が確認されているのみならず、腎機能温存や術後QOLの優位性、非癌関連死亡率の低下および全生存期間の延長が根治的腎摘除術と比較し良好であることが示されており、EAUガイドライン、NCCNガイドライン、本邦ガイドラインではT1腫瘍に対し腎部分切除術を行うよう推奨されている。			

医療技術名	腹腔鏡下広汎子宮全摘術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要			
<p>子宮頸癌IA期、IB1期IB2期、IIA1期の患者に対する治療は広汎子宮全摘術が標準術式である。子宮頸癌のうち、上記進行期で腹腔鏡下手術を希望された患者様に対して、この広汎子宮全摘術を腹腔鏡下手術で実施する。本術式は、既に2016年から先進医療Aで開始され、2018年4月から保険適応となっている。腹腔鏡下広汎子宮全摘術の合併症は、開腹で施行する広汎子宮全摘術と同様に、骨盤奥深い血管処理に伴う出血や血管損傷、隣接臓器である尿管、膀胱、腸管損傷、術後排尿障害、術後腸閉塞、下肢浮腫などがあるが、開腹手術に比べて出血量は少なく、他の合併症は変わらず、術後腸閉塞などの合併症は少ないとされている。腹腔鏡下手術特有の合併症としては、気腹ガスによる皮下気腫、碎石位によるコンパ—メント症候群などがあげられる。合併症回避のために、術中気腹圧を10-12mmHg以下で手術を施行すること。術中は3時間毎に骨盤高位を解除して、下肢の圧迫や発赤がないかを確認するようにしている。また、手術終了時にインジゴカルミン液を静注し、膀胱鏡で尿管からの色素排出を確認するとともに、尿管損傷や膀胱損傷の有無を腹腔内からも観察している。</p>			
医療技術名	経皮的僧帽弁接合不全修復システム(MitraClip)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要			
<p>十分な内科的加療を行っても心不全症状を伴う重症の僧帽弁閉鎖不全で、外科手術困難な患者に対して本治療を行うことで、症状の改善が期待できる。十分に僧帽弁の逆流を抑え、かつ過度の狭窄症とならずに、手技成功となる可能性は90%程度と報告されている。治療が成功した場合、従来の開胸による手術(僧帽弁形成術・置換術)と同等の症状と予後の改善効果を期待出来る。</p>			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	7
取扱い患者数の合計(人)	12

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	12	56	ベーチェット病	126
2	筋萎縮性側索硬化症	10	57	特発性拡張型心筋症	104
3	脊髄性筋萎縮症	40	58	肥大型心筋症	138
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	12	60	再生不良性貧血	23
6	パーキンソン病	307	61	自己免疫性溶血性貧血	14
7	大脳皮質基底核変性症	4	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	9
8	ハンチントン病	3	63	特発性血小板減少性紫斑病	67
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	3
10	シャルコー・マリー・トゥース病	18	65	原発性免疫不全症候群	10
11	重症筋無力症	181	66	IgA腎症	0
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	48
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	166	68	黄色靱帯骨化症	3
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	38	69	後縦靱帯骨化症	4
15	封入体筋炎	6	70	広範脊柱管狭窄症	0
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	99
17	多系統萎縮症	18	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	86	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	12	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	20
21	ミトコンドリア病	27	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	36	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	2
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	3
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	1
28	全身性アミロイドーシス	15	83	アジソン病	4
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	156
30	遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	23
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	34
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	92
34	神経線維腫症	80	89	リンパ脈管筋腫症	9
35	天疱瘡	9	90	網膜色素変性症	3
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	8	92	特発性門脈圧亢進症	7
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	91
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	19
40	高安動脈炎	11	95	自己免疫性肝炎	89
41	巨細胞性動脈炎	12	96	クローン病	87
42	結節性多発動脈炎	17	97	潰瘍性大腸炎	226
43	顕微鏡的多発血管炎	36	98	好酸球性消化管疾患	24
44	多発血管炎性肉芽腫症	26	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	36	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	5	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バーシャー病	7	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	1
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	58	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	364	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	84	105	チャージ症候群	10
51	全身性強皮症	47	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	57	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	256	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	32	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	4	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	先天性ミオパチー	41	161	家族性良性慢性天疱瘡	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	78
113	筋ジストロフィー	257	163	特発性後天性全身性無汗症	21
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	17	164	眼皮膚白皮症	1
115	遺伝性周期性四肢麻痺	3	165	肥厚性皮膚骨膜炎	1
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	5
117	脊髄空洞症	20	167	マルファン症候群	31
118	脊髄髄膜瘤	1	168	エーラス・ダンロス症候群	2
119	アイザックス症候群	2	169	メンケス病	5
120	遺伝性ジストニア	3	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	7
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	9	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	1	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	1
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスモンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	2
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	1
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	1	193	ブラダー・ウィリ症候群	7
144	レノックス・ガストー症候群	2	194	ソトス症候群	1
145	ウエスト症候群	1	195	ヌーナン症候群	7
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	1
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	1
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	2	206	脆弱X症候群	1
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	54	208	修正大血管転位症	7
159	色素性乾皮症	51	209	完全大血管転位症	2
160	先天性魚鱗癬	2	210	単心室症	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レンチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	1	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	2	262	原発性高カイトロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	55	263	脳腫黄色腫症	1
216	両大血管右室起始症	5	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	2	265	脂肪萎縮症	2
218	アルポート症候群	29	266	家族性地中海熱	7
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	16	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	4
222	一次性ネフローゼ症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	21
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	5
227	オスラー病	29	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	3
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫症/ゴーム病	5
230	肺胞低換気症候群	1	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレネー・ウェーバー症候群	2
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	13	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	6	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	9	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	8	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	8	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	7
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	0
244	メーブルシロップ尿症	1	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	2	293	総排泄腔遺残	3
246	メチルマロン酸血症	6	294	先天性横隔膜ヘルニア	3
247	イソ吉草酸血症	1	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	8
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	2	298	遺伝性膀胱炎	1
251	尿素サイクル異常症	3	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	31
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	8
254	ポルフィリン症	3	302	レーベル遺伝性視神経症	2
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	3	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	7	305	遅発性内リンパ水腫	2
258	ガラクトースー1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	34

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	16	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	1	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	1
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	7	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	1	329	無虹彩症	1
318	シトリン欠損症	4	330	先天性気管狭窄症	3
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	15
			332	膠様滴状角膜ジストロフィー	5
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
			334	脳クレアチン欠乏症候群	0
			335	ネフロン癆	1
			336	家族性低 β リポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
			337	ホモシスチン尿症	3
			338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	175
合計患者数(人)	4774

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
歯科外来診療環境体制加算2	ハイリスク妊娠管理加算
歯科診療特別対応連携加算	ハイリスク分娩管理加算
特定機能病院入院基本料	呼吸ケアチーム加算
救急医療管理加算	後発医薬品使用体制加算1
超急性期脳卒中加算	病棟薬剤業務実施加算1
診療録管理体制加算1	病棟薬剤業務実施加算2
医師事務作業補助体制加算1	データ提出加算
急性期看護補助体制加算	入退院支援加算
看護職員夜間配置加算	精神疾患診療体制加算
看護補助加算	精神科急性期医師配置加算
療養環境加算	排尿自立支援加算
重症者等療養環境特別加算	地域医療体制確保加算
無菌治療室管理加算1	救命救急入院料1
無菌治療室管理加算2	特定集中治療室管理料2
放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	ハイケアユニット入院医療管理料1
放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)	総合周産期特定集中治療室管理料
緩和ケア診療加算	新生児治療回復室入院医療管理料
精神科応急入院施設管理加算	小児入院医療管理料2
精神病棟入院時医学管理加算	看護職員処遇改善評価料
精神科身体合併症管理加算	
精神科リエゾンチーム加算	
摂食障害入院医療管理加算	
栄養サポートチーム加算	
医療安全対策加算1	
感染対策向上加算1	
患者サポート体制充実加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料	こころの連携指導料(Ⅱ)
外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	薬剤管理指導料
外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	医療機器安全管理料1
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	医療機器安全管理料2
糖尿病合併症管理料	医療機器安全管理料(歯科)
がん性疼痛緩和指導管理料	歯科治療時医療管理料
がん患者指導管理料イ	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
がん患者指導管理料ロ	在宅患者訪問看護・指導料の注16(同一建物居住者訪問看護・指導料の注6の規定により準用する場合を含む。)に規定する専門管理加算
がん患者指導管理料ハ	在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
がん患者指導管理料ニ	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
外来緩和ケア管理料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	遺伝学的検査
糖尿病透析予防指導管理料	染色体検査の注2に規定する基準
小児運動器疾患指導管理料	骨髄微小残存病変量測定
婦人科特定疾患治療管理料	BRCA1/2遺伝子検査
腎代替療法指導管理料	がんゲノムプロファイリング検査
院内トリアージ実施料	先天性代謝異常症検査
外来放射線照射診療料	抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
外来腫瘍化学療法診療料1	抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
連携充実加算	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
ニコチン依存症管理料	ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
がん治療連携計画策定料	検体検査管理加算(Ⅳ)
外来排尿自立指導料	国際標準検査管理加算
ハイリスク妊産婦連携指導料1	遺伝カウンセリング加算
ハイリスク妊産婦連携指導料2	遺伝性腫瘍カウンセリング加算
肝炎インターフェロン治療計画料	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	肝エラストグラフィ加算
胎児心エコー法	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
ヘッドアップティルト試験	外来化学療法加算1
長期継続頭蓋内脳波検査	無菌製剤処理料
長期脳波ビデオ同時記録検査1	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
単線維筋電図	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
神経学的検査	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
補聴器適合検査	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
全視野精密網膜電図	がん患者リハビリテーション料
ロービジョン検査判断料	歯科口腔リハビリテーション料2
コンタクトレンズ検査料1	精神科作業療法
小児食物アレルギー負荷検査	精神科ショート・ケア「小規模なもの」
内服・点滴誘発試験	抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
経気管支凍結生検法	医療保護入院等診療料
口腔細菌定量検査	医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1
精密触覚機能検査	医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1
画像診断管理加算3	医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1
ポジトロン断層撮影	静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	エタノールの局所注入(甲状腺)
ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影	エタノールの局所注入(副甲状腺)
CT撮影及びMRI撮影	人工腎臓
冠動脈CT撮影加算	導入期加算2及び腎代替療法実績加算
血流予備量比コンピューター断層撮影	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
心臓MRI撮影加算	難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
乳房MRI撮影加算	移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
頭部MRI撮影加算	磁気による膀胱等刺激法
全身MRI撮影加算	手術用顕微鏡加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
口腔粘膜処置	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
歯科技工加算1及び2	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
センチネルリンパ節加算	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	顎関節人工関節全置換術(歯科)
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
椎間板内酵素注入療法	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
腫瘍脊椎骨全摘術	乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
脳腫瘍覚醒下マッピング加算	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
角結膜悪性腫瘍切除術	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
角膜移植術(内皮移植加算)	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
羊膜移植術	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))	縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	内視鏡下筋層切開術
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等
網膜再建術	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
経外耳道の内視鏡下鼓室形成術	胸腔鏡下弁形成術
人工中耳植込術	胸腔鏡下弁置換術
植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術)
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)	経皮的僧帽弁クリップ術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
不整脈手術左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)	体外衝撃波胆石破碎術
不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)	腹腔鏡下肝切除術
経皮的中心隔心筋焼灼術	生体部分肝移植術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	同種死体肝移植術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	体外衝撃波膀胱石破碎術
両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	腹腔鏡下腓腫瘍摘出術
両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術	腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	腹腔鏡下腓頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	同種死体腓移植術、同種死体腓腎移植術
大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	内視鏡的小腸ポリープ切除術
補助人工心臓	腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
植込型補助人工心臓(非拍動流型)	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等	腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
内視鏡的逆流防止粘膜切除術	同種死体腎移植術
腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	生体腎移植術
腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	人工尿道括約筋植込・置換術
腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	精巣内精子採取術
胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	レーザー機器加算
腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	麻酔管理料(Ⅰ)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	麻酔管理料(Ⅱ)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	周術期薬剤管理加算
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	放射線治療専任加算
腹腔鏡下子宮癒痕部修復術	外来放射線治療加算
胎児胸腔・羊水腔シャント術	高エネルギー放射線治療
胎児輸血術及び臍帯穿刺	一回線量増加加算
体外式膜型人工肺管理料	強度変調放射線治療(IMRT)
医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1	画像誘導放射線治療(IGRT)
医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1	体外照射呼吸性移動対策加算
医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1	定位放射線治療
医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)	定位放射線治療呼吸性移動対策加算
医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)	画像誘導密封小線源治療加算
輸血管理料Ⅰ	保険医療機関間の連携による病理診断
貯血式自己血輸血管理体制加算	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
コーディネート体制充実加算	保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
自己生体組織接着剤作成術	デジタル病理画像による病理診断
自己クリオプレシペート作製術(用手法)	病理診断管理加算2
同種クリオプレシペート作製術	悪性腫瘍病理組織標本加算
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	クラウン・ブリッジ維持管理料
歯周組織再生誘導手術	歯科矯正診断料
広範囲顎骨支持型装置埋入手術	顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
歯根端切除手術の注3	下肢創傷処置管理料
口腔粘膜血管腫凝固術	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・染色体検査の注2に規定する絨毛染色体検査	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
 (注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	週5回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	16 例
	剖検率(%)	7.10%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3) 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
神経皮膚症候群におけるアンメットニーズを満たす多診療科連携診療体制の確立	錦織 千佳子	iPS細胞応用医学	35,880,000	補 委 国立保健医療科学院
国民のニーズに応える薬剤師の専門性のあり方に関する調査研究	矢野 育子	薬剤部	5,750,000	補 委 厚生労働省
循環器病対策推進基本計画に基づいた、都道府県の有用な目標指標の設定のための研究	平田 健一	循環器内科学	6,940,000	補 委 厚生労働省
指定難病と小児慢性特定疾病に関連した先天性骨系統疾患の適切な診断の実施と医療水準およびQOLの向上をめざした研究	大森 崇	臨床研究推進センター	650,000	補 委 国立保健医療科学院
特発性好酸球増加症候群の診療ガイドライン作成に向けた疫学研究	片山 義雄	血液内科	300,000	補 委 国立保健医療科学院
IgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	児玉 裕三	消化器内科学	500,000	補 委 国立保健医療科学院
スモンに関する調査研究	松本 理器	脳神経内科学	300,000	補 委 厚生労働省
アミロイドーシスに関する調査研究	西 慎一	腎臓内科学	200,000	補 委 国立保健医療科学院
小児腎領域の希少・難治性疾患群の診療・研究体制の発展	野津 寛大	小児科学	400,000	補 委 国立保健医療科学院
小児腎領域の希少・難治性疾患群の診療・研究体制の発展	森貞 直哉	小児科学	400,000	補 委 国立保健医療科学院
難治性血管腫・血管奇形・リンパ管腫・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究	野村 正	形成外科	300,000	補 委 国立保健医療科学院
呼吸器系先天異常疾患の診療体制構築とデータベースおよび診療ガイドラインに基づいた医療水準向上に関する研究	前田 貢作	小児外科学	300,000	補 委 国立保健医療科学院
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医療および移行期医療支援に関する研究	上原 奈津美	耳鼻咽喉・頭頸部外科	200,000	補 委 国立保健医療科学院
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医療および移行期医療支援に関する研究	中西 裕子	眼科学	200,000	補 委 国立保健医療科学院
循環器疾患に関する適切な情報提供・相談支援のための方策と体制等の効果的な展開に向けた研究	平田 健一	循環器内科学	200,000	補 委 厚生労働省
ホルモン受容機構異常に関する調査研究	小川 涉	糖尿病・内分泌・総合内科学	900,000	補 委 国立保健医療科学院
小児急性脳症の早期診断・最適治療・ガイドライン策定に向けた体制整備	永瀬 裕朗	小児科学	600,000	補 委 国立保健医療科学院
指定難病の普及・啓発に向けた包括的研究	錦織 千佳子	iPS細胞応用医学	1,000,000	補 委 厚生労働省
指定難病の普及・啓発に向けた包括的研究	中村 誠	眼科学	1,000,000	補 委 厚生労働省
筋ジストロフィーの標準的医療普及のための調査研究	栗野 宏之	小児科学	400,000	補 委 国立保健医療科学院
医師の労働時間短縮のための手法に関する検討	掛地 吉弘	食道胃腸外科学	300,000	補 委 厚生労働省
Value-based medicine の推進に向けた循環器病の疾患管理システムの構築に関する研究	篠原 正和	疫学	200,000	補 委 厚生労働省
Value-based medicine の推進に向けた循環器病の疾患管理システムの構築に関する研究	杜 隆嗣	立証検査医学	200,000	補 委 厚生労働省
慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業	溝渕 知司	麻酔科学	500,000	補 委 厚生労働省
今般の感染症対応や将来の医療需要を踏まえたDPCデータ等を活用した急性期医療の確保のための研究	小林 大介	医療システム学	557,000	補 委 厚生労働省

小計 25件

(様式第3) 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
がん患者における患者報告アウトカム尺度開発に関する研究	清田 尚臣	腫瘍センター	12,350,000	補	日本医療研究開発機構
レポーターHBVを駆使したHBV複製解析および創薬研究	勝二 郁夫	感染制御学分野	95,750,000	補	日本医療研究開発機構
不育症、産科異常に関わるネオ・セルフ抗体の研究開発	山田 秀人	産科婦人科学分野	15,000,000	補	日本医療研究開発機構
吸収性スぺーサーを用いた体内空間可変技術の定位放射線治療への展開	佐々木 良平	放射線腫瘍科	23,100,000	補	日本医療研究開発機構
吸収性スぺーサーを用いた体内空間可変技術の定位放射線治療への展開	佐々木 良平	放射線腫瘍科	1,352,000	補	日本医療研究開発機構
Alport症候群に対するエクソソスキッピング療法の開発	野津 寛大	小児科学分野	169,000,000	補	日本医療研究開発機構
視神経脊髄炎の個別化医療を目指した免疫寛容システムの解明	千原 典夫	脳神経内科	9,880,000	補	日本医療研究開発機構
色素性乾皮症に対する新規治療法の開発	錦織 千佳子	iPS細胞応用医学分野難治性皮膚疾患病態解明学部門	53,534,000	補	日本医療研究開発機構
色素性乾皮症に対する新規治療法の開発	錦織 千佳子	iPS細胞応用医学分野難治性皮膚疾患病態解明学部門	19,500,000	補	日本医療研究開発機構
単一細胞解析によるヘルペスウイルス持続感染の分子基盤の解明	有井 潤	臨床ウイルス学分野	15,600,000	補	日本医療研究開発機構
運動効果模倣薬の開発を目指した運動による生活習慣病改善機構の解析	小川 渉	糖尿病・内分泌内科学	9,750,000	補	日本医療研究開発機構
慢性ストレス・老化による脳機能変容の炎症性機序の解明	古屋敷 智之	薬理学分野	40,170,000	補	日本医療研究開発機構
免疫細胞による精神病理の操作を目指して	内匠 透	生理学分野	41,600,000	補	日本医療研究開発機構
サンバーン増強型の色素性乾皮症を対象とした既存薬による新規治療の効果と安全性を評価する医師主導治験	錦織 千佳子	iPS細胞応用医学分野難治性皮膚疾患病態解明学部門	78,000,000	補	日本医療研究開発機構
自己免疫網膜炎を対象とした多施設共同研究による診断・治療エビデンスの創出	楠原 仙太郎	眼科学分野	13,390,000	補	日本医療研究開発機構
ヘルニア・変性椎間板組織再生を促す新規コラーゲンゲル充填剤	黒田 良祐	整形外科学	1,716,000	補	日本医療研究開発機構
ヘルニア・変性椎間板組織再生を促す新規コラーゲンゲル充填剤	黒田 良祐	整形外科学	1,125,553	補	日本医療研究開発機構
潰瘍性大腸炎の特異的自己抗原の同定による新規体外診断薬の開発	児玉 裕三	消化器内科学分野	6,500,000	補	日本医療研究開発機構
肝炎ウイルスの感染複製増殖と病原性発現を阻止するための基盤的研究とその応用のための基盤の開発	勝二 郁夫	感染制御学分野	3,900,000	補	日本医療研究開発機構
画像認識AIによる細菌感染症の菌種分類精度向上と抗菌薬適正使用に関する臨床研究	大路 剛	感染治療学分野	9,365,785	補	日本医療研究開発機構
未診断疾患イニシアチブ (Initiative on Rare and Undiagnosed Disease(IRUD)): 希少未診断疾患に対する診断プログラムの開発に関する研究	野津 寛大	小児科学分野	7,800,000	補	日本医療研究開発機構
難治性心血管疾患におけるマルチオミクス解析による病態解明と精密医療	仁田 亮	生体構造解剖学	1,950,000	補	日本医療研究開発機構
原子レベルで解明するトキソプラズマ寄生胞膜破壊と病原性因子によるその破綻	仁田 亮	生体構造解剖学	1,690,000	補	日本医療研究開発機構
薬事承認申請をめざした福山型筋ジストロフィーにおけるアンチセンス核酸NS-035の第1/2相試験(ステップ2)	小林 千浩	分子脳科学分野	20,800,000	補	日本医療研究開発機構
症候性先天性サイトメガロウイルス感染症を対象としたバルガンシクロビル治療の開発研究	藤岡 一路	総合周産期母子医療センター	2,730,000	補	日本医療研究開発機構
脂肪肝炎を背景とする代謝関連肝がん発生の病態解明に関する研究	勝二 郁夫	感染制御学分野	3,900,000	補	日本医療研究開発機構

小計 26件

(様式第3) 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ゲノム不安定性疾患群を中心とした希少難治性疾患の次世代マルチオミクス診断拠点構築	錦織 千佳子	iPS細胞応用医学分野 野難治性皮膚疾患病態解明学部門	2,600,000	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する臨床第Ⅲ相試験	掛地 吉弘	食道胃腸外科学分野	130,000	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
患者レジストリJapan PH Registryを活用した肺動脈性肺高血圧症に対する抗IL-6受容体抗体適応拡大のための医師主導治験	谷口 悠	循環器内科	650,000	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
レジストリを活用した慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対するエドキサパンの適応拡大のための第Ⅲ相医師主導治験	谷口 悠	循環器内科	1,820,000	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
腸管免疫を利用した新規経口ワクチンの開発	日向 信之	腎泌尿器科学分野	1,148,800	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
アレルギー性皮膚疾患の病態における発汗異常の解明と治療法の開発	福永 淳	皮膚科学分野	2,600,000	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
臨床開発を目指したベッカー型筋ジストロフィーの自然歴調査研究	栗野 宏之	小児科学分野	260,000	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
脊髄性筋萎縮症における治療有効性モニタリングのためのバイオマーカーの開発	栗野 宏之	小児科学分野	325,000	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
福山型先天性筋ジストロフィー患者における内服ステロイド薬の治験	栗野 宏之	小児科学分野	325,000	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
A3243Gミトコンドリア耐糖能異常に対するタウリン療法の実用化	小川 渉	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	780,000	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
研究計画立案早期からのインタラクティブな多職種協働による高品質の臨床研究計画作成支援体制の構築	小西 明英	臨床研究推進センター	7,800,000	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
性差を加味した冠動脈疾患AI診断システムに関する研究開発	河野 淳	放射線診断学分野	130,000	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
網膜色素変性を対象とした経皮膚電気刺激の有効性及び安全性に関する検証的試験	中村 誠	眼科学分野	2,149,680	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
遺伝子関連情報を基軸にした効率的免疫抑制管理による革新的長期管理ロジック開発	蔵満 薫	肝胆膵外科	390,000	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
静脈奇形に対するモノエタノールアミノレニン酸塩を用いた硬化療法の有効性および安全性を評価する医師主導治験	野村 正	形成外科	5,383,300	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
医療費適正化に資する前立腺癌病巣標的化凍結治療:医師主導治験	高橋 哲	放射線診断学分野	552,500	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
膠芽腫の標準治療後病勢を診断する血液バイオマーカーの実用化	篠山 隆司	脳神経外科学	390,000	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
Cellm-001による初発膠芽腫治療効果無作為比較対照試験	篠山 隆司	脳神経外科学	1,430,000	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
新生児マススクリーニング対象拡充のための疾患選定基準の確立	篠原 正和	疫学分野	390,000	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
進行頭頸部がんに対する術後補助療法の標準治療確立のための多施設共同研究	清田 尚臣	腫瘍センター	1,144,000	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
進行上顎洞癌に対する超選択的動注化学療法を併用した放射線治療による新規治療法開発に関する研究	清田 尚臣	腫瘍センター	390,000	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
MAGE-A4抗原を発現する切除不能進行・再発腫瘍に対するCAR-T細胞療法の医師主導第Ⅰ相治験	清田 尚臣	腫瘍センター	1,300,000	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
倍数性変動と細胞老化エスケープを標的とした、肝発癌・薬剤耐性を阻害する新規治療戦略の探索	上田 佳秀	地域医療ネットワーク学(消化器内科学)	1,300,000	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
新型コロナウイルスワクチンの開発	森 康子	臨床ウイルス学分野	30,101,059	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
慢性B型肝炎ウイルス感染根治に向けたHBsセロコンバージョン促進方法の研究開発	上田 佳秀	地域医療ネットワーク学(消化器内科学)	1,040,000	補 ⑤ 日本医療研究開発機構
脊髄性筋萎縮症の成人期予後把握を目的とした多施設共同コホート研究	関口 兼司	脳神経内科学分野	390,000	補 ⑤ 日本医療研究開発機構

小計 26件

(様式第3) 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
先天性有機酸血症の新治療薬による医師主導治験研究	坊 亮輔	小児科	2,990,000	補 委	日本医療研究開発機構
患者レジストリJapan PH Registryを活用した肺動脈性肺高血圧症のアンメットメディカルニーズに対するエビデンス創出研究	谷口 悠	循環器内科	650,000	補 委	日本医療研究開発機構
抗インテグリン α V β 6自己抗体測定による潰瘍性大腸炎の診断・病勢評価のエビデンス創出研究	児玉 裕三	消化器内科学分野	1,300,000	補 委	日本医療研究開発機構
脈管異常の皮膚病変に対するシロリムシグレルの多施設共同、プラセボ対照、二重盲検、無作為化、並行群間比較試験	久保 亮治	皮膚科学分野	310,480	補 委	日本医療研究開発機構
インドネシアにおける新興・再興感染症の国際共同研究拠点形成に関する研究	森 康子	臨床ウイルス学分野	80,860,000	補 委	日本医療研究開発機構
ネクチン関連分子と増殖因子受容体/インテグリンの相互作用を標的としたがん治療法	高井 義美	シグナル統合学分野 病態シグナル学部門	20,874,000	補 委	日本医療研究開発機構
食食細胞-がん細胞相互作用を制御する新たながん免疫療法の開発	的崎 尚	シグナル統合学分野	17,952,000	補 委	日本医療研究開発機構
癌抑制遺伝子を標的とする癌治療法の開発	鈴木 聡	分子細胞生物学分野	19,894,000	補 委	日本医療研究開発機構
自家末梢血CD34陽性細胞移植による骨・血管再生療法に関する医師主導治験	黒田 良祐	整形外科	27,514,000	補 委	日本医療研究開発機構
医療機器開発における“日本型エコシステム”推進を目指した拠点整備事業	眞庭 謙昌	病院長	20,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
高頻拍ベレーシングなしでの大動脈弁頭回拡張を可能にする「心電図同期型」経皮的な大動脈弁拡張システムの創出	小西 明英	臨床研究推進センター	4,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
ゲノム医療実現推進のためのバイオバンク利活用促進に向けたバイオバンク・ネットワーク構築と運用支援の研究開発	松岡 広	バイオリソースセンター	1,950,000	補 委	日本医療研究開発機構
7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン	南 博信	腫瘍・血液内科学	6,253,000	補 委	文部科学省
がん超早期・早期病変に対する細胞生物学的治療コンセプトの創出	南 康博	細胞生理学	26,999,700	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
患者生体試料リソースプラットフォームの構築と運用	児玉 裕三	消化器内科学	22,999,600	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
オミックス解析基盤の構築・多階層統合解析プラットフォーム・データベースの構築と運用	篠原 正和	疫学	13,000,000	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
免疫系に着目した血管性認知症および混合型認知症における臓器間ネットワークの解明	松本 理器	脳神経内科学	23,400,000	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
免疫系に着目した血管性認知症および混合型認知症における臓器間ネットワークの解明	水谷 清人	病態シグナル学	27,300,000	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
臓器間ネットワークの変容を早期に観測可能な新規イメージング技術の開発とその応用による臓器間ネットワークの解明	仁田 亮	生体構造解剖学	28,470,000	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
少量学習データを用いた深層学習による新型コロナウイルス肺炎のレントゲン写真の自動診断	西尾 瑞徳	放射線診断・IVR科	2,989,976	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
環境中ウイルスの高感度マルチ計測技術の開発	梶本 武利	生化学	3,000,000	補 委	国立研究開発法人科学技術振興機構
説明できるAIの基盤技術開発/モジュール型モデルによる深層学習のホワイトボックス化	村上 卓道	放射線診断学	3,112,000	補 委	国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術
ストレス関連疾患を担う機能性脂質の探索と機能解析に基づく臨床応用のための技術基盤の創出	古屋敷 智之	薬理学分野	81,984,097	補 委	日本医療研究開発機構
ヒト腸内細菌Bacteroides 2菌種の抗炎症作用機序の解明と慢性炎症性疾患治療への応用	山下 智也	循環器内科	19,500,000	補 委	日本医療研究開発機構
疾患特異的iPS細胞を用いた先天性中枢性低換気症候群における低CO ₂ 感受性の分子機構	藤岡 一路	総合周産期母子医療センター	26,390,000	補 委	日本医療研究開発機構
色素性乾皮症治療薬の開発	錦織 千佳子	iPS細胞応用医学分野 難治性皮膚疾患病態解明学部門	9,117,000	補 委	日本医療研究開発機構

小計 26件

(様式第3) 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
リボソームタンパク質を標的とした新規p53活性化薬剤の探索	前濱 朝彦	分子細胞生物学分野	5,005,000	補 委	日本医療研究 開発機構
廃用性筋萎縮の発症・進展メカニズムの検証	小川 渉	糖尿病・内分泌内科学分野	5,000,000	補 委	日本医療研究 開発機構
高齢者難治性骨髄疾患を担う神経ネットワークの探索と機能解析に基づく臨床応用のための技術基盤の創出	片山 義雄	血液内科	28,366,000	補 委	日本医療研究 開発機構
若年期体細胞モザイクの発生要因・拡大原理の解明とその制御による新規治療基盤の創出	久保 亮治	皮膚科学分野	13,000,000	補 委	日本医療研究 開発機構
ストレスレジリエンスの個体差を生み出す分子・神経回路基盤の解明	篠原 亮太	薬理学分野	11,310,000	補 委	日本医療研究 開発機構
機械受容応答を支える膜・糖鎖環境の解明と筋疾患治療への展開	金川 基	分子脳科学分野	6,500,000	補 委	日本医療研究 開発機構
革新的化合物探索・合成手法による新規抗菌アジュバントの創出	今崎 剛	生体構造解剖学分野	2,600,000	補 委	日本医療研究 開発機構
心筋メカノバイオロジー機構の解明による心不全治療法の開発	仁田 亮	生体構造解剖学分野	5,500,001	補 委	日本医療研究 開発機構
神経-生体システム連関のレジリエンス機能の統合的解明/神経-生体システム連関のレジリエンス機能の統合的解明	南 康博	細胞生理学分野	11,700,000	補 委	日本医療研究 開発機構
FCMD及び類縁疾患のiPSCs由来三次元培養法による疾患モデルを駆使した病態評価と低分子治療法開発	青井 三千代	再生医療臨床応用実 現化人材育成セン ター	5,200,000	補 委	日本医療研究 開発機構
老化機構・制御研究拠点/加齢に伴う細胞形態・運動制御の異常の分子機構	南 康博	細胞生理学分野	12,500,000	補 委	日本医療研究 開発機構
老化機構・制御研究拠点/神経細胞の老化機構	水谷 清人	細胞生理学分野	36,500,000	補 委	日本医療研究 開発機構
老化研究推進・支援拠点/老化研究推進支援拠点の形成と運営	高井 義美	病態シグナル学部門	10,000,000	補 委	日本医療研究 開発機構
老化研究推進・支援拠点/メタボローム解析支援・技術開発(フラックス解析)	高橋 晴美	分子代謝医学部門	4,547,000	補 委	日本医療研究 開発機構
個体・臓器老化研究拠点/膝島老化の分子機構の解明	高橋 晴美	分子代謝医学部門	18,200,000	補 委	日本医療研究 開発機構
腸内マイクロバイオーム制御による次世代創薬技術の開発/創薬シーズ創出基盤(がんシーズ創出研究:免疫チェックポイント阻害薬による効果・副作用のバイオマーカー研究)	南 博信	腫瘍・血液内科学分野	19,471,186	補 委	日本医療研究 開発機構
腸内マイクロバイオーム制御による次世代創薬技術の開発/課題1(2):リバーストランスレリショナル創薬に向けた包括的マイクロバイオーム制御基盤技術開発-マイクロバイオーム創薬エコシステム構築に向けて-/創薬シーズ評価基盤技術(研究統括)	児玉 裕三	消化器内科学分野	13,000,000	補 委	日本医療研究 開発機構
接着の偏在によるモザイク形成メカニズム	富樫 英	分子細胞生物学	5,395,000	補 委	国立研究開発 法人科学技術 振興機構
腸-脳機能コネクティビティによる腸内感覚の機能解明と操作	榎本 秀樹	神経分化・再生	68,900,000	補 委	国立研究開発 法人科学技術 振興機構
意味記憶ネットワークの神経基盤:皮質脳波解読と刺激・病変研究による包括的解明	松本 理器	脳神経内科学分野	2,340,000	補 委	日本学術振興 会
ストレスによる認知情動変容を担う多階層プロセスと精神疾患への関与の構成的理解	古屋敷 智之	薬理学分野	33,670,000	補 委	日本学術振興 会
細胞の形態・極性制御を司る微小管ネットワーク形成の構造基盤	仁田 亮	生体構造解剖学分野	3,380,000	補 委	日本学術振興 会
AD/HDのiPSC細胞を用いた中枢神経モデルの解析	曾良 一郎	精神医学分野	5,070,000	補 委	日本学術振興 会
骨軟部肉腫、小児悪性腫瘍に対する新規・体内空間可変粒子線治療の開発	佐々木 良平	放射線腫瘍学分野	5,590,000	補 委	日本学術振興 会
循環器疾患における腸内細菌叢の役割の解明と新規治療標的の探索	山下 智也	循環器内科学分野	4,550,000	補 委	日本学術振興 会

小計 25件

(様式第3) 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
指定難病「IgG4関連疾患」の自己抗原同定による病態解明と新しい診療体系の確立	児玉 裕三	消化器内科学分野	4,160,000	日本学術振興会
脂肪細胞のインスリンシグナル障害による遠隔病理作用発現機構の解析	小川 涉	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	5,070,000	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害剤における共刺激分子遺伝子導入および放射線治療の併用効果	丹生 健一	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	5,070,000	日本学術振興会
行動経済学を取り入れたアドバンスケアプランニングの効果に関する検証試験	木澤 義之	緩和と支持治療科	5,590,000	日本学術振興会
ヘルペスウイルスの細胞指向性を規定する分子機構の解明	有井 潤	臨床ウイルス学分野	5,980,000	日本学術振興会
免疫性神経疾患におけるT細胞制御遺伝子プログラムを応用した神経変性病態の解明	千原 典夫	脳神経内科学分野	5,980,000	日本学術振興会
腸内細菌由来のメッセージ物質の機能解明と循環器疾患との関連解明研究	平田 健一	循環器内科学分野	5,980,000	日本学術振興会
iPS細胞由来腎臓オルガノイドを用いた小児ネフローゼ症候群の発症機序の解明	飯島 一誠	小児科学分野	5,070,000	日本学術振興会
胃癌腫瘍免疫微小環境における3次元シナプス構造の成熟機構の解明と抗体取得	掛地 吉弘	食道胃腸外科学分野	6,760,000	日本学術振興会
集中治療後症候群(PICS)の病態解明と脳内炎症制御に注目した治療戦略	井上 茂亮	災害・救急医学分野	5,980,000	日本学術振興会
NDBオープンデータを活用した多腺性自己免疫症候群の実態調査と診療適正化	高橋 健太郎	保健管理センター	1,430,000	日本学術振興会
変形性膝関節症患者に対する脂肪組織由来再生細胞移植の有効性・機序解明に関する研究	黒田 良祐	整形外科学分野	4,290,000	日本学術振興会
公的資金が投入されている医療の公共性と公共財としての在り方に関する研究	小林 大介	医療システム学分野 医療経済・病院経営学部門	5,590,000	日本学術振興会
腸内アミノ酸調整による腫瘍発生の回避とその機序の解明	星 奈美子	消化器内科学分野	5,590,000	日本学術振興会
核小体オルガネラゾーンにおけるストレス制御と癌の発症進展機構	鈴木 聡	分子細胞生物学分野	3,640,000	日本学術振興会
ヒト運動前野の超適応メカニズムの解明:皮質脳波からの電気的コネクティクス研究	松本 理器	脳神経内科学分野	3,120,000	日本学術振興会
内臓の非対称とその配置の非対称	本多 久夫	細胞生理学分野	780,000	日本学術振興会
去勢抵抗性前立腺癌のRa-223療法におけるNaF PET/MRの有用性検討	野上 宗伸	放射線診断学分野	520,000	日本学術振興会
頭頸部癌における骨髄由来抑制細胞とアデニン代謝	井之口 豪	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	1,170,000	日本学術振興会
治療抵抗性の改善と副作用の軽減を目指した革新的ながん治療法の開発応用	長谷川 巧実	口腔外科学分野	1,040,000	日本学術振興会
心臓性突然死の病態における炎症分子ペントラキシン3の関与と法医学実務への応用	高橋 玄倫	法医学分野	650,000	日本学術振興会
ヒトヘルペスウイルス6の宿主受容体認識を司るウイルス糖蛋白質複合体の構造解析	西村 光広	臨床ウイルス学分野	1,560,000	日本学術振興会
分子標的治療薬による間質性肺疾患の新規予防戦略の構築	山本 和宏	薬剤部	1,170,000	日本学術振興会
妊婦における適正使用を目指した新規抗てんかん薬の数理的モデル解析	矢野 育子	薬剤部	1,040,000	日本学術振興会
転写メディエーター複合体の転写制御機構の解明	今崎 剛	生体構造解剖学分野	1,170,000	日本学術振興会
交感神経に随伴するシュワン前駆細胞の他種細胞分化の検証とその分子基盤	伊藤 圭祐	神経分化・再生分野	1,040,000	日本学術振興会
細胞間シグナルを介したがん細胞の新たな免疫監視回避機構の解析	村田 陽二	シグナル統合学分野	1,170,000	日本学術振興会

小計 27件

(様式第3) 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
膵島の三次元構造形成・維持機構におけるEpc2/Rap1シグナルの役割の解明	高橋 晴美	分子代謝医学部門	1,300,000	日本学術振興会
脂肪性肝炎に対するBacteroides菌種の有効性の検討	矢野 嘉彦	感染病理学分野	910,000	日本学術振興会
大腸がんにおけるヒト内在性レトロウイルスの発現解析と機能解明	青井 三千代(小柳)	再生医療臨床応用実現化人材育成センター	910,000	日本学術振興会
非アルコール性脂肪性肝炎への進展に関わる腸管粘膜表層細菌の解析	酒井 新	消化器内科学分野	1,430,000	日本学術振興会
放射線照射後の腫瘍由来エクソソームに発現するPDL1を指標にした新規免疫治療戦略	原田 文	放射線腫瘍学分野	1,300,000	日本学術振興会
過酸化チタンナノ粒子を用いたTheranostic粒子線治療の開発	赤坂 浩亮	放射線腫瘍学分野	1,560,000	日本学術振興会
ヨードマップを用いた膵癌の線維性間質定量による悪性度および治療抵抗性の予測法確立	祖父江 慶太郎	放射線診断学分野	650,000	日本学術振興会
血流・組織解析CTによる肝細胞癌分子標的療法の治療効果および肝不全予測法の確立	村上 卓道	放射線診断学分野	1,040,000	日本学術振興会
腸内環境の修飾による大腸癌予防法の開発	大井 充	消化器内科学分野	910,000	日本学術振興会
膵癌における腸内細菌叢を介した腫瘍免疫機構の解明	増田 充弘	消化器内科学分野	1,300,000	日本学術振興会
自己免疫性膵炎の病態形成における腸内細菌の役割	井上 潤	消化器内科学分野	1,430,000	日本学術振興会
多面的な作用をもつHDLと細胞とのインタラクションの解明	入野 康宏	立証検査医学分野	1,300,000	日本学術振興会
がん治療関連心機能障害の早期診断・予防法の構築	田中 秀和	循環器内科学分野	1,300,000	日本学術振興会
新規生体イメージングモデルを用いたJCADによる血栓形成制御機構の解明	川合 宏哉	循環器内科学分野	1,430,000	日本学術振興会
JCAD/KIAA1462のCOPDにおける役割の解明と治療法の開発	山本 正嗣	呼吸器内科学分野	1,560,000	日本学術振興会
遺伝性腎疾患におけるスプライシング異常発症機序の解明および新規治療法の開発	野津 寛大	小児科学分野	910,000	日本学術振興会
紫外線による多段階皮膚発癌における網羅的遺伝子解析	国定 充	皮膚科学分野	650,000	日本学術振興会
関節リウマチ特異的ノンコーディングRNA相互作用に関する研究	河野 誠司	医学教育学分野医学教育学部門	1,170,000	日本学術振興会
先天的インスリン抵抗症の原因遺伝子の探索と患者iPS細胞を用いた病態の解析	廣田 勇士	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,170,000	日本学術振興会
ACTH産生下垂体腺腫の浸潤性、増殖性と関連するCRNDの機能の解明	福岡 秀規	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,430,000	日本学術振興会
多房性脂肪細胞におけるオートファジーがエネルギー代謝を制御するメカニズムの解明	田守 義和	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,560,000	日本学術振興会
グルタミン酸シグナルによるインスリン開口分泌制御機構の解明	艾尼 吾甫尔江	分子代謝医学部門	1,430,000	日本学術振興会
臓器特異的な免疫記憶誘導に着目した新たな癌免疫療法の試み	山下 公大	食道胃腸外科学分野	1,040,000	日本学術振興会
脊髄虚血再灌流障害を予防、回避するための脳脊髄液中のバイオマーカーの同定	山中 勝弘	心臓血管外科学分野	1,040,000	日本学術振興会
癌細胞株と3次元in vitroモデルを応用した浸潤における候補遺伝子の解明	土井 健史	呼吸器外科学分野	1,170,000	日本学術振興会
ICU-acquired weakness予防に最適な急性血糖管理の検討	江木 盛時	麻酔科学分野	1,430,000	日本学術振興会

小計 26件

(様式第3) 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
敗血症性脳症の発症メカニズム解明とIL-18をターゲットとした新規治療戦略	小谷 穰治	災害・救急医学分野	1,170,000	補	日本学術振興会
くも膜下出血に伴う脳血管攣縮の脳・髄液代謝変化のオミクスによる包括的解析	魚住 洋一	脳神経外科学分野	650,000	補	日本学術振興会
mTORC1を標的とした変形性関節症治療薬の開発	松下 雄彦	整形外科学分野	1,170,000	補	日本学術振興会
ホウ素中性子捕捉療法を用いた類上皮肉腫に対する新規治療方法の開発	藤本 卓也	整形外科学分野	1,560,000	補	日本学術振興会
抗酸化物質を用いた肩腱板変性断裂に対する予防的治療の開発	美舩 泰	整形外科学分野	1,300,000	補	日本学術振興会
聴神経腫瘍のゲノム解析による腫瘍発生および増大メカニズムの解明	藤田 岳	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	1,170,000	補	日本学術振興会
血管・リンパ管新生に着眼した菌性感染症-顎骨髄炎移行メカニズム解明と治療法探索	明石 昌也	口腔外科学分野	1,300,000	補	日本学術振興会
心臓性急死における内皮関連分子のダイナミクス-トロポモジュリンを中心として-	近藤 武史	法医学分野	1,040,000	補	日本学術振興会
食物アレルギーの抗原同定と診断・治療法の開発	桂田 直子	呼吸器内科学分野	1,690,000	補	日本学術振興会
獣医療における過酸化チタンナノ粒子を用いた新規・高精度放射線増感療法の開発	長田 雅昭	放射線腫瘍学分野	1,690,000	補	日本学術振興会
ユビキチンリガーゼ活性を制御するmiRNAのパーキンソン病治療に対する有用性検証	大村 友博	薬剤部	1,170,000	補	日本学術振興会
社会ストレスによる樹状突起委縮を担う分子機序の解明とその制御法の確立	永井 裕崇	薬理学分野	1,430,000	補	日本学術振興会
プロテインキナーゼCシグナリングによるがん細胞の細胞死回避機構の解明	梶本 武利	生化学分野	1,300,000	補	日本学術振興会
ヒト染色体15q11-q13自閉症領域の責任遺伝子同定と病態メカニズムの解明	玉田 紘太	生理学分野	910,000	補	日本学術振興会
腸上皮細胞の寿命制御に関わる分子基盤の解明	小谷 武徳	シグナル統合学分野	1,170,000	補	日本学術振興会
膝腫瘍形成最初期におけるDNA脱メチル化制御の破綻とその分子機序の解明	藤倉 航平	病理診断学分野	1,300,000	補	日本学術振興会
ヒトマウスを用いたヒト骨髄由来細胞/食道扁平上皮癌細胞相互作用の解析	横崎 宏	病理学分野	1,560,000	補	日本学術振興会
C型肝炎ウイルスによる脂肪滴肥大化維持の分子機構とウイルス学的意義の解明	勝二 郁夫	感染制御学分野	1,300,000	補	日本学術振興会
胸腺におけるHippo経路の機能	西尾 美希	分子細胞生物学分野	1,430,000	補	日本学術振興会
配列特異的翻訳抑制蛋白質によるHippo-YAP経路の制御	大谷 淳二	分子細胞生物学分野	1,430,000	補	日本学術振興会
「無細胞タンパク質合成系を用いた抗体作成」による免疫関連有害事象の病態解明	南 博信	腫瘍・血液内科学分野	1,430,000	補	日本学術振興会
免疫チェックポイント阻害剤による免疫関連有害事象の病態解明とバイオマーカーの探索	飛松 和俊	消化器内科学分野	1,300,000	補	日本学術振興会
microRNAを用いた生物学的Adaptive radiotherapyの検討	松尾 圭朗	放射線腫瘍学分野	1,690,000	補	日本学術振興会
3次元積層造形技術を用いた革新的な新規頭頸部放射線治療用固定具の研究開発	宮脇 大輔	放射線腫瘍学分野	1,820,000	補	日本学術振興会
小児・AYA世代の骨軟部肉腫に対する吸収性スパーサー併用陽子線治療の確立	出水 祐介	放射線腫瘍学分野	1,300,000	補	日本学術振興会
金属ナノ粒子を応用した新規・免疫放射線増感療法の開発	岡本 欣晃	放射線腫瘍学分野	1,560,000	補	日本学術振興会

小計 26件

(様式第3) 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
肝動脈塞栓術後のガン微小環境におけるマクロファージ極性制御に基づく新規治療戦略	上嶋 英介	放射線診断学分野	1,560,000	補	日本学術振興会
超高線量率スリットビームと金属ナノ粒子を併用した異次元・放射線治療法の開発	椋本 成俊	放射線腫瘍学分野	1,430,000	補	日本学術振興会
新生児敗血症に対するTrained immunity誘導に基づく新規治療法の開発	藤岡 一路	小児科学分野	1,560,000	補	日本学術振興会
「脳・心臓」ストレスと動脈硬化疾患：脂質代謝物解析が解き明かすそのメカニズム	篠原 正和	疫学分野	1,430,000	補	日本学術振興会
がん幹細胞と老化細胞を標的とした分子標的治療薬耐性の克服	立原 素子	呼吸器内科学分野	1,430,000	補	日本学術振興会
PLC ϵ を標的とした呼吸器疾患の新たな治療法の構築	永野 達也	呼吸器内科学分野	1,300,000	補	日本学術振興会
好塩基球をターゲットとした蕁麻疹の病態解明と創薬への応用	福永 淳	皮膚科学分野	1,430,000	補	日本学術振興会
2型糖尿病発症における膵 β 細胞でのmTORC1活性調節機構の解明	浅原 俊一郎	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,560,000	補	日本学術振興会
鉄キレート作用を介したホルモンによる新規耐糖能改善メカニズムの解明	菅原 健二	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,300,000	補	日本学術振興会
日本人2型糖尿病感受性遺伝子GCN2が膵 β 細胞機能に及ぼす影響に関する検討	木村 真希(小柳真希)	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,430,000	補	日本学術振興会
HPA軸における循環血液中microRNAの生理的・病理的意義の解明	山本 雅昭	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,040,000	補	日本学術振興会
高齢者の担癌状態におけるインターロイキン15による免疫賦活機序の解明	鈴木 知志	食道胃腸外科学分野	1,430,000	補	日本学術振興会
膠芽腫に対するアミノ酸代謝阻害併用ケトン食療法の基礎的研究	篠山 隆司	脳神経外科学分野	1,300,000	補	日本学術振興会
悪性グリオーマのグルタミン飢餓状態による一炭素代謝経路の調整と新規治療標的の探索	田中 一寛	脳神経外科学分野	1,170,000	補	日本学術振興会
アディポネクチンによる椎間板変性・炎症に対する治療法の開発	張 鍾穎	整形外科科学分野	910,000	補	日本学術振興会
徐放化抗がん剤と非金属脊椎インプラントを併用した新しい脊椎転移治療に関する研究	角谷 賢一郎	整形外科科学分野	1,430,000	補	日本学術振興会
ヒトIPS細胞由来テストステロン産生Leydig細胞の作製と臨床応用に関する実験	藤澤 正人	腎泌尿器科学分野	1,820,000	補	日本学術振興会
免疫抑制ネオセル化ペプチドワクチンによる膠原病、産科異常治療法の確立	笹川 勇樹	産科婦人科学分野	1,560,000	補	日本学術振興会
2光子顕微鏡による胎仔マイクログリアが仔の成長発達に及ぼす影響の解明	谷村 憲司	産科婦人科学分野	1,560,000	補	日本学術振興会
妊娠初期のプロテインS、プロテインC抗凝固因子の変動と産科異常との関連解析	出口 雅士	産科婦人科学分野	1,560,000	補	日本学術振興会
a β 2GPI/MHC class IIによる妊娠合併症の動物モデル作成と治療法開発	山田 秀人	産科婦人科学分野	1,560,000	補	日本学術振興会
miR-622内包人工エクソソームによる卵巣癌の浸潤・転移と微小環境制御	寺井 義人	産科婦人科学分野	1,690,000	補	日本学術振興会
母児間鉄代謝に関わる新規因子の解明	森岡 裕香	附属動物実験施設	1,430,000	補	日本学術振興会
鼻副鼻腔神経内分泌悪性腫瘍の遺伝子変化と免疫チェックポイント分子発現に関する研究	清田 尚臣	腫瘍・血液内科学分野	780,000	補	日本学術振興会
脈管奇形の悪化メカニズムを探る ～血管平滑筋を巡る分子制御機構の解明～	野村 正	形成外科学分野	1,300,000	補	日本学術振興会
新人看護師の成長に影響する「社会人基礎力」の検討と指導者に求められる能力の再構築	ウィリアムソン 彰子	看護部	520,000	補	日本学術振興会

小計 26件

(様式第3) 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
超音波トラッキングによるサルコペニアの横隔膜評価法開発:運動ニューロン減少の関与	関口 兼司	脳神経内科学分野	1,430,000	① 日本学術振興会 委
小児気道狭窄性疾患の評価のためのOCT(光干渉断層撮影)機器の開発	尾藤 祐子	小児外科学分野	1,560,000	① 日本学術振興会 委
地域創成まちづくり事業を活用した医療の枠組みを超えた地域医療教育の検証	岡山 雅信	医学教育学分野地域医療教育学部門	1,820,000	① 日本学術振興会 委
アドバンスケアプランニングのきっかけとして予後予測が役立つか?ランダム化比較試験	木澤 義之	緩和支援治療科	2,340,000	① 日本学術振興会 委
PTENを標的とする健康長寿薬の開発	鈴木 聡	分子細胞生物学分野	3,250,000	① 日本学術振興会 委
疾患変異を修復された内在性幹細胞の組織再建能の検証	榎本 秀樹	神経分化・再生分野	2,600,000	① 日本学術振興会 委
ヒト化マウスを用いた新規リンパ腫PDXモデルの開発	齊藤 泰之	シグナル統合学分野	3,250,000	① 日本学術振興会 委
自己血T細胞とpH反応溶解カプセルでナノ粒子を輸送するケミカル免疫がん治療の開発	佐々木 良平	放射線腫瘍学分野	2,080,000	① 日本学術振興会 委
腸内細菌の外膜小胞を利用した疾患治療法の開発研究	山下 智也	循環器内科学分野	2,600,000	① 日本学術振興会 委
4D-CT画像加算処理技術を用いた造影剤80%減量CTAの臨床応用	堀之内 宏樹	放射線診断学分野	390,000	① 日本学術振興会 委
NF-κB経路の抑制に着目した敗血症性筋萎縮の新規薬物治療	大野 雄康	災害・救急医学分野	390,000	① 日本学術振興会 委
Kinematical alignment TKAのバイオメカニクスの検討	高山 孝治	整形外科学分野	910,000	① 日本学術振興会 委
SACLA及びNMRを駆使した抗がん剤設計のためのRasタンパク質の動的構造解析	榎野 義輝	シグナル伝達医学研究展開センター	1,040,000	① 日本学術振興会 委
イブプロフェン含嗽剤の作用時間の持続と使用時の刺激感の減少を目指した製剤化研究	五百蔵 武士	薬剤部	780,000	① 日本学術振興会 委
大腸癌における接着因子NCAMと腫瘍関連マクロファージとの相互作用解析機構の解明	高瀬 信尚	食道胃腸外科学分野	780,000	① 日本学術振興会 委
バーチャルリアリティを用いたマウス社会性行動の感覚モダリティ解析	中井 信裕	生理学分野	130,000	① 日本学術振興会 委
超低侵襲を可能にする新規の体液診断マーカーを併用した放射線治療の開発	川口 弘毅	放射線腫瘍学分野	1,560,000	① 日本学術振興会 委
急性腸管虚血症に対するインドシアニングリーン動注による腸管血流評価の有効性の検討	佐々木 康二	放射線診断学分野	1,560,000	① 日本学術振興会 委
深層学習を用いた胸部単断X線写真の自動診断と医師への読影支援	西尾 瑞徳	放射線診断学分野	780,000	① 日本学術振興会 委
重症虚血肢に対する低酸素環境の改善を目的とした新規炭酸ガス療法の開発	元津 倫幸	放射線診断学分野	390,000	① 日本学術振興会 委
スプライシング修正による日本人ガラクトシリアドローシスの新規治療法の開発	坊 亮輔	小児科学分野	1,560,000	① 日本学術振興会 委
神経芽腫がん幹細胞マーカーALDH1A2によるがん微小環境の制御の解明	植村 優	小児科学分野	1,300,000	① 日本学術振興会 委
ヒト胎盤の網羅的DNAメチル化解析による胎児発育不全の責任遺伝子の同定	芦名 満理子	小児科学分野	1,040,000	① 日本学術振興会 委
神経芽腫のがん微小環境制御におけるEvi5の役割に関する研究	高藤 哲	小児科学分野	1,170,000	① 日本学術振興会 委
Duchenne型筋ジストロフィーの心機能障害におけるアクチニン3多型の病態解明	永井 正志	小児科学分野	260,000	① 日本学術振興会 委
アトピー性皮膚炎の治療過程における好塩基球の動態の解明	鷲尾 健	皮膚科学分野	910,000	① 日本学術振興会 委

小計 26件

(様式第3) 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元又は委託元	補助元又は委託元
免疫担当細胞の細胞代謝を利用した自己免疫疾患の新規治療	岡野 隆一	膠原病リウマチ内科	1,430,000	① 委	日本学術振興会
レジデントメモリー誘導機構を用いた直腸癌新規術前療法の開発	福岡 英志	食道胃腸外科学分野	1,690,000	① 委	日本学術振興会
CTと術中動画をを用いた膝上緑リンパ節郭清シミュレーションモデルの開発	山崎 悠太	食道胃腸外科学分野	780,000	① 委	日本学術振興会
新たな亜型分類に基づく肺高悪性度神経内分泌癌の新規予後マーカー探索と個別化治療確立	神保 直江	病理診断学分野	520,000	① 委	日本学術振興会
意識を可視化する～周術期安静時 pharmacological fMRIによる研究	若林 潤二	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	1,560,000	① 委	日本学術振興会
炎症とミトコンドリア機能障害のクロストークに着目した急性脳症の包括的病態解明	富岡 和美	小児科学分野	1,300,000	① 委	日本学術振興会
成長因子GDF6の椎間板における役割の解明と椎間板変性に対する治療アプローチ	宮崎 真吾	整形外科科学分野	1,040,000	① 委	日本学術振興会
メニエール病における抗利尿ホルモンによるアクアポリン2の細胞内局在に関する研究	上原 奈津美	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	1,300,000	① 委	日本学術振興会
創傷治療能力とミトコンドリア機能に着目した新規創傷治療法の開発	齊藤 泉	口腔外科学分野	1,040,000	① 委	日本学術振興会
M1マクロファージに着目した口腔扁平上皮癌の新規予防法・病理診断法の開発	重岡 学	病理学分野	1,430,000	① 委	日本学術振興会
合成糖摂取により誘導される動脈硬化での脂質代謝の役割の解明	森 健太	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,170,000	① 委	日本学術振興会
炎症・セロトニン・体内時計の生理的共役を基盤とした発達障害の病態解明	今村 聖路	生理学分野	1,950,000	① 委	日本学術振興会
間葉系幹細胞による癌悪性化に関するシグナルネットワーク機構の解明	瀧口 豪介	食道胃腸外科学分野	650,000	① 委	日本学術振興会
がん骨転移を引き起こすmicroRNAの探索とliquid biopsyへの応用	川上 洋平	整形外科科学分野	1,430,000	① 委	日本学術振興会
Establishment of Global Gold Standard about radiotherapy adaptation criteria in patients with lung cancer using pulmonary quantification by Xenon CT	石原 武明	放射線診断学分野	1,690,000	① 委	日本学術振興会
慢性心不全患者における緩和ケアのアンメットニーズの探索および介入方法の開発	松沼 亮	緩和と支持治療科	1,560,000	① 委	日本学術振興会
ヒト脳における電気生理学的コネクタムの構築と神経疾患へのグラフ理論的アプローチ	十河 正弥	脳神経内科学分野	1,170,000	① 委	日本学術振興会
EOB造影MRI T1 mapを用いた線維性間質定量画像による肺癌の悪性度予測	山口 尊	放射線診断学分野	1,300,000	① 委	日本学術振興会
エクソソームを利用した過酸化チタンナノ粒子による新規放射線増感療法のための基礎的検討	岩下 和真	放射線腫瘍学分野	1,170,000	① 委	日本学術振興会
PET-MRIを利用した心臓サルコイドーシスの活動性定量評価	渡邊 慶明	放射線診断学分野	1,300,000	① 委	日本学術振興会
MRIを用いた深層学習による胸部領域のPET吸収補正法の開発	曾 菲比	放射線診断学分野	130,000	① 委	日本学術振興会
深部膿瘍に対するNon-thermal ablationを用いた新規治療の開発	辻田 有志	放射線診断学分野	1,300,000	① 委	日本学術振興会
自己血T細胞エクソソームを用いた新規免疫放射線療法の開発	窪田 光	放射線腫瘍学分野	2,470,000	① 委	日本学術振興会
生後早期の敗血症が獲得免疫機構の発達に及ぼす影響の解明とその治療戦略	大山 正平	小児科学分野	2,080,000	① 委	日本学術振興会
気管切開児における下気道細菌感染症の臨床的・血液学的特徴の解明	南川 将吾	小児科学分野	1,300,000	① 委	日本学術振興会
小児ネフローゼ症候群とHLA class IIに関する病態解明研究	堀之内 智子	小児科学分野	1,820,000	① 委	日本学術振興会

小計 26件

(様式第3) 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
アンチセンス核酸によるPHOX2B (+7Ala mutant)の発現抑制	福嶋 祥代	小児科学分野	1,560,000	補	日本学術振興会
潰瘍性大腸炎におけるアミノ酸とアミノ酸トランスポーターの役割の検討	具 潤亜	消化器内科学分野	1,040,000	補	日本学術振興会
膵臓正常組織に蓄積した遺伝子変異解析による膵癌発症のメカニズムの解明	池川 卓哉	消化器内科学分野	1,040,000	補	日本学術振興会
iPS細胞由来胃オルガノイドによる粘膜筋板形成及び破綻のメカニズム	上原 慶一郎	病理診断学分野	1,560,000	補	日本学術振興会
糖尿病性心筋症における早期診断バイオマーカーと治療法の確立	長尾 学	立証検査医学分野	1,430,000	補	日本学術振興会
骨髄をターゲットとした新たな動脈硬化予防法の開発	江本 拓央	循環器内科学分野	2,340,000	補	日本学術振興会
COPDにおけるエンドセリンの役割の解明	梅澤 佳乃子	呼吸器内科学分野	1,040,000	補	日本学術振興会
レニンアンギオテンシン系に着目した先天性腎尿路異常の腎障害進展機序の解明	石森 真吾	小児科学分野	1,430,000	補	日本学術振興会
小児IgA腎症における肉眼的血尿による急性腎障害、CKD進展メカニズムの解明	藤村 順也	小児科学分野	520,000	補	日本学術振興会
エピゲノム制御による小胞体ストレス応答を介する薬剤耐性獲得に着目した新規がん治療	福本 毅	皮膚科学分野	2,210,000	補	日本学術振興会
包括的脂質メディエーター解析による関節リウマチの新規バイオマーカーの探索	明石 健吾	膠原病リウマチ内科	1,300,000	補	日本学術振興会
褐色脂肪細胞の多房性脂肪滴蓄積形態が制御するエネルギー代謝調節機構の解明	西本 祐希	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,950,000	補	日本学術振興会
消化管を介するメホルミンの新規作用機序の解明	駒田 久子	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	2,210,000	補	日本学術振興会
骨格筋量制御におけるカルシウム依存性シグナルの解析	平田 悠	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	2,080,000	補	日本学術振興会
SGLT2阻害薬による膵β細胞保護効果機序の解明	神野 歩	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,820,000	補	日本学術振興会
触覚センサーを有する手術支援ロボット用鉗子の開発	堀川 学	食道胃腸外科学分野	520,000	補	日本学術振興会
アロ反応が引き起こす抗腫瘍応答増強を利用した新規癌治療の開発	渡部 晃大	食道胃腸外科学分野	1,170,000	補	日本学術振興会
抗PD-1抗体耐性機構に着目したNKT細胞活性化ベクターを用いた新規腹腔播種治療	杉田 裕	食道胃腸外科学分野	2,470,000	補	日本学術振興会
直腸癌術前化学放射線療法後の腫瘍免疫微小環境の解明	阿河 杏介	食道胃腸外科学分野	1,040,000	補	日本学術振興会
食道癌における腫瘍関連マクロファージによる化学療法耐性機構の解明と克服	裏川 直樹	食道胃腸外科学分野	1,430,000	補	日本学術振興会
内分泌細胞由来大腸癌に対する新規治療法の探索	向山 順子	食道胃腸外科学分野	1,430,000	補	日本学術振興会
心臓大血管手術患者における溶血関連臓器障害の予防手段の確立を目指して	法華 真衣	麻酔科学分野	1,300,000	補	日本学術振興会
脊髄刺激療法が有効な患者における安静時脳機能的結合の解明	本山 泰士	麻酔科学分野	780,000	補	日本学術振興会
疼痛の慢性化に関与する視床-高次脳領域の神経回路基盤の病態解明	岡田 卓也	麻酔科学分野	1,040,000	補	日本学術振興会
小児がんに対する麻酔薬の選択が予後および免疫機能へ与える影響	大井 まゆ	麻酔科学分野	650,000	補	日本学術振興会
慢性高血糖マウスのインスリン抵抗性と好中球機能からみた新しい術前血糖管理法の開発	上野 喬平	麻酔科学分野	1,040,000	補	日本学術振興会

小計 26件

(様式第3) 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
救急外来からの連続的な脳波データを活用した非けいれん性発作の神経傷害機構の解明	山口 宏	小児科学分野	1,560,000	① 日本学術振興会 委
急性脳主幹動脈閉塞血管内再開通療法における術中評価法と最適な治療手技戦略の開発	今堀 太一郎	脳神経外科学分野	1,080,000	① 日本学術振興会 委
p21をターゲットとした関節リウマチにおける関節破壊の制御機能の解析	福田 康治	整形外科科学分野	1,560,000	① 日本学術振興会 委
前十字靭帯損傷膝における回旋不安定性の新たな定量的評価システムの開発と応用	長井 寛斗	整形外科科学分野	1,040,000	① 日本学術振興会 委
リキッドバイオプシーを用いた子宮内膜症進展・癌化の早期診断ツールの開発	高橋 良輔	産科婦人科学分野	1,170,000	① 日本学術振興会 委
頭頸部食道重複癌における共通遺伝子変異の網羅的解析	四宮 弘隆	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	3,510,000	① 日本学術振興会 委
血中マイクロRNA解析による唾液腺癌バイオマーカーの開発	手島 直則	耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	1,170,000	① 日本学術振興会 委
低細胞毒性の界面活性剤が有する細胞増生促進作用の研究	石田 泰久	形成外科学分野	520,000	① 日本学術振興会 委
口腔粘膜における光受容機序を探る～光受容タンパク質の作用～	楠元 順哉	口腔外科学分野	390,000	① 日本学術振興会 委
口腔癌における金属ナノ粒子と分子標的薬併用治療の有効性に関する研究	寛 康正	口腔外科学分野	780,000	① 日本学術振興会 委
骨吸収抑制薬関連顎骨壊死におけるバスツール処理を用いた新規骨再建法の開発	有本 智美	口腔外科学分野	1,040,000	① 日本学術振興会 委
がん悪液質に着目した口腔がん新規治療法の検討	武田 大介	口腔外科学分野	650,000	① 日本学術振興会 委
心臓手術前のHMB投与による、周術期身体機能改善ならびに予後改善効果の検証	小川 真人	リハビリテーション部	390,000	① 日本学術振興会 委
α2タニサイトの構造・機能とネクチンの発現	清水 達太	病態シグナル学部門	1,430,000	① 日本学術振興会 委
超高線量率マイクロビームX線を用いた難治性腫瘍への新規がん治療法の開発	江本 裕樹	放射線腫瘍学分野	1,430,000	① 日本学術振興会 委
Ewing肉腫におけるdormant cellの同定とその特性の探索	竹森 俊幸	整形外科科学分野	1,430,000	① 日本学術振興会 委
新規アミロイドβペプチド制御因子GAL3BPによるアルツハイマー病治療法の開発	関 恒慶	災害・救急医学分野	1,430,000	① 日本学術振興会 委
生体成分類似材料コーティングによる安全性に優れた長期留置型尿管ステントの開発	梁 英敏	腎泌尿器科学分野	1,430,000	① 日本学術振興会 委
アジア文化に即したアドバンス・ケア・プランニング(ACP)の開発と有効性の検証	木澤 義之	緩和支援治療科	4,810,000	① 日本学術振興会 委
無機ナノ粒子表面へ抗体結合技術を用いた新規放射線増感療法国際共同開発	佐々木 良平	放射線腫瘍学分野	7,150,000	① 日本学術振興会 委
運動と不動化による筋量とエネルギー代謝の制御機構の解析	小川 渉	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	6,500,000	① 日本学術振興会 委
肺癌オルガノイドの樹立効率向上と臨床での実用化	眞庭 謙昌	呼吸器外科学分野	7,020,000	① 日本学術振興会 委
放射線性骨髄炎における新規治療法の開発	岩田 英治	口腔外科学分野	810,148	① 日本学術振興会 委
細胞移植を必要としない骨再生治療の創出-新規開発骨誘導型コラーゲンを用いた挑戦	深瀬 直政	整形外科科学分野	1,820,000	① 日本学術振興会 委
アストロサイトの細胞間接着分子による神経回路の維持と破綻の制御機構	宮田 宗明	病態シグナル学部門	1,300,000	① 日本学術振興会 委
KIAA1462/JCADを標的としたARDSの革新的治療法の開発	小林 和幸	医療の質・安全管理部	1,300,000	① 日本学術振興会 委

小計 26件

(様式第3) 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
B型肝炎ウイルスRNAの分解に関わる新規Nrf2-Prdx1経路の解析	デン リン	感染制御学分野	1,950,000	補 委	日本学術振興会
終末期患者のQOL向上を目指した呼吸困難治療アルゴリズム作成に関する研究	山口 崇	緩和支援治療科	4,810,000	補 委	日本学術振興会
DKK1/CKAP4シグナルを標的とした肝細胞癌に対する新規抗がん治療の開発	権 英寿	肝胆膵外科学分野	910,000	補 委	日本学術振興会
門脈血流・肝機能定量MRIによる分離門脈血流・肝機能評価の検討	小松 昇平	肝胆膵外科学分野	1,300,000	補 委	日本学術振興会
軟組織接着性タンパク質の接着力向上と中心静脈ポート固定への応用	柳本 泰明	肝胆膵外科学分野	1,560,000	補 委	日本学術振興会
ハイパースペクトルカメラを用いた次世代肝胆膵外科手術ナビゲーションシステムの確立	浦出 剛史	肝胆膵外科学分野	4,550,000	補 委	日本学術振興会
膵頭十二指腸切除後の脂質吸収と脂質代謝異常の解明	南野 佳英	肝胆膵外科学分野	3,120,000	補 委	日本学術振興会
乳酸シヤトル概念に基づく網膜・視神経変性疾患の病態解明と治療法の探索	中村 誠	眼科学分野	1,560,000	補 委	日本学術振興会
糖尿病網膜神経変性におけるアクアポリン9の役割の解明	楠原 仙太郎	眼科学分野	1,430,000	補 委	日本学術振興会
網膜内に析出するフィブリノーゲンに着目した糖尿病黄斑浮腫の病態解明	今井 尚徳	眼科学分野	910,000	補 委	日本学術振興会
疾患iPS細胞を用いたLeber遺伝性視神経症の病態研究	上田 香織	眼科学分野	1,950,000	補 委	日本学術振興会
プラスミドベクターを用いた抗菌ペプチドの局所導入と創傷治療への応用	榊原 俊介	形成外科学分野	780,000	補 委	日本学術振興会
造血幹前駆細胞の時空間的移動ダイナミズムの解明と制御	片山 義雄	血液内科学分野	6,630,000	補 委	日本学術振興会
iPS技術を用いた縦隔原発肉腫に対する個別化精密医療の確立	田中 雄悟	呼吸器外科学分野	1,430,000	補 委	日本学術振興会
CD47-SIRP α 結合阻害特殊環状ペプチドによる革新的免疫療法の開発	羽間 大祐	呼吸器内科学分野	1,430,000	補 委	日本学術振興会
プロバイオティクスによる非結核性抗酸菌症の治療	桂田 雅大	呼吸器内科学分野	1,040,000	補 委	日本学術振興会
環境因子による細胞内シグナル増強と腫瘍悪化についての相関の解明	榊原 晶子	口腔外科学分野	1,690,000	補 委	日本学術振興会
統合オミックス解析による口腔がん制御機構の解明と創薬標的の網羅的探索	木本 明	口腔外科学分野	1,690,000	補 委	日本学術振興会
生体に害の少ない口腔癌に有効な新規抗がん剤候補分子の探索	村木 友美	口腔外科学分野	1,040,000	補 委	日本学術振興会
敗血症性脳症とそれに伴う精神疾患の発症機序解明と制御性T細胞に着目した治療戦略	齋藤 雅史	災害・救急医学分野	2,080,000	補 委	日本学術振興会
Ror1-Rifシグナルによる血管擬態メカニズムの解明	紙崎 孝基	細胞生理学分野	1,560,000	補 委	日本学術振興会
先天性トキソプラズマ感染症におけるベア型レセプターを介した免疫逃避機構の解明	内田 明子	産科婦人科学分野	1,560,000	補 委	日本学術振興会
甲状腺高分化癌の未分化形質獲得機構の解明及び新規バイオマーカーの検討	稲瀬 安希	バイオリソース研究・開発推進学分野	2,600,000	補 委	日本学術振興会
冠動脈プラーク内部に発生する応力評価を用いた高リスクプラーク同定の試み	大竹 寛雅	循環器内科学分野	1,040,000	補 委	日本学術振興会
血管老化に着目した慢性血栓性肺高血圧症における血栓器質化機序の解明	谷口 悠	循環器内科学分野	2,080,000	補 委	日本学術振興会
心不全におけるグルタミン代謝制御機構の解明と新規治療戦略の構築	小林 成美	循環器内科学分野	1,430,000	補 委	日本学術振興会

小計 26件

(様式第3) 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元又は委託元	補助元又は委託元
Lowe症候群およびDent disease-2の発症機序の解明と新規治療開発	榎原 菜々	小児科学分野	1,690,000	補 委	日本学術振興会
新生児における光線療法によるDNA損傷機序の解明および新規新生児黄疸治療法の開発	阿部 真也	小児科学分野	1,430,000	補 委	日本学術振興会
内皮型一酸化窒素合成酵素に着目した下痢関連溶血性尿毒症症候群の病態解明研究	忍頂寺 毅史	小児科学分野	1,300,000	補 委	日本学術振興会
脳波・炎症マーカー・脳血流の解析によるAESD発症早期の病態・発症トリガーの解明	永瀬 裕朗	小児科学分野	1,560,000	補 委	日本学術振興会
プロバイオティクス投与による下気道細菌叢への影響に関する研究	富岡 雄一郎	小児外科学分野	780,000	補 委	日本学術振興会
B型・C型肝炎ウイルスの遺伝子変化の特徴と病態との関連性の解明	上田 佳秀	消化器内科学分野	1,300,000	補 委	日本学術振興会
発達過程におけるPSD構成因子の変化とシナプス構築の関係	貝塚 剛志	生理学分野	1,170,000	補 委	日本学術振興会
肝癌増殖に関わるアミノ酸同定とアミノ酸トランスポーターを介した肝癌抑制効果の検討	林 宏樹	消化器内科学分野	1,820,000	補 委	日本学術振興会
レジスタントスターチによる腸内環境の改善と脂肪肝抑制効果の検討	畑澤 友里	消化器内科学分野	1,560,000	補 委	日本学術振興会
切除可能進行胃癌患者に対する術前化学療法における免疫活性性バイオマーカーの開発	松田 佳子	食道胃腸外科学分野	1,560,000	補 委	日本学術振興会
腹腔鏡下手術におけるAIを用いた自動追尾カメラシステムの開発	金治 新悟	食道胃腸外科学分野	1,820,000	補 委	日本学術振興会
Wntシグナルに基づく新たな直腸癌化学放射線免疫複合療法の試み	古出 隆大	食道胃腸外科学分野	1,300,000	補 委	日本学術振興会
濾胞ヘルパーT細胞生物学に着目した養子免疫療法の開発	永田 真知子	食道胃腸外科学分野	3,250,000	補 委	日本学術振興会
遠隔臓器におけるNK細胞抑制メカニズムに基づく転移制御治療の開発	長谷川 寛	食道胃腸外科学分野	2,080,000	補 委	日本学術振興会
涙を用いた大腸癌術後再発早期検出法の開発とその応用	松田 武	食道胃腸外科学分野	1,560,000	補 委	日本学術振興会
胸腹部大動脈術後脊髄再灌流障害の新たな細胞障害機序の解明と治療法の開発	中井 秀和	心臓血管外科学分野	1,560,000	補 委	日本学術振興会
放射光位相差X線CT法による心構造疾患群の構造解析に関する研究	築部 卓郎	心臓血管外科学分野	2,470,000	補 委	日本学術振興会
シュワン細胞による腸管神経系の再形成の誘導	上坂 敏弘	神経分化・再生分野	1,690,000	補 委	日本学術振興会
細胞外小胞に着目した膠原病の新規診断法および治療法の開発	三枝 淳	腎臓・免疫内科学分野	1,040,000	補 委	日本学術振興会
人工骨肉腫幹細胞を用いた骨肉腫新規治療の開発	河本 旭哉	整形外科分野	1,170,000	補 委	日本学術振興会
炭酸ガスを利用したロコモティブシンドロームに対する新たな予防・治療法の開発	福井 友章	整形外科分野	910,000	補 委	日本学術振興会
KLF15発現制御による変形性関節症に対する治療への挑戦	林 申也	整形外科分野	1,690,000	補 委	日本学術振興会
mTORC1制御による椎間板変性遺伝子・薬物治療法の開発	由留部 崇	整形外科分野	1,690,000	補 委	日本学術振興会
mTOR阻害薬テムシロリムスによる椎間板変性に対する治療アプローチ	垣内 裕司	整形外科分野	1,430,000	補 委	日本学術振興会
トキソプラズマ寄生胞膜の破壊を先導するIRGB6とGBPの分子構造と機能の解析	西條 由見子(濱野由見子)	生体構造解剖学分野	1,430,000	補 委	日本学術振興会
クロマチンモデリングから解き明かす造血幹細胞のエピジェネティクス制御	仁田 英里子	生体構造解剖学分野	1,690,000	補 委	日本学術振興会

小計 26件

(様式第3) 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
精神疾患のヒトES細胞モデルを用いたマルチスケール解析	内匠 透	生理学分野	3,900,000	① 日本学術振興会 委
神経回路可視化と光操作による薬物依存形成脳内機構の解明	橘 吉寿	生理学分野	8,450,000	① 日本学術振興会 委
脊髄小脳変性症でのPKCリン酸化を介した神経保護機構の解明と新規治療法への応用	白藤 俊彦	生理学分野	1,820,000	① 日本学術振興会 委
脳内全細胞を対象とした自閉症・統合失調症の新規創薬ターゲットの同定	野村 淳	生理学分野	1,040,000	① 日本学術振興会 委
MIFに着目した低酸素暴露と統合失調症を結び分子メカニズムの解明	岡崎 賢志	精神医学分野	1,950,000	① 日本学術振興会 委
ゲノム・エピゲノムデータを用いた若年自殺リスクのバイオマーカー開発	大塚 郁夫	精神医学分野	2,470,000	① 日本学術振興会 委
運動で活性化され、加齢で減弱する骨格筋リモデリングプロセスのメカニズム	野村 和弘	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,170,000	① 日本学術振興会 委
CGM数理解析による血糖域指標推定プロトコルの開発	松岡 敦子	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	2,340,000	① 日本学術振興会 委
母体内環境因子による下垂体形成異常の解明	坂東 弘教	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	2,080,000	① 日本学術振興会 委
ヒト大腸における外ホルモンのグルコース排泄機構の解明	坂口 一彦	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	910,000	① 日本学術振興会 委
脂肪組織の健康的増大機構の解析	細川 友誠	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	2,340,000	① 日本学術振興会 委
がん早期診断における涙液エクソソームの有用性の検討	犬伏 祥子	乳腺内分泌外科学分野	1,690,000	① 日本学術振興会 委
涙液を用いた新しい乳癌早期診断法の確立	國久 智成	乳腺内分泌外科学分野	1,170,000	① 日本学術振興会 委
ケトン食による免疫原性亢進と免疫チェックポイント阻害剤による新たな膠芽腫治療戦略	堀 達雄	脳神経外科学分野	2,600,000	① 日本学術振興会 委
悪性神経膠腫に対するPARGを標的とした新規治療法の開発と効果予測因子の探索	長嶋 宏明	脳神経外科学分野	1,820,000	① 日本学術振興会 委
AI機械学習でつくる頭部外傷の個別化医療のための新しい重症度指標	松尾 和哉	脳神経外科学分野	1,430,000	① 日本学術振興会 委
疾患モデル-臨床検体-データベースを用いたGAL3BPアルツハイマー病治療法開発	関 恒慶	災害・救急医学分野	910,000	① 日本学術振興会 委
頭部血管肉腫患者の血漿におけるメタボロミクス解析と腫瘍増殖機序の解明	神保 晴紀	皮膚科学分野	2,080,000	① 日本学術振興会 委
青色光による毛周期制御の解明	原岡 剛一	美容外科	910,000	① 日本学術振興会 委
細胞接着分子と膜受容体が制御するがん細胞の増殖と停止、その再開のスイッチ機構	慶田城 迅	病態シグナル学部門	1,560,000	① 日本学術振興会 委
視床下部タニサイトにおけるネクチン1によるグルコース濃度の感知制御機構	清水 達太	病態シグナル学部門	2,730,000	① 日本学術振興会 委
ヒトiPS細胞を用いた自己免疫性下垂体疾患の病態解明	井口 元三	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,430,000	① 日本学術振興会 委
過酸化チタンナノ粒子と腫瘍標的エクソソームで運搬する新規免疫放射線増感療法の開発	西村 英輝	放射線腫瘍学分野	1,300,000	① 日本学術振興会 委
粒子線治療用ヘリウムイオン(Helium Ion)CT画像システムの新規開発	王 天縁	放射線腫瘍学分野	2,470,000	① 日本学術振興会 委
細胞・細胞間の放射線応答を予測するエクソソーム由来miRNAの網羅的解析	小林 加奈	放射線腫瘍学分野	1,300,000	① 日本学術振興会 委
微小気泡を利用したナノ粒子放射線増感治療法の高効率化	中山 雅央	放射線腫瘍学分野	910,000	① 日本学術振興会 委

小計 26件

(様式第3) 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元	委託元
還元型コエンザイムQ10による心臓の放射線防護法の開発	清水 康之	放射線腫瘍学分野	2,470,000	補 委	日本学術振興会
高精度な定位放射線治療を実現する新たなリアルタイムインビボ線量測定システムの開発	矢田 隆一	放射線腫瘍学分野	3,120,000	補 委	日本学術振興会
3次元医用画像からの臓器自動抽出:人工知能が出力する確信度は精度改善に有用か?	堀 雅敏	放射線診断学分野	1,560,000	補 委	日本学術振興会
高空間・高時間分解能ダイナミックMRIによる新しい膀胱癌浸透度診断法の開発	上野 嘉子	放射線診断学分野	2,860,000	補 委	日本学術振興会
線維筋痛症におけるIgGを介した病態メカニズムの解明	野村 有紀	麻酔科学分野	1,560,000	補 委	日本学術振興会
帯状疱疹後神経痛におけるfunctional MRIによる脊髄刺激療法の効果予測	佐藤 仁昭	麻酔科学分野	780,000	補 委	日本学術振興会
術後の低活動型せん妄に対するカフェインの治療薬としての有効性の検討	藤本 大地	麻酔科学分野	2,080,000	補 委	日本学術振興会
小胞体の形態変化を起点とする代謝リプログラミングに関する研究	山本 泰憲	膜動態学分野	1,300,000	補 委	日本学術振興会
ユビキチン化反応によりERファジーが終結する分子機構	梶保 博昭	膜動態学分野	1,560,000	補 委	日本学術振興会
小胞体流動の分子メカニズムに関する研究	匂坂 敏朗	膜動態学分野	1,430,000	補 委	日本学術振興会
ミクログリアによる情動変容を担う脳内組織恒常性の維持とその破綻機構の解明	谷口 将之	薬理学分野	2,340,000	補 委	日本学術振興会
水痘帯状疱疹ウイルス潜伏感染・再活性化機構の解明	定岡 知彦	臨床ウイルス学分野	8,840,000	補 委	日本学術振興会
高頻脈ベレーシングを伴わない大動脈弁頻回拡張法開発のための非臨床研究	小西 明英	臨床研究推進センター	3,250,000	補 委	日本学術振興会
カボザンチニブの母集団薬物動態モデルを用いた個別化投与設計法の開発	伊藤 雄大	薬剤部	598,000	補 委	日本学術振興会
妊産婦への薬物治療WEB学習ツール開発と薬学部実務実習生への効果検証	藤原 尚子	薬剤部	546,000	補 委	日本学術振興会
早期新生児期の口腔内細菌数変化からマイクロバイオーーム構成を予測できるか	仲宗根 瑠花	小児科学分野	611,000	補 委	日本学術振興会
大学生の末梢血テロメア長を用いた若年自殺リスクマーカーの確立	毛利 健太郎	精神医学分野	1,690,000	補 委	日本学術振興会
癌抑制ドライバー経路の制御機構	鈴木 聡	分子細胞生物学分野	11,310,000	補 委	日本学術振興会
自然免疫制御によるがん細胞の生存・維持の分子基盤の解明	的崎 尚	シグナル統合学分野	18,070,000	補 委	日本学術振興会
心の健康を増進するレジリエンスの生物学的基盤の解明	古屋敷 智之	薬理学分野	9,100,000	補 委	日本学術振興会
自閉症ヒト脳オルガノイドの表現解析による病態の基礎的理解	内匠 透	生理学分野	15,340,000	補 委	日本学術振興会
こどもの呼吸の通り道～気道～を考えよう! こどもの気道検査と手術手技体験	尾藤 祐子	小児外科学分野	480,000	補 委	日本学術振興会
ICU入室患者の上下肢神経筋電気刺激療法:筋力、代謝、長期予後に与える影響	中西 信人	災害・救急医学分野	1,040,000	補 委	日本学術振興会
レジリエンスの新基礎医学的理解への挑戦	内匠 透	生理学分野	3,900,000	補 委	日本学術振興会
クライオ電子顕微鏡による細胞内分子構造解析法:微小管形成の場を原子レベルで捉える	仁田 亮	生体構造解剖学分野	3,250,000	補 委	日本学術振興会
多面的癌制御でBNCTの効果を飛躍的に向上に導く薬剤の基礎的研究	福光 延吉	放射線腫瘍学分野	3,510,000	補 委	日本学術振興会

小計 26件

(様式第3) 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
海馬-前帯状皮質間の空間記憶固定化におけるメモリープレイの役割解明	棒田 亜耶花	生理学分野	2,024,528	補 委 日本学術振興会
汗孔角化症の病態メカニズム解明を通じてヒト細胞競合の理解	久保 亮治	皮膚科学分野	5,850,000	補 委 日本学術振興会
成体臓の恒常性の維持および臓器形成におけるELF3の機能解明	西川 義浩	消化器内科学分野	2,529,980	補 委 日本学術振興会
視神経脊髄炎スペクトラム障害におけるB細胞制御機構の解明	赤谷 律	脳神経内科学分野	1,560,000	補 委 日本学術振興会
膵癌の化学療法感受性・予後予測のためのAI画像診断技術の開発	山田 恭孝	消化器内科学分野	1,560,000	補 委 日本学術振興会
自己免疫性下垂体疾患の発症メカニズム解明	蟹江 慶太郎	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,560,000	補 委 日本学術振興会
進行直腸癌の術前化学放射線治療前後における腸内細菌解析およびバイオマーカーの開発	向山 知佑	食道胃腸外科学分野	1,560,000	補 委 日本学術振興会
前立腺癌に対する超音波照射と免疫チェックポイント阻害薬の併用治療の検討	前田 光毅	腎泌尿器科学分野	1,430,000	補 委 日本学術振興会
クロススケール細胞内分子構造動態解析が解明する細胞骨格ネットワーク構築とその破綻	仁田 亮	生体構造解剖学分野	34,060,000	補 委 日本学術振興会
小児ネフローゼ症候群の国際GWASメタ解析と抗ネフリン抗体に関する国際共同研究	飯島 一誠	小児科学分野	7,670,000	補 委 日本学術振興会
先駆的解析法に基づく先天性下垂体機能低下症の病因解明と新規疾患概念の創出	坂東 弘教	糖尿病・内分泌・総合内科学分野	1,950,000	補 委 日本学術振興会

小計 11件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

計 452件

- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類
2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Gon Hidetoshi, Kido Masahiro, Tanaka Motofumi, et al.	肝胆膵外科	Laparoscopic Repeat Hepatectomy Is a More Favorable Treatment Than Open Repeat Hepatectomy for Contralateral Recurrent Hepatocellular Carcinoma Cases	Surgical endoscopy.2021Jun;35(6):2896 -2906	Article
2	Toyama Hirochika, Matsumoto Ippei, Mizumoto Takuya, et al.	肝胆膵外科	Influence of the Retrocolic Versus Antecolic Route for Alimentary Tract Reconstruction on Delayed Gastric Emptying After Pancreatoduodenectomy: A Multicenter, Noninferiority Randomized Controlled Trial	Annals of surgery.2021Dec 1;274(6):935-944	Article
3	Jun Ishida, Hirochika Toyama, Takumi Fukumoto, et al.	肝胆膵外科	Portal vein tumor thrombosis after pancreaticoduodenectomy : An extremely rare case of recurrence of pancreatic neuroendocrine neoplasm.	Journal of hepato-biliary- pancreatic sciences.2021.8;28(8):e36-e37	Case Report
4	Yuki Yasuhara, Shohei Komatsu, Kaori Kuramitsu, et al.	肝胆膵外科	Feasibility of Reductive Hepatectomy in Patients With BCLC B and C Hepatocellular Carcinoma.	Anticancer research.2021.4;41(4):1975- 1983	Article
5	Kaori Kuramitsu, Yoshihiko Yano, Shohei Komatsu, et al.	肝胆膵外科	Indication of Liver Transplantation in the Treatment of Newly Categorized Acute-on- Chronic Liver Failure In Japan.	Transplantation proceedings.2021.6;53(5):1611 -1615	Article
6	Shohei Komatsu, Yoshihiko Yano, Masahiro Kido, et al.	肝胆膵外科	Lenvatinib Rechallenge After Ramucirumab Treatment Failure for Hepatocellular Carcinoma.	Anticancer research.2021.9;41(9):4555- 4562	Article

計 6 件

7	Jun Ishida, Hirochika Toyama, Ippei Matsumoto, et al.	肝胆膵外科	Glucose Tolerance after Pancreatectomy: A Prospective Observational Follow-Up Study of Pancreaticoduodenectom y and Distal Pancreatectomy.	Journal of the American College of Surgeons.2021.9;233(6):753- 762	Article
8	Motofumi Tanaka, Shohei Komatsu, Masahiro Kido, et al.	肝胆膵外科	Salvage hepatectomy for local recurrence after particle therapy using proton and carbon ion beams for liver cancer.	Annals of gastroenterological surgery.2021.9;5(5):711-719	Article
9	Shohei Komatsu, Masahiro Kido, Kaori Kuramitsu, et al.	肝胆膵外科	Impact of Hepatectomy for Advanced Hepatocellular Carcinoma with Major Portal Vein Tumor Thrombus.	Journal of gastrointestinal surgery : official journal of the Society for Surgery of the Alimentary Tract.2021.10;26(4):822-830	Article
10	Satoshi Omiya, Shohei Komatsu, Masahiro Kido, et al.	肝胆膵外科	Impact of Sarcopenia as a Prognostic Factor on Reductive Hepatectomy for Advanced Hepatocellular Carcinoma.	Anticancer research.2021.11;41(11):5775- 5783	Article
11	Kaori Kuramitsu, Masahiro Kido, Shohei Komatsu, et al.	肝胆膵外科	Standardization of the Side-to-Side Cavo-Caval Anastomosis in Orthotopic Liver Transplantation Based on the Causal Analysis of Outflow Obstruction.	Transplantation proceedings.2021.10;53(10):29 34-2938	Article
12	Yu Hashimoto, Tetsuo Ajiki, Hiroaki Yanagimoto, et al.	肝胆膵外科	Risk factors for occult metastasis detected by inflammation-based prognostic scores and tumor markers in biliary tract cancer.	World journal of clinical cases.2021.11;9(32):9770-9782	Article
13	Shohei Komatsu, Yoshimi Fujishima, Masahiro Kido, et al.	肝胆膵外科	Significant response to atezolizumab plus bevacizumab treatment in unresectable hepatocellular carcinoma with major portal vein tumor thrombus: a case report.	BMC gastroenterology.2021.12;21(1) :470	Article

14	Riki Asakura, Hiroaki Yanagimoto, Tetsuo Ajiki, et al.	肝胆膵外科	Prognostic impact of inflammation-based scores for extrahepatic cholangiocarcinoma.	Digestive surgery.2022.1;39(2-3):65-74	Article
15	Yuta Ogura, Kazuki Terashima, Yoshihide Nanno, et al.	肝胆膵外科	Factors associated with long-term survival in gemcitabine-concurrent proton radiotherapy for non-metastatic locally advanced pancreatic cancer: a single-center retrospective study.	Radiation oncology (London, England).2022.2;17(1):32	Article
16	Shohei Komatsu, Yoshihiko Yano, Yoshimi Fujishima, et al.	肝胆膵外科	Current Role of Atezolizumab Plus Bevacizumab Therapy in the Sequential Treatment of Unresectable Hepatocellular Carcinoma.	Anticancer research.2022.3;42(3):1403-1412	Article
17	Takeshi Urade, Masahiro Kido, Takumi Fukumoto	肝胆膵外科	Can fluorescence imaging evaluate precise anatomic liver resection accurately?	Journal of hepato-biliary-pancreatic sciences.2022.2;29(5):e44-e55	Others
18	Yu Asakura, Hirochika Toyama, Jun Ishida, et al.	肝胆膵外科	Clinicopathological variables and risk factors for lung recurrence after resection of pancreatic ductal adenocarcinoma.	Asian journal of surgery.2022.3;S1015-9584(22):00285-8	Article
19	Hisanori Imai, Akira Tetsumoto, Hiroko Yamada, et al.	眼科	LONG-TERM EFFECT OF CYSTOTOMY WITH OR WITHOUT THE FIBRINOGEN CLOT REMOVAL FOR REFRACTORY CYSTOID MACULAR EDEMA SECONDARY TO DIABETIC RETINOPATHY.	Retina (Philadelphia, Pa.).2021.4;41(4):844-851	Article
20	Ryuto Nishisho, Sentaro Kusahara, Noriyuki Sotani, et al.	眼科	Changes in choroidal imaging parameters following adalimumab therapy for refractory noninfectious uveitis.	Graefe's archive for clinical and experimental ophthalmology = Albrecht von Graefes Archiv fur klinische und experimentelle Ophthalmologie.2021.5;259(5):1273-1280	Article

21	Mori S, Murai Y, Ueda K, et al.	眼科	Comparison of efficacy and early surgery-related complications between one-quadrant and two-quadrant microhook ab interno trabeculotomy: a propensity score matched study.	Acta Ophthalmologica.2021 Dec;99(8):898-903	Article
22	Mori S, Sotani N, Ueda K, et al.	眼科	Three-year outcome of sulcus fixation of Baerveldt glaucoma implant surgery.	Acta Ophthalmologica.2021 Dec;99(8):e1435-e1441	Article
23	Hiroko Yamada, Hisanori Imai, Akira Tetsumoto, et al.	眼科	Cystotomy with or without fibrinogen clot removal for refractory cystoid macular edema secondary to branch retinal vein occlusion.	Scientific reports.2021.4;11(1):8460	Article
24	Hitomi Maki, Sotaro Mori, Hisanori Imai, et al.	眼科	Autologous Scleral Pocket Technique for Ahmed Glaucoma Valve Implantation with Pars Plana Tube Insertion for Neovascular Glaucoma.	Journal of clinical medicine.2021.4;10(8):1606	Article
25	Taiyo Shijo, Yoichi Sakurada, Koji Tanaka, et al.	眼科	Drusenoid Pigment Epithelial Detachment: Genetic and Clinical Characteristics.	International journal of molecular sciences.2021.4;22(8):4074	Article
26	Sakai D, Matsumiya W, Kusuhara S, et al.	眼科	Factors associated with the development of ocular candidiasis and ocular prognosis with echinocandin therapy for candidemia.	Journal of Ophthalmic Inflammation and Infection.2021 Jun 14;11(1):17	Article
27	Sakai D, Imai H, Nakamura M.	眼科	Multiple intravitreal liposomal amphotericin B for a case of candida glabrata Endophthalmitis.	Case Reports in Ophthalmology.2021 Jun 11;12(2):485-491	Case Report

28	Ueda K, Kurimoto T, Takano F, et al.	眼科	Protocol to test the efficacy and safety of frequent applications of skin electrical stimulation for leber hereditary optic neuropathy: a single-arm, open-label, non-randomised prospective study.	BMJ Open.2021 Oct; 11(10):e048814	Article
29	Hiroko Yamada, Hisanori Imai, Akira Tetsumoto, et al.	眼科	The contribution of the proximity of the retinal detachment to the fovea for postoperative metamorphopsia after 27-gauge pars plana vitrectomy for the primary rhegmatogenous retinal detachment.	PloS one.2021 Oct 28;16(10):e0258775	Article
30	Murai Y, Mori S, Takano F, et al.	眼科	The beneficial impact of filtration surgery on antiviral therapy cessation in patients with cytomegalovirus-related secondary glaucoma.	BMC Ophthalmology.2021 Nov 8;21(1):389	Article
31	Kim KW, Kusuhara S, Imai H, et al.	眼科	Outcomes of Primary 27-gauge vitrectomy for 73 consecutive cases with uveitis-associated vitreoretinal disorders.	Frontiers in Medicine.2021 Oct 27;8:755816	Article
32	Akio Oishi, Kaoru Fujinami, Go Mawatari, et al.	眼科	Genetic and Phenotypic Landscape of PRPH2-Associated Retinal Dystrophy in Japan.	Genes.2021.11;12(11):1817	Article
33	Mori S, Tanito M, Shoji N, et al.	眼科	Noninferiority of Microhook to Trabectome: Trabectome versus Ab Interno Microhook Trabeculotomy Comparative Study (Tram Trac Study)	Ophthalmology Glaucoma.2021 Nov 25(オンライン)	Article
34	Ueda K, Nagai T, Chubachi A, et al.	眼科	Comparison of two cases of foveal laceration caused by a mower.	Case Reports in Ophthalmology.2021 Oct 14;12(3):848-853	Case Report

35	Okuda M, Mori S, Takano F, et al.	眼科	Association of the prolonged use of anti-glaucoma medications with the surgical failure of ab interno microhook trabeculotomy	Acta Ophthalmologica.2022 Jan 26. (オンライン)	Article
36	H Shinomiya, N Uehara, T Fujita, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	New proposal to revise the classification for squamous cell carcinoma of the external auditory canal and middle ear	The Journal of Laryngology & Otology.2021.4;135(4):297-303	Article
37	Hirota Shinomiya, Natsumi Uehara, Takeshi Fujita, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Phase I trial of concurrent chemoradiotherapy with docetaxel, cisplatin and 5-fluorouracil (TPF-CRT) for locally advanced squamous cell carcinoma of the external auditory canal.	European archives of oto-rhino-laryngology : official journal of the European Federation of Oto-Rhino-Laryngological Societies (EUFOS) : affiliated with the German Society for Oto-Rhino-Laryngology - Head and Neck Surgery.2021.7;279(6):2805-2810	Article
38	Natsumi Uehara, Takeshi Fujita, Daisuke Yamashita, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Genetic background in late-onset sensorineural hearing loss patients.	Journal of human genetics.2021.11;67(4):223-230	Article
39	Yu Takahashi, Takayoshi Toba, Hiromasa Otake, et al.	循環器内科	Feasibility of morphological assessment of coronary artery calcification with electrocardiography-gated non-contrast computed tomography: a comparative study with optical coherence tomography.	The international journal of cardiovascular imaging.2021.4;37(4):1445-1453	Article
40	Takayoshi Toba, Toshiro Shinke, Hiromasa Otake, et al.	循環器内科	Impact of the Antithrombotic Effects of Prasugrel on Mid-Term Vascular Healing in Acute Coronary Syndrome vs. Stable Coronary Artery Disease.	Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society.2021.5;85(6):808-816	Article
41	Hiroyuki Kawamori, Akihide Konishi, Toshiro Shinke, et al.	循環器内科	Efficacy of optical frequency domain imaging in detecting peripheral artery disease: the result of a multi-center, open-label, single-arm study.	Heart and vessels.2021.6;36(6):818-826	Article

42	Makiko Suzuki, Kensuke Matsumoto, Yusuke Tanaka, et al.	循環器内科	Preoperative coupling between right ventricle and pulmonary vasculature is an important determinant of residual symptoms after the closure of atrial septal defect.	The international journal of cardiovascular imaging.2021.5;37(10):2931-2941	Article
43	Takayoshi Toba, Hiroyuki Kawamori, Hiromasa Otake, et al.	循環器内科	Successful percutaneous balloon aortic valvuloplasty for worsening paravalvular leakage detected one week after the balloon expandable transcatheter aortic valve replacement.	Cardiovascular intervention and therapeutics.2021.6;37(2):417-419	Article
44	Kosuke Tanimura, Hiromasa Otake, Hiroyuki Kawamori, et al.	循環器内科	Morphological Plaque Characteristics and Clinical Outcomes in Patients With Acute Coronary Syndrome and a Cancer History.	Journal of the American Heart Association.2021.8;10(15):e020243	Article
45	Shinsuke Nakano, Hiromasa Otake, Hiroyuki Kawamori, et al.	循環器内科	Association Between Visit-to-Visit Variability in Low-Density Lipoprotein Cholesterol and Plaque Rupture That Leads to Acute Coronary Syndrome.	Circulation reports.2021.9;3(9):540-549	Article
46	Hiroshi Fujita, Takayoshi Toba, Keisuke Miwa, et al.	循環器内科	The impact of computed tomography-derived aortic atheroma volume on prognosis after transcatheter aortic valve replacement.	International journal of cardiology.2021.12;344(0):60-65	Article
47	Daisuke Tsuda, Shumpei Mori, Yu Izawa, et al.	循環器内科	Diversity and determinants of the sigmoid septum and its impact on morphology of the outflow tract as revealed using cardiac computed tomography.	Echocardiography (Mount Kisco, N.Y.).2022.2;39(2):248-259	Article
48	Masataka Suzuki, Yu Izawa, Takayoshi Toba, et al.	循環器内科	Late Iodine Enhancement and Extracellular Volume Fraction in Cardiac Amyloidosis by Computed Tomography.	Circulation reports.2022.3;4(3):145-146	Article

49	Nobuaki Ikezawa, Takashi Toyonaga, Shinwa Tanaka, et al.	消化器内科	Feasibility and Safety of Endoscopic Submucosal Dissection for Recurrent Rectal Lesions that after Transanal Endoscopic Microsurgery: A Case Series.	Digestion.2021;102(3):446-452	Article
50	Madoka Takao, Elif Bilgic, Pepa Kaneva, et al.	消化器内科	Development and validation of an endoscopic submucosal dissection video assessment tool.	Surgical endoscopy.2021.6;35(6):2671-2678	Article
51	Hirokazu Okada, Norimitsu Uza, Tomoaki Matsumori, et al.	消化器内科	A novel technique for mapping biopsy of bile duct cancer.	Endoscopy.2021.6;53(6):647-651	Article
52	Takeshi Kuwada, Masahiro Shiokawa, Yuzo Kodama, et al.	消化器内科	Identification of an Anti-Integrin $\alpha v \beta 6$ Autoantibody in Patients With Ulcerative Colitis.	Gastroenterology.2021.6;160(7):2383-2394	Article
53	Hassan Atalla, Hideyuki Shiomi, Ryota Nakano, et al.	消化器内科	EUS-guided cholecystoduodenostomy using novel dumbbell-shaped fully covered metal stent (with video).	Journal of hepato-biliary-pancreatic sciences.2021.5;28(5):e19-e20	Case Report
54	Jeska A Fritzsche, Paul Fockens, Marc Barthet, et al.	消化器内科	Expert consensus on endoscopic papillectomy using a Delphi process.	Gastrointestinal endoscopy.2021.10;94(4):760-773	Review
55	Tomoya Ogawa, Shomei Ryozaawa, Atsushi Irisawa, et al.	消化器内科	A Prospective Multicenter Randomized Feasibility Trial of Double-guidewire Techniques for Difficult Biliary Cannulation Comparing a New Double-guidewire-supported Sphincterotome (MagicTome) to a Conventional Device.	Internal medicine (Tokyo, Japan).2021.8;61(3):291-301	Article

56	Kei Matsumoto, Shinwa Tanaka, Takashi Toyonaga, et al.	消化器内科	Clinical Impact of Different Reconstruction Methods on Remnant Gastric Cancer at the Anastomotic Site after Distal Gastrectomy	Clinical Endoscopy.2021.8;55(1):86-94	Article
57	Takuya Kudo, Taro Oshikiri, Gosuke Takiguchi, et al.	食道胃腸外科	Three-dimensional visualization system is one of the factors that improve short-term outcomes after minimally invasive esophagectomy.	Langenbeck's archives of surgery.2021.5;406(3):631-639	Article
58	Sonoko Ishida, Masayuki Akita, Kohei Fujikura, et al.	食道胃腸外科	Neuroendocrine carcinoma and mixed neuroendocrine-non- neuroendocrine neoplasm of the stomach: a clinicopathological and exome sequencing study.	Human pathology.2021.4;110(0):1-10	Article
59	Yu Kitamura, Taro Oshikiri, Gosuke Takiguchi, et al.	食道胃腸外科	Impact of Lymph Node Ratio on Survival Outcome in Esophageal Squamous Cell Carcinoma After Minimally Invasive Esophagectomy.	Annals of surgical oncology.2021.8;28(8):4519- 4528	Article
60	Masataka Fujikawa, Yu-Ichiro Koma, Masayoshi Hosono, et al.	食道胃腸外科	Chemokine (C-C Motif) Ligand 1 Derived from Tumor-Associated Macrophages Contributes to Esophageal Squamous Cell Carcinoma Progression via CCR8- Mediated Akt/Proline- Rich Akt Substrate of 40 kDa/Mammalian Target of Rapamycin Pathway.	The American journal of pathology.2021.4;191(4):686- 703	Article
61	Taro Oshikiri, Gosuke Takiguchi, Naoki Urakawa, et al.	食道胃腸外科	Novel "Modified Bascule Method" for Lymphadenectomy Along the Left Recurrent Laryngeal Nerve During Robot-Assisted Minimally Invasive Esophagectomy.	Annals of surgical oncology.2021.9;28(9):4918- 4927	Article
62	Shuji Okamoto, Yasunori Otowa, Ryosuke Fujinaka, et al.	食道胃腸外科	Purse-string suture after ligating by endoloop for closing of the appendiceal stump is an alternative for endostapler in selected cases: A propensity score-matched study.	Asian journal of endoscopic surgery.2021.10;14(4):775-781	Article

63	Yutaka Sugita, Kimihiro Yamashita, Mitsugu Fujita, et al.	食道胃腸外科	CD244+ polymorphonuclear myeloid-derived suppressor cells reflect the status of peritoneal dissemination in a colon cancer mouse model.	Oncology reports.2021.6;45(6):106	Article
64	Yoshihisa Fujinami, Shigeaki Inoue, Yuko Ono, et al.	食道胃腸外科	Sepsis Induces Physical and Mental Impairments in a Mouse Model of Post-Intensive Care Syndrome.	Journal of clinical medicine.2021.4;10(8):1593-1593	Article
65	Taro Oshikiri, Hironobu Goto, Manabu Horikawa, et al.	食道胃腸外科	Incidence of Recurrent Laryngeal Nerve Palsy in Robot-Assisted Versus Conventional Minimally Invasive McKeown Esophagectomy in Prone Position: A Propensity Score-Matched Study.	Annals of surgical oncology.2021.11;28(12):7249-7257	Article
66	Masako Utsumi, Takeru Matsuda, Kimihiro Yamashita, et al.	食道胃腸外科	Short-term and long-term outcomes after laparoscopic surgery for elderly patients with colorectal cancer aged over 80 years: a propensity score matching analysis.	International journal of colorectal disease.2021.11;36(11):2519-2528	Article
67	Takeru Matsuda, Kimihiro Yamashita, Hiroshi Hasegawa, et al.	食道胃腸外科	Transperineal minimally invasive abdominoperineal resection for low rectal cancer: standardized technique and clinical outcomes.	Surgical endoscopy.2021.12;35(12):7236-7245	Article
68	Kohei Tanigawa, Shingo Kanaji, Ryuichiro Sawada, et al.	食道胃腸外科	Safety of laparoscopic local resection for gastrointestinal stromal tumors near the esophagogastric junction.	Surgery today.2021.7;52(3):395-400	Article
69	Kyosuke Agawa, Kimihiro Yamashita, Akio Nakagawa, et al.	食道胃腸外科	Simple Cancer Stem Cell Markers Predict Neoadjuvant Chemotherapy Resistance of Esophageal Squamous Cell Carcinoma.	Anticancer research.2021.8;41(8):4117-4126	Article

70	Satoshi Suzuki, Shingo Kanaji, Naoki Urakawa, et al.	食道胃腸外科	Impact of chronic kidney disease stage on morbidity after gastrectomy for gastric cancer.	Annals of gastroenterological surgery.2021.7;5(4):519-527	Article
71	Shingo Kanaji, Yuta Yamazaki, Takuya Kudo, et al.	食道胃腸外科	Comparison of laparoscopic gastrectomy with 3-D/HD and 2-D/4 K camera system for gastric cancer: a prospective randomized control study.	Langenbeck's archives of surgery.2021.8;407(1):105-112	Article
72	Takashi Kato, Taro Oshikiri, Hironobu Goto, et al.	食道胃腸外科	Preoperative neutrophil-to-lymphocyte ratio predicts the prognosis of esophageal squamous cell cancer patients undergoing minimally invasive esophagectomy after neoadjuvant chemotherapy.	Journal of surgical oncology.2021.12;124(7):1022-1030	Article
73	Nagatani Y, Funakoshi Y, Suto H, et al.	食道胃腸外科	Immunosuppressive effects and mechanisms of three myeloid-derived suppressor cells subsets including monocytic-myeloid-derived suppressor cells, granulocytic-myeloid-derived suppressor cells, and immature-myeloid-derived suppressor cells	J Cancer Res Ther.2021.7;17(4):1093-1100	Article
74	Manabu Horikawa, Taro Oshikiri, Gosuke Takiguchi, et al.	食道胃腸外科	Laparoscopic creation of a retrosternal route for gastric conduit reconstruction.	Surgical endoscopy.2021.9;36(4):2680-2687	Article
75	Daiki Okamoto, Takeru Matsuda, Ryuichiro Sawada, et al.	食道胃腸外科	Risk Factors for Complications Following Lateral Pelvic Lymph Node Dissection for Rectal Cancer.	Anticancer research.2021.11;41(11):5599-5604	Article
76	Yuta Yamazaki, Shingo Kanaji, Takuya Kudo, et al.	食道胃腸外科	Quantitative Comparison of Surgical Device Usage in Laparoscopic Gastrectomy Between Surgeons' Skill Levels: an Automated Analysis Using a Neural Network.	Journal of gastrointestinal surgery : official journal of the Society for Surgery of the Alimentary Tract.2021.11;26(5):1006-1014	Article

77	Kazumasa Horie, Takeru Matsuda, Kimihiro Yamashita, et al.	食道胃腸外科	Sarcopenia assessed by skeletal muscle mass volume is a prognostic factor for oncological outcomes of rectal cancer patients undergoing neoadjuvant chemoradiotherapy followed by surgery.	European journal of surgical oncology : the journal of the European Society of Surgical Oncology and the British Association of Surgical Oncology.2021.10;48(4):850-856	Article
78	Tomoki Abe, Taro Oshikiri, Hironobu Goto, et al.	食道胃腸外科	Albumin-Derived NLR Score is a Novel Prognostic Marker for Esophageal Squamous Cell Carcinoma.	Annals of surgical oncology.2021.11;29(4):2663-2671	Article
79	Taro Oshikiri, Hodaka Numasaki, Junya Oguma, et al.	食道胃腸外科	Prognosis of Patients with Esophageal Carcinoma following Routine Thoracic Duct Resection: A Propensity-matched Analysis of 12,237 Patients based on the Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan.	Annals of surgery.2021.12(オンライン)	Article
80	Suto H, Funakoshi Y, Nagatani Y, et al.	食道胃腸外科	Microsatellite instability-high colorectal cancer patient-derived xenograft models for cancer immunity research	J Cancer Res Ther.2021.10;17(6):1358-1369	Article
81	Kohei Tanigawa, Shuichi Tsukamoto, Yu-Ichiro Koma, et al.	食道胃腸外科	S100A8/A9 Induced by Interaction with Macrophages in Esophageal Squamous Cell Carcinoma Promotes the Migration and Invasion of Cancer Cells via Akt and p38 MAPK Pathways.	The American journal of pathology.2021.12;192(3):536-552	Article
82	Akihiro Watanabe, Kimihiro Yamashita, Mitsugu Fujita, et al.	食道胃腸外科	Vaccine Based on Dendritic Cells Electroporated with an Exogenous Ovalbumin Protein and Pulsed with Invariant Natural Killer T Cell Ligands Effectively Induces Antigen-Specific Antitumor Immunity.	Cancers.2021.12;14(1):171	Article
83	Akihiro Watanabe, Taro Oshikiri, Ryuichiro Sawada, et al.	食道胃腸外科	Actual Sarcopenia Reflects Poor Prognosis in Patients with Esophageal Cancer.	Annals of surgical oncology.2022.2;29(6):3670-3681	Article

84	Masato Ogawa, Seimi Satomi- Kobayashi, Naofumi Yoshida, et al.	心臓血管外科	Effects of acute-phase multidisciplinary rehabilitation on unplanned readmissions after cardiac surgery	J Thorac Cardiovasc Surg. 2021 May;161(5):1853-1860.e2	Article
85	Abe N, Okada K, Tanaka H, et al.	心臓血管外科	Valve-sparing aortic root replacement after type A aortic dissection repairs	Asian Cardiovasc Thorac Ann. 2021 Jun;29(5):381-387	Article
86	Gomibuchi T, Seto T, Naito K, et al.	心臓血管外科	Strategies to improve outcomes for acute type A aortic dissection with cerebral malperfusion	Eur J Cardiothorac Surg. 2021 Apr 13;59(3):666-673	Article
87	Izawa Y, Mori S, Tretter JT, et al.	心臓血管外科	Normative Aortic Valvar Measurements in Adults Using Cardiac Computed Tomography – A Potential Guide to Further Sophisticate Aortic Valve-Sparing Surgery	Circ J. 2021 Jun 25;85(7):1059-1067	Article
88	Hideki Fujii, Keiji Kono, Kentaro Watanabe, et al.	腎臓内科	Evaluation of aortic calcification using a three-dimensional volume-rendering method in patients with end-stage kidney disease.	Journal of bone and mineral metabolism.2021.5;39(3):439-445	Article
89	Yu Izawa, Shumpei Mori, Justin T Tretter, et al.	腎臓内科	Normative Aortic Valvar Measurements in Adults Using Cardiac Computed Tomography – A Potential Guide to Further Sophisticate Aortic Valve-Sparing Surgery.	Circulation journal : official journal of the Japanese Circulation Society.2021.6;85(7):1059-1067	Article
90	Kunihiko Kiuchi, Koji Fukuzawa, Mitsuru Takami, et al.	腎臓内科	Feasibility of catheter ablation in patients with persistent atrial fibrillation guided by fragmented late-gadolinium enhancement areas.	Journal of cardiovascular electrophysiology.2021.4;32(4):1014-1023	Article

91	Toshihiro Nakamura, Kunihiko Kiuchi, Koji Fukuzawa, et al.	腎臓内科	Late-gadolinium enhancement properties associated with atrial fibrillation rotors in patients with persistent atrial fibrillation.	Journal of cardiovascular electrophysiology.2021.4;32(4):1005-1013	Article
92	Yoichiro Matsuoka, Yu Taniguchi, Keisuke Miwa, et al.	腎臓内科	Assessment of oxygenation after balloon pulmonary angioplasty for patients with inoperable chronic thromboembolic pulmonary hypertension	International journal of cardiology.2021.6;333(0):188-194	Article
93	Tetsuo Shoji, Shinya Nakatani, Daijiro Kabata, et al.	腎臓内科	Comparative Effects of Etelcalcetide and Maxacalcitol on Serum Calcification Propensity in Secondary Hyperparathyroidism: A Randomized Clinical Trial.	Clinical journal of the American Society of Nephrology : CJASN.2021.4;16(4):599-612	Article
94	Hiroyuki Toh, Shumpei Mori, Yu Izawa, et al.	腎臓内科	Prevalence and extent of mitral annular disjunction in structurally normal hearts: comprehensive 3D analysis using cardiac computed tomography.	European heart journal. Cardiovascular Imaging.2021.5;22(6):614-622	Article
95	Shinichi Nishi, Shunsuke Goto, Makiko Mieno, et al.	腎臓内科	The Modified Chronic Kidney Disease Epidemiology Collaboration Equation for the Estimated Glomerular Filtration Rate Is Better Associated with Comorbidities than Other Equations in Living Kidney Donors in Japan.	Internal medicine (Tokyo, Japan).2021.9;60(17):2757-2764	Article
96	Kosuke Tanimura, Hiromasa Otake, Hiroyuki Kawamori, et al.	腎臓内科	Prediction of the debulking effect of rotational atherectomy using optical frequency domain imaging.	Heart and vessels.2021.4;36(9):1265-1274	Article
97	Makoto Nishimori, Kunihiko Kiuchi, Kunihiko Nishimura, et al.	腎臓内科	Accessory pathway analysis using a multimodal deep learning model.	Scientific reports.2021.4;11(1):8045	Article

98	Yuki Yamauchi, Hidekazu Tanaka, Shun Yokota, et al.	腎臓内科	Effect of heart rate on left ventricular longitudinal myocardial function in type 2 diabetes mellitus.	Cardiovascular diabetology.2021.4;20(1):87	Article
99	Akira Nagasawa, Hiromasa Otake, Hiroyuki Kawamori, et al.	腎臓内科	Relationship among clinical characteristics, morphological culprit plaque features, and long-term prognosis in patients with acute coronary syndrome.	The international journal of cardiovascular imaging.2021.5;37(10):2827-2837	Article
100	Mitsuru Takami, Koji Fukuzawa, Kunihiko Kiuchi, et al.	腎臓内科	Practical Utility of the Postal Service in Delivering a Self-Fitted, Wearable, Long-Term Electrocardiogram Monitoring Device for Outpatient Care.	Circulation reports.2021.4;3(5):294-299	Article
101	Masayuki Yamanouchi, Kengo Furuichi, Miho Shimizu, et al.	腎臓内科	Serum hemoglobin concentration, as a reflection of renal fibrosis, and risk of renal decline in early-stages of diabetic kidney disease: a nationwide, biopsy-based cohort study.	Nephrology, dialysis, transplantation : official publication of the European Dialysis and Transplant Association - European Renal Association.2021.5;37(3):489-497	Article
102	Kunihiko Kiuchi, Yu Izawa, Hiroyuki Toh, et al.	腎臓内科	Successful catheter ablation approach above the aortic sinus cusp eliminating a ventricular arrhythmia arising from the myocardial crescent beneath the interleaflet triangle: Late gadolinium enhancement magnetic resonance imaging assessment.	Clinical case reports.2021.6;9(6):e04169-e04169	Article
103	Masayuki Yamanouchi, Kengo Furuichi, Junichi Hoshino, et al.	腎臓内科	Two-year longitudinal trajectory patterns of albuminuria and subsequent rates of end-stage kidney disease and all-cause death: a nationwide cohort study of biopsy-proven diabetic kidney disease.	BMJ open diabetes research & care.2021.8;9(1):e002241	Article
104	Tomomi Ogawa, Nao Saito, Koji Fukuzawa, et al.	腎臓内科	Device nurse intervention facilitates the patients' adaptation to cardiac shock devices in the remote monitoring era.	Pacing and clinical electrophysiology : PACE.2021.8;44(11):1874-1883	Article

105	Masataka Suzuki, Takayoshi Toba, Yu Izawa, et al.	腎臓内科	Prognostic Impact of Myocardial Extracellular Volume Fraction Assessment Using Dual-Energy Computed Tomography in Patients Treated With Aortic Valve Replacement for Severe Aortic Stenosis.	Journal of the American Heart Association.2021.9;10(18):e020655	Article
106	Saki Todo, Hidekazu Tanaka, Yuki Yamauchi, et al.	腎臓内科	Association of left ventricular longitudinal myocardial function with subclinical right ventricular dysfunction in type 2 diabetes mellitus.	Cardiovascular diabetology.2021.10;20(1):212	Article
107	Kazutaka Nakasone, Kunihiro Kiuchi, Mitsuru Takami, et al.	腎臓内科	Successful catheter ablation of postoperative atrial tachycardia with conduction disturbances: Assessment by late-gadolinium enhancement magnetic resonance imaging and high-resolution electro-anatomical mapping.	Clinical case reports.2021.6;9(6):e04198	Article
108	Daisuke Kanai, Hideki Fujii, Kentaro Nakai, et al.	腎臓内科	Statin Use Influence on the Occurrence of Acute Kidney Injury in Patients with Peripheral Arterial Disease.	Journal of atherosclerosis and thrombosis.2022.1(オンライン)	Article
109	Kohei Okamoto, Hideki Fujii, Kentaro Watanabe, et al.	腎臓内科	Changes of FGF23 and the Renin-Angiotensin-System in Male Mouse Models of Chronic Kidney Disease and Cardiac Hypertrophy.	Journal of the Endocrine Society.2022.2;6(2):bvab187	Article
110	Shunsuke Goto, Hideyo Oguchi, Ken Sakai, et al.	腎臓内科	Association between expanded criteria for living kidney donors and renal biopsy findings.	Journal of nephrology.2022 Jan 22.(オンライン)	Article
111	Niamh Mullins, JooEun Kang, Adrian I Campos, et al.	精神科神経科	Dissecting the Shared Genetic Architecture of Suicide Attempt, Psychiatric Disorders, and Known Risk Factors.	Biological psychiatry.2022.2;91(3):313-327	Article

112	Kayo Ichihashi, Yoshitaka Kyou, Naomi Hasegawa, et al.	精神科神経科	The characteristics of patients receiving psychotropic pro re nata medication at discharge for the treatment of schizophrenia and major depressive disorder: A nationwide survey from the EGUIDE project.	Asian journal of psychiatry.2022.3;69(0):103007	Article
113	Otsuka I, Galfalvy H, Guo J, et al.	精神科神経科	Mapping the genetic architecture of suicide attempt and suicide death using polygenic risk scores for clinically-related psychiatric disorders and traits.	Psychological Medicine.2021.11, (オンライン)	Article
114	Kazuya Matsuo, Atsushi Fujita, Kohkichi Hosoda, et al.	脳神経外科	Potential of machine learning to predict early ischemic events after carotid endarterectomy or stenting: a comparison with surgeon predictions	Neurosurgical review.2021.6;45(1):607-616	Article
115	Hidehito Kimura, Susumu Osaki, Kosuke Hayashi, et al.	脳神経外科	Newly Identified Hemodynamic Parameter to Predict Thin-Walled Regions of Unruptured Cerebral Aneurysms Using Computational Fluid Dynamics Analysis.	World neurosurgery.2021.8;152(0):e377-e386	Article
116	Takashi Mizowaki, Atsushi Fujita, Jun Imura, et al.	脳神経外科	Ostial common carotid artery occlusion and balloon-mounted stenting: Implication of embolic protection device in tandem lesion.	Radiology case reports.2021.7;16(9):2783-2786	Article
117	Toshihiko Wakabayashi, Yuichi Hirose, Keisuke Miyake, et al.	脳神経外科	Determining the extent of tumor resection at surgical planning with 18F-fluciclovine PET/CT in patients with suspected glioma: multicenter phase III trials.	Annals of nuclear medicine.2021.8;35(12):1279-1292	Article
118	Yuichi Fujita, Hiroaki Nagashima, Kazuhiro Tanaka, et al.	脳神経外科	Hyperintense signal on diffusion-weighted imaging for monitoring the acute response and local recurrence after photodynamic therapy in malignant gliomas.	Journal of neuro-oncology.2021.9;155(1):81-92	Article

119	Takashi Mizowaki, Atsushi Uyama, Atsushi Fujita, et al.	脳神経外科	Understanding of pathophysiology and optimal treatment for anterior circulation large vessel occlusion beyond 24 h from onset of stroke	Asian Journal of Neurosurgery.2021.9;16(4):881 -885	Case Report
120	Hidehito Kimura, Kosuke Hayashi, Susumu Osaki, et al.	脳神経外科	Unilateral approach for bilateral middle cerebral artery aneurysms assisted by preoperative understandings of aneurysm wall properties:2-dimensional operative video.	World neurosurgery.2022.3;162(42)	Case Report
121	Shinichi Miura, Taichiro Imahori, Masahiro Sugihara, et al.	脳神経外科	Subarachnoid hemorrhage associated with cerebral hyperperfusion syndrome after simultaneous carotid endarterectomy and coronary artery bypass grafting procedures: A case report and review of the literature	Interdisciplinary Neurosurgery.2021.9;25:10114 4	Case Report
122	Naohiko Seike, Akio Yokoseki, Ryoko Takeuchi, et al.	脳神経内科	Genetic Variations and Neuropathologic Features of Patients With PRKN Mutations	Movement Disorders.2021 Jul;36(7):1634-1643	Article
123	Katsuya Kobayashi, Riki Matsumoto, Kiyohide Usami, et al.	脳神経内科	Cortico-cortical evoked potential by single-pulse electrical stimulation is a generally safe procedure	Clinical Neurophysiology.2021.5;132(5): 1033-1040	Article
124	Suguru Mitsui, Yugo Tanaka, Kenji Kimura, et al.	脳神経内科	Paraneoplastic Neuromyelitis Optica Spectrum Disorder Associated with Atypical Thymic Carcinoid: A Case Report.	Annals of thoracic and cardiovascular surgery : official journal of the Association of Thoracic and Cardiovascular Surgeons of Asia.2021.4(オンライン)	Case Report
125	Naoyuki Sato, Riki Matsumoto, Akihiro Shimotake, et al.	脳神経内科	Frequency-Dependent Cortical Interactions during Semantic Processing: An Electrocorticogram Cross-spectrum Analysis Using a Semantic Space Model	Cerebral Cortex.2021.9;31(9):4329-4339	Article

126	Yukihiro Yamao, Riki Matsumoto, Takeharu Kunieda, et al.	脳神経内科	Effects of propofol on cortico-cortical evoked potentials in the dorsal language white matter pathway	Clinical Neurophysiology.2021.8;132(8):1919-1926	Article
127	Shuichiro Neshige, Takefumi Hitomi, Maya Tojima, et al.	脳神経内科	A Role of Aging in the Progression of Cortical Excitability in Benign Adult Familial Myoclonus Epilepsy type 1 Patients	Movement Disorders.2021 Oct;36(10):2446-2448	Article
128	Hiroyuki Awano, Yoshihiko Saito, Mamiko Shimizu, et al.	脳神経内科	FKRP mutations cause congenital muscular dystrophy 1C and limb-girdle muscular dystrophy 2I in Asian patients.	Journal of clinical neuroscience : official journal of the Neurosurgical Society of Australasia.2021.10;92(0):215-221	Article
129	Timothy T. Rogers, Christopher R. Cox, Qihong Lu, et al.	脳神経内科	Evidence for a deep, distributed and dynamic code for animacy in human ventral anterior temporal cortex	eLife.2021.10;10:e66276	Article
130	Hiroaki Sekiya, Shunsuke Koga, Yoshihisa Otsuka, et al.	脳神経内科	Clinical and pathological characteristics of later onset multiple system atrophy.	Journal of neurology.2022.3;269(8):4310-4321	Article
131	Takaki Ishida, Michiyo Koyanagi- Aoi, Daisuke Yamamiya, et al.	泌尿器科	Differentiation of Human Induced Pluripotent Stem Cells Into Testosterone-Producing Leydig-like Cells	Endocrinology.2021.12;162(12):bqub202	Article
132	Naoto Wakita, Nobuyuki Hinata, Kotaro Suzuki, et al.	泌尿器科	Comparison of robot-assisted partial nephrectomy for complex (RENAL scores ≥ 10) and non-complex renal tumors: A single-center experience	International Journal of Urology.2021.7;28(10):1054-1059	Article

133	Umar Iqbal, Zhe Jing, Youssef Ahmed, et al.	泌尿器科	Development and Validation of an Objective Scoring Tool for Robot-Assisted Partial Nephrectomy: Scoring for Partial Nephrectomy.	Journal of endourology.2021.12;36(5):647-653	Article
134	Hideto Ueki, Tomoaki Terakawa, Yoshiko Ueno, et al.	泌尿器科	Efficacy of preoperative cine magnetic resonance imaging in evaluation of adhesion of renal cancer thrombus to inferior vena cava wall.	Journal of vascular surgery. Venous and lymphatic disorders.2022.3;10(4):908-915	Article
135	Hitomi Hara, Yoshitada Sakai, Teruya Kawamoto, et al.	放射線腫瘍科	Surgical outcomes of metastatic bone tumors in the extremities (Surgical outcomes of bone metastases).	Journal of bone oncology.2021.4;27(0):100352	Article
136	Mostafa Hamada, Eisuke Ueshima, Takeaki Ishihara, et al.	放射線腫瘍科	The feasibility of transcatheter arterial chemoembolization following radiation therapy for hepatocellular carcinoma	Acta radiologica open.2021 Aug 4;10(7):20584601211034965	Article
137	Maho Azumi, Masuyo Matsumoto, Kaho Suzuki, et al.	放射線腫瘍科	PET/MRI is useful for early detection of pelvic insufficiency fractures after radiotherapy for cervical cancer.	Oncology letters.2021.11;22(5):776	Article
138	Masanori Teshima, Hiroataka Shinomiya, Hidehito Kimura, et al.	放射線腫瘍科	Roles of skull base surgery and particle radiotherapy for orbital malignant tumors involving the skull base.	Laryngoscope investigative otolaryngology.2021.12;6(6):1347-1352	Article
139	Kojita Y, Matsuo H, Kanda T, et al.	放射線診断・IVR科	Deep learning model for predicting gestational age after the first trimester using fetal MRI.	European radiology[Epub ahead of print].2021.4;31(6):3775-3782	Article

140	Keitaro Sofue, Eisuke Ueshima, Atsuhiko Masuda, et al.	放射線診断・IVR科	Estimation of pancreatic fibrosis and prediction of postoperative pancreatic fistula using extracellular volume fraction in multiphase contrast-enhanced CT.	European radiology.2022.3;32(3):1770-1780	Article
141	Takeru Yamaguchi, Keitaro Sofue, Eisuke Ueshima, et al.	放射線診断・IVR科	Abbreviated Gadoteric Acid-Enhanced MRI for the Detection of Liver Metastases in Patients With Potentially Resectable Pancreatic Ductal Adenocarcinoma.	Journal of Magnetic Resonance Imaging.2022 Jan 10.(オンライン)	Article
142	YUKO NAKAYAMA, KOHJI TAKARA, TETSUYA MINEGAKI, et al.	薬剤部	Induction of Cross-resistance to ABCB1 Substrates in Venetoclax-resistant Human Leukemia HL60 Cells	Anticancer research.2021.9;41(9):4239-4248	Article
143	Takahiro Ito, Kazuhiro Yamamoto, Junya Furukawa, et al.	薬剤部	Association of sunitinib concentration and clinical outcome in patients with metastatic renal cell carcinoma treated with a 2-week-on and 1-week-off schedule.	Journal of clinical pharmacy and therapeutics.2021.10;47(1):81-88	Article
144	Atsushi Uda, Kenichiro Onuma, Katsumi Shigemura, et al.	薬剤部	Impact of Cefazolin Shortage on Clinical Outcomes of Adult Patients with Bacteremia Caused by Methicillin-Susceptible Staphylococcus aureus in a Tertiary Care University Hospital.	Antibiotics (Basel, Switzerland).2021.10;10(10):1247	Article
145	Atsushi Uda, Katsumi Shigemura, Koichi Kitagawa, et al.	薬剤部	Effect of Antimicrobial Stewardship on Oral Quinolone Use and Resistance Patterns over 8 Years (2013-2020).	Antibiotics (Basel, Switzerland).2021.11;10(11):1426	Article
146	Tomohiro Omura, Luna Nomura, Ran Watanabe, et al.	薬剤部	MicroRNA-101 Regulates 6-Hydroxydopamine-Induced Cell Death by Targeting Suppressor/Enhancer Lin-12-Like in SH-SY5Y Cells	Frontiers in Molecular Neuroscience.2021.12;14:748026	Article

147	Kazuhiro Yamamoto, Takeshi Ioroi, Kazuaki Shinomiya, et al.	薬剤部	STAT3 polymorphism associates with mTOR inhibitor-induced interstitial lung disease in patients with renal cell carcinoma.	Oncology research.2022.1;29(1):11-23	Article
148	Reo Onishi, Katsumi Shigemura, Kayo Osawa, et al.	薬剤部	The Antimicrobial Resistance Characteristics of Imipenem-Non-Susceptible, Imipenemase-6-Producing Escherichia coli	Antibiotics (Basel, Switzerland).2021 Dec;11(1):32	Article
149	Atsushi Uda, Kei Ebisawa, Hitomi Sakon, et al.	薬剤部	Sustained Improvements in Antimicrobial Therapy and Clinical Outcomes Following a Pharmacist-Led Antimicrobial Stewardship Intervention: Uncontrolled Before-After Study	Journal of clinical medicine.2022 Jan;11(3):566	Article

計 3 件

総計 149 件

(注)

- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	掛地 吉弘, 原田 仁, 裏川 直樹, 他	食道胃腸外科	【胃癌の全て】胃癌の周術 期化学療法	医学と薬 学.2021.9;78(10):1167-1173	Article
2	松田 武, 掛地 吉弘	食道胃腸外科	【解剖学的変異を考慮した 下部消化管手術】横行結 腸癌・左側結腸癌手術で 注意すべき中結腸動静脈 の変異	手術.2021.7;75(8):1259-1267	Article
3	山崎 悠太, 金治 新 悟, 掛地 吉弘	食道胃腸外科	【消化器外科とAI】AIを用 いた腹腔鏡下胃癌手術に おける手術器具自動認識 システムの開発と利用	消化器外 科.2021.6;44(7):1193-1202	Article
4	鈴木 知志, 裏川 直 樹, 金治 新悟, 他	食道胃腸外科	【消化器外科における高 齢者手術-各施設の工夫 と留意点】高齢者手術に おけるNCDリスクカリキュ レーターの活用	手術.2021.9;75(10):1519-1524	Article
5	金治 新悟, 裏川 直 樹, 掛地 吉弘	食道胃腸外科	【消化器癌:診断と治療の すべて】消化器癌の診断・ 病期分類・治療・成績 胃 癌 集学的治療	消化器外科.2021.5;44(6):705- 708	Article
6	堀江 和正, 押切 太 郎, 瀧口 豪介, 他	食道胃腸外科	【上部消化管手術におけ るトラブルシューティング- 困難症例・偶発症への対 策】食道癌術後の胸骨後 胃管癌に対する仰臥位胸 腔鏡アプローチ(TRGR-S)	手術.2021.6;75(7):1153-1159	Article

計 6 件

7	金治 新悟, 裏川 直樹, 鷹尾 俊達, 他	食道胃腸外科	【腹腔鏡・内視鏡合同手術(LECS)の現状と展望】高難度LECS 非乳頭部十二指腸腫瘍に対するLECS	手術.2021.10;75(11):1673-1677	Article
8	川本 晋一郎	輸血・細胞治療部	AIHA診療における最近の動向	血液内科.2022.1;84(1):6-11	Review
9	川本 晋一郎	輸血・細胞治療部	溶血性貧血	Pharma Medica.2021.11;39(11):15-17	Review
10	大塚郁夫, 菱本明豊.	精神科神経科	臨床での活用が期待される自殺の生物学的知見.	医学のあゆみ.2021.10;279;1:p29-34	Review
11	味木 徹夫, 柳本 泰明, 橋本 悠, 他	肝胆膵外科	【肝・胆道系症候群(第3版)-その他の肝・胆道系疾患を含めて-肝外胆道編】肝外胆管(胆管、胆嚢管、総胆管) 腫瘍 胆管腺扁平上皮癌・扁平上皮癌	日本臨床.2021.4;別冊(肝・胆道系症候群III):33-34	Article
12	蔵満 薫, 小木曾 智美, 伊藤 玲子, 2022 May 6	肝胆膵外科	肝移植内科医育成のための現状と課題	肝臓.2021.12;62巻12号 Page785-792	Article
13	福本 巧	肝胆膵外科	効果的な病理医リクルーティング【6】 外科分野におけるリクルートの工夫	病理と臨床.2021.9;39巻9号 926-931	Article

計 7 件

14	蔵満 薫, 江川 裕人	肝胆膵外科	【臓器移植—限界と挑戦】 コロナ禍における移植医療	医学のあゆみ.2021.11;279巻7号 Page720-724	Article
15	蔵満 薫, 江川 裕人	肝胆膵外科	【Transplant Physician育成】肝移植実施施設における肝移植内科医の現状と課題	移植.2021(オンライン).56巻4号 Page347-351	Article
16	穂原裕奈, 山本和宏, 水田直美, 他	薬剤部	がん化学療法誘発性悪心・嘔吐の予防を目的としたオランザピンの投与量と傾眠発現との関連	日本病院薬剤師会雑誌.2022.1;58(1):67-72	Article
17	岩下和真, 石原武明, 妹尾悟史, 他	放射線腫瘍科	T3N0M0声門癌に対する根治的放射線治療の成績	頭頸部癌.2021;47(2)	Others
18	小山泰司, 清田尚臣, 清田尚臣, 他	放射線腫瘍科	再発・転移頭頸部扁平上皮癌に対するニボルマブ療法治療の予後予測における好酸球数変化の有用性	頭頸部癌.2021;47(2)	Others
19	橋本 悠, 小松 昇平, 寺嶋 千貴, 他	放射線腫瘍科	切除不能肝門部領域胆管癌に対するスペーサ手術および粒子線治療	日本外科学会定期学術集会抄録集.2021.4;121回:SF-1	Others
20	吉川 正章, 野田 佳克, 渡部 俊介, 他	脳神経内科	MADSAMと典型的CIDPの超音波検査におけるWrist-to-forearm ratioの検討	臨床神経生理学.2021.10;49(5):431	Others

計 7 件

21	渡部 俊介, 関口 兼司, 末廣 大知, 他	脳神経内科	Speckle tracking echocardiographyを用いた横隔膜移動量評価は筋萎縮性側索硬化症における早期の呼吸機能障害検出に有用である	臨床神経生理学.2021.10;49(5):432	Others
22	粟野 宏之, 斎藤 良彦, 志水 麻美子, 他	脳神経内科	アジア人において、FKRP遺伝子変異は先天性筋ジストロフィー1Cと肢帯型筋ジストロフィー2Iを発症する	脳と発達.2021.5;53(Suppl.):S262	Others
23	村井 弘之, 鈴木 靖士, 永田 栄一郎, 他	脳神経内科	エクリズマブ投与時の全身型重症筋無力症患者の病態生理特性に関する多施設共同臨床研究(中間解析)	神経免疫学.2021.10;26(1):137	Others
24	赤澤 明香, 辻 麻人, 上田 健博, 他	脳神経内科	一過性の脳炎様症状後に、拡散強調画像における高信号域の拡大が確認された神経核内封入体病の一例	臨床神経学.2022.1;62(1):73	Others
25	一角 朋子, 仙石 淳, 原 敦, 他	脳神経内科	回復期リハビリテーション病棟における急速進行性HTLV-1 associated myelopathy(HAM)の治療経験	The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine.2022.2;59(2):217-222	Case Report
26	村上 友梨, 関谷 博顕, 十河 正弥, 他	脳神経内科	球麻痺で発症し診断に時間を要した高齢発症ALSの1例	臨床神経学.2021.9;61(Suppl.):S432	Others
27	一柳 明希子, 上田 健博, 千原 典夫, 他	脳神経内科	胸腺腫非合併重症筋無力症患者に対する胸腺摘除術の有無が予後に与える影響の検討	臨床神経学.2021.9;61(Suppl.):S425	Others

計 7 件

28	上田 健博, 辻 佑木 生, 関口 兼司, 他	脳神経内科	重症型A群色素性乾皮症 における神経症状の解析 と予後予測因子の探索	臨床神経 学.2021.9;61(Suppl.):S245	Others
29	菊池 隆幸, 梶川 駿 介, 十河 正弥, 他	脳神経内科	焦点診断-MRI陰性てんか んへの挑戦 慢性硬膜下 電極によるDC電位・高周 波律動・CCEPの活用	てんかん研 究.2021.7;39(2):215-216	Others
30	千原 典夫	脳神経内科	【神経免疫 メカニズムと疾 患 神経系と免疫系を結ぶ 分子機構の解明からバイ オマーカー・治療標的の 探索まで】(第2章)神経免 疫と疾患 神経免疫疾患: 近年の動向 視神経脊髄 炎の免疫病態と新規治療	実験医学.2021.9;39(15):2455- 2461	Review
31	関口 兼司	脳神経内科	脊髄性萎縮の診断と治療 脊髄性筋萎縮症成人例の 鑑別診断と治療評価につ いて	臨床神経生理 学.2021.10;49(5):318	Others
32	末廣大知, 吉川正 章, 渡部俊介, 他	脳神経内科	脊髄性筋萎縮症患者への ヌシネルセン療法におけ るCMAP振幅と運動単位 数推定(MUNE)の推移に ついて	臨床神経生理学 (Web).2021;49(5)	Others
33	関口兼司	脳神経内科	脊髄性筋萎縮症成人例の 鑑別診断と治療評価につ いて	臨床神経生理学 (Web).2021;49(5)	Others
34	篠山 隆司, 田中 一 寛, 金原 史朗, 他	脳神経外科	癌ゲノム医療 神戸大学医 学部附属病院におけるが んゲノム医療の現状と課 題	Brain Tumor Pathology.2021.5;38(Suppl.):06 7	Others

計 7 件

35	谷口 理章, 木村 英仁, 甲村 英二	脳神経外科	経鼻頭蓋底手術における3T-術中MRIの有効性について	CI研究.2021.9;43(2):75-80	Others
36	小松 正人, 篠山 隆司, 児玉 良典, 他	脳神経外科	包括的がんパネル検査でhigh-grade astrocytoma with piloid features(HGAP)が最も考えられた2症例	日本病理学会会誌.2022.3;111(1):266	Case Report
37	谷口 理章, 木村 英仁, 甲村 英二	脳神経外科	傍鞍部大型腫瘍に対する開頭・経鼻内視鏡二期的手術の有用性について	日本内分泌学会雑誌.2021.9;97(Suppl.HPT):7-9	Others
38	大片 祐一, 吉村 翔平, 鮫島 由友, 他	小児外科	新生児期に腹腔鏡下肝管空腸吻合術を行い術後早期に灰白色便と黄疸の進行を認めた1例	日本小児外科学会雑誌.2021.12;57(7):1178	Case Report
39	吉川正章, 野田佳克, 末廣大知, 他	脳神経内科	Typical CIDPとMultifocal CIDPにおける神経超音波所見の検討	末梢神経.2021;32(2):257	Others

計 5 件

総計 39 件

(注)

- 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ○ 審査申請手順について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 被験者の保護を最優先し、かつ、大学の社会的信頼を得つつ、臨床研究を適正に推進するために、利益相反が深刻な事態へと発展することの未然防止を目的として、利益相反のマネジメントを適切に実施する。マネジメントの実施のため、臨床研究利益相反マネジメント委員会を設置し、委員会は利益相反に関する重要事項を調査・審議・審査する。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 7 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3 4 回
・ 研修の主な内容 臨床研究の全体像、治療開発のための研究形態、研究倫理と被験者保護等について e-learning 又は臨床研究推進セミナーを受講する。	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

・神戸大学医学部附属病院内科専門研修プログラム

本プログラムは、神戸大学医学部附属病院ならびに兵庫県・大阪府の関連病院・連携施設群の中で、内科専門医を取得することを一つの目標として、内科医としての幅広い臨床能力を育成するためのものである。初期臨床研修を修了した後に、プログラム内の病院群の中で3年間専攻医として研修を修了した時点で、内科専門医受験資格を獲得することを目標とする。

・神戸大学放射線科専門研修プログラム

本プログラムは、神戸大学医学部附属病院放射線診断・IVR科/放射線腫瘍科を専門研修基幹施設として、本頁以降に記載する日本医学放射線学会認定に認定された 11ヶ所の総合修練機関、3つの特殊修練機関、13の修練機関に1つの関連施設を加えた専門研修施設群からなる専門研修プログラムです。

・神戸大学小児科専門研修プログラム

本プログラムは、日本小児科学会が求める「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた小児科専門医となるに必要かつ十分なプログラムであるだけでなく、将来のsubspecialty や個人のキャリアパスにも十分配慮した多様な選択肢を持つプログラムである。

・神戸大学皮膚科研修プログラム

本プログラムは、研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

・神戸大学病院 連携施設 精神科専門医研修プログラム

統合失調症、気分障害をはじめとする児童思春期から老年期にわたる多岐の精神疾患患者の主治医となり、看護、心理、リハビリテーションの各領域とチームを組み、これらの精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法の中核的なカリキュラムに従った研修プログラムに参加する。神戸大精神科研修プログラムの連携施設には、神戸市立中央市民病院をはじめとする 11 施設の総合病院精神科神経科、県立ひょうごこころの医療センターをはじめとする 19 施設の公立・私立単科精神科病院が含まれる。これらの医療機関をローテーションしながら研鑽を積み、精神科医としての診療能力を向上させつつ、精神科専門医だけでなく精神保健指定医資格をも取得することを目標とする。

・神戸大学外科専門研修プログラム

神戸大学外科学講座の食道胃腸外科、肝胆膵外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺内分泌外科の6分野が連携してプログラムの作成と運営を行うことにより、各専攻医のライフプランに応じた効率的できめ細やかな研修の実施が可能である。

・神戸大学整形外科専門研修プログラム

本プログラムでは、基幹施設及び連携施設全体においてスポーツ医学、関節外科学、脊椎外科学、手外科学、外傷学、骨軟部腫瘍学、小児整形外科、リハビリテーション医学などの専門性の高い整形外科診療を、満遍なく、幅広く経験することが可能。また、整形外科専門医資格取得後に、サブスペシャリティ領域の研修へ発展させていくための基礎をしっかりと修得することができる。さらに基幹施設である神戸大学医学部附属病院における研修では、専門性の高い臨床研修に加え、神戸大学の特徴である大学院大学という特徴を活かし、将来の大学院進学に備えた臨床・基礎研究のアプローチを学ぶことが可能である。

・神戸大学医学部脳神経外科専門研修プログラム

神戸大学医学部附属病院および連携施設において、それぞれの専門性を有した指導医のもと、症例を担当し臨床実地経験を蓄積する。大学病院では最新鋭の3テスラ術中MRI装置、ハイブリッド手術室、3D/4K内視鏡システム、フローダイバーターなどのデバイスを用いた血管内治療を用いた先進的な医療に参加できる。連携施設は兵庫県内にほぼ集約され、基幹施設と連携施設での年間手術総数は4800件余りにおよび脳神経外科の全領域をカバーしている。地域の第一線医療、三次救急医療、脳血管障害専門医療、血管内治療、小児神経疾患、脊髄疾患、機能的疾患、脳腫瘍の集学的治療、神経内視鏡手術、定位放射線治療などの特色ある治療を行っている連携施設をローテーションすることができることは、当プログラムの大きな特徴である。

・神戸大学眼科専門研修プログラム

眼科の6領域である、角結膜、緑内障、白内障、網膜硝子体・ぶどう膜、屈折矯正・弱視・斜視、神経眼科・眼窩・眼付属器のそれぞれに専門家が在籍している。専門研修基幹施設には、7つの専門外来を設置しており（緑内障、神経眼科、斜視弱視・小児眼科、網膜硝子体、ぶどう膜、角膜・コンタクト、眼窩）、専門研修連携施設にも、一般臨床から幅広い領域に対応できる指導医を派遣している。これらから、基幹施設、連携施設での研修を通じて、どの分野においても偏りなく眼科の最新医療を学ぶことが可能である。

・神戸大学耳鼻咽喉科専門研修プログラム

耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師としての人格を涵養し、耳、鼻・副鼻腔、口腔・咽頭、頭頸部の病態や疾患に対する豊富な知識と技術、経験を有し、国民に良質で安全な標準的医療を提供するとともに、更なる医療の発展にも寄与することができる耳鼻咽喉科専門医の育成を目的とする。

・神戸大学泌尿器科専門医研修プログラム

神戸大学医学部附属病院を基幹施設とする27の連携施設から構成される。本研修施設群では、小児泌尿器科、尿路生殖器腫瘍、排尿障害、尿路結石症、性機能障害、生殖医療、尿路感染症、女性泌尿器科、腎移植、腹腔鏡手術、小切開手術などの領域を専門的に実施する連携病院を擁し、また、ロボット支援手術を実施する病院も15施設に及んでいる。以上のプログラムの特性から、一般泌尿器科診療に加えて量的にも質的にも多彩な泌尿器科診療を研修することができる。

・神戸大学産科婦人科研修プログラム

本プログラムでは、医師として、また産婦人科医師としての基本的診療能力や幅広い知識を確実に習得し、社会に貢献できる産婦人科医師を育成することを目標としている。基本的な診療技術、幅広い知識を習得し、婦人科腫瘍、周産期、女性のヘルスケア、生殖医療、内視鏡手術、さらに医療過疎地における地域医療に特化した連携施設での研修により、幅広く、より高度な知識・技能を持つことが可能となる。研修終了後は、兵庫県下のみならず地域医療の担い手として、県外も含めた希望する施設で就業することが出来る。さらに専門研修施設群における専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティ領域の専門医の研修を開始する準備も整っているため、スムーズに個々のスキルアップを図ることが出来る。

・神戸大学形成外科研修プログラム

形成外科は臨床医学の一端を担うものであり、先天性あるいは後天性に生じた変形や機能障害に対して外科的手技を駆使することにより、形態および機能を回復させ患者のQuality of Lifeの向上に貢献する外科系専門分野である。当科専門研修プログラムは医師として必要な基本的診断能力（コアコンピテンシー）と形成外科領域の専門的能力、社会性、倫理性を備えた形成外科医を育成することを目的としている。

・神戸大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム

プログラムに所属する全ての専攻医が、研修期間4年間のうちの2年間で専門研修基幹施設、および連携施設において、専門研修に必要とされる特殊麻酔症例数を達成できるようにローテーションを構築する。残り2年間の研修は、すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが、それぞれの専攻医のキャリアプランに合わせた調整が可能である。

・神戸大学医学部附属病院 救急科専門研修プログラム

手術手技などの救急科医としての専門的能力は当然として、大学ならではの基礎から臨床、日常診療から最先

端の医療まで臓器・分野を越えた幅広い領域の知識や技術を学ぶ事が可能である。災害救急医学分野の協力を得て、必修である救命・救急医療の充実を計っている。さらに3年間の専門研修プログラム終了後も様々な診療特色を持つ関連病院への出向や大学院博士課程へ進学、国内外への留学など、幅広い選択肢の中から、自身の選択した専門分野（サブスペシャリティ）で救急科医師としての研鑽を積むことが可能である。

・神戸大学医学部附属病院病理専門研修プログラム

大学病院を含む多数の連携施設と結ぶ総合的病理医育成プログラム。各専門分野にわたる豊富な指導教官による指導と多彩な症例を経験することが可能である。各分野に精通した専門家が多数在籍し、general pathology を十分に習得した上で、各自のsubspecialty を持った理想的な病理医を育成。基礎病理学分野群、あるいは他大学の基礎講座とも連携し、診断病理医として有用な分子病理学のスキル習得も可能である。

・神戸大学リハビリテーション科専門研修プログラム

神戸大学リハビリテーション科研修プログラム(PG)は、患者から信頼され、まず、標準的な医療を提供できるリハビリテーション科専門医となるために、急性期、回復期、生活期のリハビリテーション医療に精通し、脳卒中、運動器、切断、小児、内部障害、そしてがんのリハビリテーションまで幅広く知識と経験を得られるよう、適切な教育を行い、十分な知識と経験を身に着けるため、神戸、播磨地区の病院群での研修を中心に構成されたプログラムになっている。本研修プログラムは、現在まで神戸大学医学部附属病院とその関連病院の先輩方が築き上げた素晴らしいリハビリテーション研修施設を横断して研修することで、日本をリードするリハビリテーション科専門医となるための基礎を身に着けてもらえると考えている。

・神戸大学臨床検査専門研修プログラム

臨床検査はEvidence Based Medicineにおける客観的な指標として、診療にかかせないものである。臨床検査の全般において、その品質の向上と維持に努め、適切かつ信頼性の高いサービスを通して良質で安全な患者診療に貢献する専門医が臨床検査専門医である。本研修プログラムでは、臨床検査医学総論、一般臨床検査学・臨床化学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学・輸血学、遺伝子関連検査学、臨床生理学の基本7科目の研修を行う。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	135人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
児玉 裕三	内科	教授	28年	内科チェアマン
村上 卓道	放射線科	教授	36年	
野津 寛大	小児科	教授	25年	
久保 亮治	皮膚科	教授	28年	
青山 慎介	精神科神経科	准教授	25年	
福本 巧	外科	教授	35年	外科チェアマン
黒田 良祐	整形外科	教授	32年	
篠山 隆司	脳神経外科	教授	28年	
中村 誠	眼科	教授	33年	
丹生 健一	耳鼻咽喉・頭頸部外科	教授	36年	
中野 雄造	泌尿器科	教授	28年	
寺井 義人	産科婦人科	特命教授	30年	
寺師 浩人	形成外科	教授	36年	
溝渕 知司	麻酔科	教授	37年	
小谷 穰治	救命救急科	教授	35年	
伊藤 智雄	病理診断科	教授	30年	

酒井 良忠	リハビリテーション科	特命教授	26年
三枝 淳	臨床検査部門	部長	26年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）	
1. 研修の主な内容	薬剤師を対象に、病棟薬剤業務についての知識・技能を習得するための講義・演習形式のスキルアップセミナーおよび症例検討会を実施した。
研修の期間・実施回数	2021/4/1～2022/3/31 計47回
研修の参加人数	各15～50名
2. 研修の主な内容	新人看護師を対象に、「薬剤の基礎知識」をテーマとする講義（動画）を実施した。
研修の期間・実施回数	2021/4/7 1回40分の動画講義 計111回(1名につき1回)
研修の参加人数	111名
3. 研修の主な内容	病棟看護師を対象に、以下の内容をテーマに講義を行った。 ・小児科病棟でよく使用される薬剤について ・鎮痛薬／鎮静薬について ・インスリンの使用について ・高濃度注射用カリウム製剤の安全管理について
研修の期間・実施回数	2021/4/1～2022/3/31 計41回
研修の参加人数	延323名
4. 研修の主な内容	医師事務作業補助者を対象に、「薬剤部業務の解説」をテーマに講義を行った。
研修の期間・実施回数	2021/8/6 計1回60分の講義（対面とWEB）
研修の参加人数	23名
5. 研修の主な内容	看護部全職員を対象に「採用者オリエンテーション、新人看護職員研修、ラダーⅡ、ラダーⅢ、ラダーⅣ、ラダーⅤ、教育指導者養成コース」等の研修会を実施した。
研修の期間・実施回数	105回・210時間（対面170時間、オンデマンド配信40時間）
研修の参加人数	延5611名
6. 研修の主な内容	「末梢静脈カテーテル留置技術トレーニングプログラム」に基づき新採用者を対象に講義演習、実施試験(①e-learningで講義視聴②確認テスト、③シミュレーターを用いた演習、④患者を対象とした実施確認)を行った。
研修の期間・実施回数	①②はWEB上で常時受講可能、③個別に0.5日
研修の参加人数	延535名
7. 研修の主な内容	診療放射線技師を対象に、放射線関連学会での演題に対する予演会および学会参加で得た知見等に対する報告会を実施した。
研修の期間・実施回数	①日本放射線技術学会秋季学術大会 予演会1回/報告会2回 ②兵庫県技師学術大会 予演会1回/報告会1回 ③北米放射線学会トピックス報告会1回 ④日本放射線技術学会総会学術大会 予演会1回
研修の参加人数	①予演会34名/報告会37名・34名 ②予演会31名/報告会26名 ③18名 ④25名

8.	研修の主な内容	診療放射線技師を対象に、造影剤使用時の有害事象とその対応について研修会を実施した。
	研修の期間・実施回数	2回
	研修の参加人数	42名/40名
9.	研修の主な内容	医療技術部新規採用職員を対象に以下の研修を実施した ①医療技術部職員が所属する各職場の見学 ②接遇について ③医療技術職員の医療安全について ④感染対策について ⑤患者さんの安全な移乗方法について
	研修の期間・実施回数	年1回
	研修の参加人数	各24名
10.	研修の主な内容	リハビリテーション部の技士等を対象に以下の研修会を実施した ①呼吸器疾患・呼吸器障害への介入ポイントについて ②床反力医療器仕組みについての ③スパイロメトリーについて ④リハビリテーション時での急変時の対応について ⑤COVID19に対する標準予防策とN95マスクフィッティングの方法 ⑥急変時のシミュレーション（救急部までの搬送） ⑦ICUでの体位ドレナージについて
	研修の期間・実施回数	年1回
	研修の参加人	①10名 ②11名 ③10名 ④30名 ⑤5名 ⑥30名 ⑦20名
11.	研修の主な内容	検査部の新規採用者を対象に、ISO内部監査セミナーを実施した。 「ISO15189規格内容」「内部監査概要説明」「是正処置報告説明」についてグループでの演習を交えながら学んだ。
	研修の期間・実施回数	年1回
	研修の参加人数	13人
12.	研修の主な内容	病理部の新規採用職員を対象に、以下の研修を実施した。 ・患者情報の守秘義務 ・倫理 ・病院オリエンテーション ・ポケットマニュアルの説明 ・接遇 ・感染予防 ・品質マネジメントシステム
	研修の期間・実施回数	2021/4/1～1週間、2021/6/1～1週間、2021/7/1～1週間・3回
	研修の参加人数	3名
13.	研修の主な内容	病理部の職員を対象に、以下の研修を実施 ・有害インシデントの影響を回避または抑制することを含む安全衛生 ・避難訓練（机上訓練）
	研修の期間・実施回数	年2回
	研修の参加人数	全員
14.	研修の主な内容	病理部の職員を対象に、「ISO 15189関連の研修会」を実施した。
	研修の期間・実施回数	1時間・2回
	研修の参加人数	全員

15. 研修の主な内容	病理部の職員を対象に、「局所排気装置の発煙法を用いた気球検査方法」の研修を実施した。
研修の期間・実施回数	0.5時間・2回
研修の参加人数	全員

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）	
1. 研修の主な内容 研修の期間・実施回数 研修の参加人数	<p>師長、副師長を対象とした研修会を開催した。 6時間、6回（WEBミーティング） 延71名</p>
2. 研修の主な内容 研修の期間・実施回数 研修の参加人数	<p>診療放射線技師（主任以上）を対象に、インシデント事例・業務管理・人材育成などの情報共有および他大学との比較等についての報告検討会を実施した。 12回（1回/月） 12名</p>
3. 研修の主な内容 研修の期間・実施回数 研修の参加人数	<p>検査部、輸血細胞治療部、病理部の職員を対象に下記の内容に関して研修会を行なった。 ①「症例検討会 R-CPC」と「毒劇物の取り扱いについて」 ②「搬送システムについて」 ③「栄養サポートチーム（NST）の活動について」、「急変時シミュレーション（ビデオ上映）」「症例検討会 R-CPC」 3回 ①44人 ②45人 ③50人</p>
4. 研修の主な内容 研修の期間・実施回数 研修の参加人数	<p>病理部の細胞検査士を対象に、以下の研修を実施した。 ①細胞診症例検討会 ②口腔細胞診ワークショップ ③細胞診供覧会（陽性チェック） ①1時間・5回 ②1時間・1回 ③0.5時間・週5回 ①②細胞検査士全員、③細胞診業務担当者</p>
5. 研修の主な内容 研修の期間・実施回数 研修の参加人数	<p>病理部の業務担当職員を対象に、「機器導入時使用説明会」を実施した。 1～2時間、4回 機器使用者全員</p>
6. 研修の主な内容 研修の期間・実施回数 研修の参加人数	<p>病理部の業務開始職員を対象に、以下の研修を実施した。 ①FISH業務 ②免疫染色業務 ③組織標本作製業務 ④迅速標本作製業務 ⑤切出し補助業務 1～2時間、1～3回 ①2名 ②3名 ③3名 ④1名 ⑤1名</p>

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況	
1. 研修の主な内容	日本医療薬学会地域薬学ケアの研修生を対象に、部内薬剤師向けに開催したスキルアップセミナーおよび症例検討会、院内で開催された抗悪性腫瘍剤審査委員会を公開した。また、対応に苦慮する症例に対する指導、研修生による症例検討会での発表を行った。
研修の期間・実施回数	2021/4/1～2022/3/31 ・計47回(スキルアップセミナー、症例検討会) ・4回(抗悪性腫瘍剤審査委員会) ・月1回(症例に対する指導)
研修の参加人数	5名
2. 研修の主な内容	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成プログラム 高齢者医療コースの研修生 看護師2名に対して、高齢者の「薬学概論」「ポリファーマシー」「糖尿病」「栄養管理」「がん薬物療法」「アドバンス・ケア・プランニング」について講義を行った。
研修の期間・実施回数	2021/6/23～7/12 1回1.5時間、計6回
研修の参加人数	2名
3. 研修の主な内容	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成プログラム 栄養医療コース研修生に対して、研修期間中に「静脈栄養」「簡易懸濁」について講義を行った。
研修の期間・実施回数	40分、1回
研修の参加人数	約30名
4. 研修の主な内容	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成プログラム 災害・救急医療コース研修生に対して、研修期間中に「災害時の薬事」について講義を行った。
研修の期間・実施回数	90分、1回
研修の参加人数	4名
5. 研修の主な内容	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成プログラム 感染症医療コース研修生に対して、「TDM」「DI」「BigGun」に関する研修や「抗菌薬適正使用」「感染対策」「消毒薬」について研修期間中に講義を行った。
研修の期間・実施回数	2021/9/27～2022/2/10 1日4時間、計13日(薬剤部対応分)
研修の参加人数	1名
6. 研修の主な内容	日本病院薬剤師会妊婦・授乳婦専門薬剤師研修の研修生に対して、研修期間中に、妊婦・授乳婦に対するカウンセリング技術や情報評価スキルの確認トレーニング等の実技研修を行った。
研修の期間・実施回数	2022/1/24～28 計5日
研修の参加人数	1名
7. 研修の主な内容	日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師制度の研修生に対して、研修期間中に臨床研究への参画に関する指導と「薬物療法の実践」「チーム医療への参画」等の研修の進捗管理を行った。
研修の期間・実施回数	2021/～2022/3/31 月1回程度
研修の参加人数	1名
8. 研修の主な内容	地域の看護職者に対して院内研修を公開して受け入れた。
研修の期間・実施回数	26.5時間、15回
研修の参加人数	延367名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医

療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 眞庭 謙昌
管理担当者氏名	薬剤部長 矢野 育子 総務課長 中出 泰介 管理課長 輪野 透 学務課長 浦田 勇二 研究支援課長 河村 敏幸 医事課長 今井 淳 医療支援課長 橋本 欣也

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医療支援課	
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	診療録センター	
		看護記録	診療録センター	
		検査所見記録	診療録センター	
		エックス線写真	各診療科	
		紹介状	診療録センター	
	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療録センター		
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究支援課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	カルテ室	
	掲げる事項	規則第一條の十一第一項に	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課・薬剤部
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療支援課
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療支援課
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療支援課
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療支援課		
			病歴資料については診療録センターで集中管理を行い、エックス線写真、処方せん、病院日誌各診療科日誌は当該担当部署において、保管している。 診療記録は2008年より電子カルテによる保管運用を開始している。紙媒体で生成される各種検査記録及び同意書等は、スキャナにより電子的情報として電子カルテに取り込み、保存している。 診療録の院外持ち出しは原則禁止としている。	
			パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理	
			パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理
	第二項	院内感染対策のための委員会の開催状況	
	第一号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	
	第三号	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	
	第一号	医薬品安全管理責任者の配置状況	
	第二号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	
	第三号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
	第四号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
	第五号	医療機器安全管理責任者の配置状況	
	第六号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	
	第七号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
第八号	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療支援課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療支援課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療支援課・薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療支援課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療支援課
		医療安全管理部門の設置状況	医療支援課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療支援課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療支援課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療支援課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療支援課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	大学 内部統制室・神戸海都法律事務所(外部窓口)
		職員研修の実施状況	医療支援課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療支援課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	病院長 眞庭 謙昌
閲覧担当者氏名	薬剤部長 矢野 育子 総務課長 中出 泰介 管理課長 輪野 透 学務課長 浦田 勇二 研究支援課長 河村 敏幸 医事課長 今井 淳 医療支援課長 橋本 欣也
閲覧の求めに応じる場所	・医学部管理棟(総務課)
閲覧の手続の概要 閲覧日の2週間前までに所定の申込書により総務課に申込を行い、応接室にて閲覧する。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理に関する基本的な考え方 2. 医療安全管理委員会その他の病院の組織に関する基本的事項 3. 医療安全教育のための職員研修に関する基本方針 4. 医療安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（当該指針の閲覧に関する基本方針） 7. 患者等からの相談への対応に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析 2. 前号の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員等への周知 3. 前号の改善のための方策の実施の状況の調査及び確認結果の報告 4. インシデント、アクシデント等の報告（全死亡例及び一定基準以上の有害事象等の報告）の実施の状況の確認、必要な検証及び確認結果の報告 5. 前号に規定する実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導 6. その他医療安全に関すること 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全に関する職員必修講習（1回目） <ul style="list-style-type: none"> 「新型コロナウイルス流行下の感染対策の基本-2」 「耐性菌出現の防止を目的とした抗菌薬の適正使用」 「第三者評価で求められる薬剤管理について」 「「確認」行動と医療事故について」 「当院の中核病院承認と不適合事例紹介と指針の改訂」 （2回目） <ul style="list-style-type: none"> 「病院機能評価後の医療の質改善」 「冬季に多い感染症対策の基本」 「抗菌薬とカテーテル管理で使用する消毒薬の適正使用について」 「医療機器の安全使用について」 「臨床研究概論と当院の不適合事例について」 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療スタッフポケットマニュアルの配付 2. 薬品情報検索システム 3. 持参薬の病棟薬剤師による処方チェックシステム 4. 是正処置実施計画書・報告書の作成 	

5. 院内巡回の定期実施
6. 質・安全マネジャー連絡会議の定期開催
7. 死亡事例の全件報告
8. 広報紙「くすのきスクエア」の発行、各部署内で回覧（確認のため押印又はサイン）

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内感染対策に関する基本的考え方 ・ 院内感染対策のための委員会・組織 ・ 院内感染対策のための職員等に対する研修に関する基本方針 ・ 院内感染発生時の対応（報告体制含む）に関する基本方針 ・ 患者・家族等に対する指導およびインフォームドコンセントと当該指針の閲覧に関する基本方針 ・ その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針（サーベイランス・院内ラウンド 抗菌薬適正使用支援・特定抗菌薬届出の監視・コンサルテーション・職業感染対策・マニュアルの編集・院内環境の整備） ・ 感染制御の地域連携 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <p>MRSA及び耐性菌の検出報告、アウトブレイク疑い対応、院内ラウンド報告、医療関連サーベイランス、感染管理リンクナース会報告、職業感染予防対策（新型コロナウイルス対策、結核曝露対策、ワクチン接種、血液・体液曝露予防など）、院内感染予防マニュアルの改訂、院内研修の計画・実施報告</p> 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 10 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規採用者全員対象に、院内感染対策の基本と針刺し予防の講義（e-ラーニング） ・ 全職種に対して、職員必修講習会として年2回実施。医療安全部門と共に、時期に応じて院内感染対策上重要なポイントおよびトピックスや実例について講演 ・ 新型コロナウイルス感染症に関する基礎知識、対策、検査、注意事項などについての動画（いつでも閲覧可）、個人防護具着脱講習、N95マスク装着指導（フィットテスト含む） ・ 職種別や部門別（医師、看護師、診療技術部門等）対象に、各職種に応じた現場で遵守すべき感染対策の知識や技術について資料配布、講義（e-ラーニング）、トレーニング ・ 外部委託業者への講習会を職種別に講義（DVD配布） 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無） <p>感染症法に決められている届け出が必要な感染症の報告体制、および感染対策上重要な感染症に対する感染制御部を中心とした監視体制。</p> ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染対策実施状況を確認するために、オンタイムおよび随時（1-2回/週）に院内ラウンドを実施し、必要時指導。 ・ 抗菌薬使用状況を継続的に調査し、毎週開催の抗菌薬適正使用プロジェクトで抗菌薬の使用法をメール審議し、随時介入指導。 ・ 現場医療従事者からのコンサルテーションをうけて、随時対応。 ・ 侵襲処置・医療器具関連感染、血液・体液曝露のサーベイランスを実施。 ・ 職員に対してB型肝炎、4種ウイルス（麻疹、風疹、水痘、ムンプス）のワクチン歴や抗体価の調査およびワクチンの推奨を行い、データ管理を実施。 ・ 新興・再興感染症の対応を協議し、院内全体に感染防止対策を周知徹底。 ・ 改築、改修時の院内のファシリティーマネージメントの実施。 ・ 医学科学生（BSL前）及び保健学科学生に、感染防止対策の講義と手指衛生や個人防護具の使用方法について演習（オンライン含む）を実施。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 56 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 例年は、新規採用職員を対象としたオリエンテーションで医療安全を含めた医薬品に係る講習を実施しているが、今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため講習の代替としてweb講演を行った。内容は、処方箋の記載方法、医薬品の取り扱い方法、院内の薬剤に関する運用方法、薬剤関連の重大インシデント等である。</p> <p>(2) 全職員を対象とした講習会を6月から7月にかけて実施したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため e-learning形式であった。テーマは、「第三者評価で求められる薬剤管理について」である。習熟度確認のため、講習会終了後はマークシート方式による確認試験を実施した。</p> <p>(3) 薬剤部では部内で発生したインシデント事例等を情報共有する「薬局会」を月1回開催している。参加者には会終了後にアンケートを記載させており、薬剤部長、副薬剤部長、薬剤主任等はそれを回覧し業務改善に繋げている。</p> <p>(4) 例年通り、新人看護師を対象として「薬剤の基礎知識」をテーマとする講習会を実施した。また、病棟看護師を対象に「小児科病棟でよく使用される薬剤について」「鎮痛薬・鎮静薬について」「インスリンの使用について」「高濃度注射用カリウム製剤の安全管理について」等をテーマとした短時間講習を実施した。</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 「医薬品の安全使用のための業務手順書」は必要に応じて改訂しているが、少なくとも年1回は改訂を行い医薬品安全管理委員会で審議し、医療安全管理委員会で承認を得ている。また、薬剤部職員はこの手順書に基づき作成した「医薬品安全管理点検表」を用いて薬剤部以外に保管する医薬品等の管理状況を確認している。管理状況に不備がある場合は管轄看護師長等に連絡し改善を依頼する。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば)： 未承認新規医薬品は3事例について承認した。具体的には、①感染症内科「進行した心臓合併症をもつ慢性期シャーガス病患者に対するNifurtimox (LAMPIT®) による治療」、②感染症内科「進行した心臓合併症をもつ慢性期シャーガス病患者に対するBenznidazole (Radanil®) の治療」、③泌尿器科「ポリオマウイルス腎症に対するシドフォビル投与」である。適応外使用については4事例承認した。具体的には、①産科婦人科「高用量バラシクロビル母体投与による症候性先天性サイトメガロウイルス感染症に対する胎児治療」、②膠原病リウマチ内科「抗MDA5抗体陽性の臨床的無筋症性皮膚筋炎に合併した急速進行性間質性肺疾患に対するトファシチニブ併用療法」、③膠原病リウマチ内科「難治性成人発症ステイル病、マクロファージ活性化症候群の患者に対するリメタゾン®静注療法」、④心臓血管外科「出血傾向を有する患者への人工心肺手術における、ナファモスタットメシル酸塩を併用した抗凝固療法」の4事例である。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 薬剤部の薬品情報室はPMDAナビや各種ホームページの閲覧によりイエローレター、ブルーレターを含む医薬品の安全使用のために必要な情報収集を行っており、得られた情報は速やかに院内周知している。また、イエローレター、ブルーレターについては当該薬剤の使用患者リストを病棟薬剤師に提供し、副作用発現状況等を確認すると共に、主治医等に情報提供を行っている。 (2) 2016年9月より、薬剤部の主任質・安全マネジャーと医薬品安全管理者は安全使用の確認を目的として使用状況の確認を行う医薬品を選定し、薬品情報室に処方状況のデータ収集作業の指示を出している。その情報は必要に応じて院内発行紙の「くすのきスクエア」に掲載して院内周知を図ることとし、必要に応じて、医療の質・安全管理部が院内ラウンドを行う際に周知状況の確認を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年237回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>令和3年度は全体研修会14回、安全使用研修72回、新規導入等研修115回、その他放射線部研修36回</p> <p>(1) 職員必修講習</p> <p> a. 除細動器・AEDについて</p> <p>(2) 医療機器安全に関する必修講習（前・後期）</p> <p> a. 人工呼吸器について</p> <p> b. 血液浄化装置について</p> <p> c. 人工心肺装置・補助循環装置について</p> <p> d. 閉鎖式保育器について</p> <p>(3) その他の特定保守管理装置の講習</p> <p> a. 診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置について</p> <p>(4) 新入職員等のための研修</p> <p> a. 輸液・シリンジポンプ</p> <p> b. 人工呼吸器</p> <p> c. 血液浄化装置</p> <p>(5) 新規導入機器・機器配置変更等のための研修会</p> <p> a. 人工呼吸器</p> <p> b. 補助循環装置</p> <p> c. 血液浄化装置</p> <p> d. その他</p> <p>(6) 医療機器安全使用・適正使用に関する研修等</p> <p> a. 人工呼吸器</p> <p> b. 血液浄化装置</p> <p> c. その他</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>(1) 人工心肺装置・補助循環装置（IABP、経皮的補助循環装置、体外設置型補助人工心臓装置）、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、CTエックス線装置、診療用高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、磁気共鳴画像診断装置等の保守点検を実施</p> <p>(2) 補助循環装置、人工呼吸器、生体情報モニター、除細動装置等の日常点検を実施</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p>	

- ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：なし
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - (1) 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施
 - (2) 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の適切な実施
 - (3) 医療機器の安全使用のための情報の収集（不具合情報、安全情報、健康被害等情報）
 - a. 収集した情報は医療機器安全管理委員会に報告している。
 - b. 医療機器安全管理委員会から関連部署へ通知し周知を図っている。
 - c. 医療安全管理委員会へ不具合情報ならびにその対応について報告している。
 - (4) 未承認等の医療機器を用いた医療の提供
 - (5) 医療機器の安全確保を目的とした改善方策の実施
 - (6) 医療機器の添付文書及び取扱説明書の管理

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	○有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>副病院長（リスクマネジメント担当）を医療安全管理責任者に選任し、医療の質・安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	○有（5名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医療の質・安全管理部と連携し、令和3年度は年4回発行した「くすのきスクエア」（医療安全、感染制御、薬剤情報紙）により周知徹底を図った。また、薬品情報室ニュース（採用薬・副作用・安全性情報）を適宜発信し周知している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>医薬品安全管理委員会にて「医薬品に関する未承認、禁忌、適応外使用に関する相談フォーム」を作成し、適応外使用のうち高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等実施審査委員会で審査を要する範囲を定め、運用している。</p> <p>・担当者の指名の有無 ○有・無</p> <p>・担当者の所属・職種： （所属：薬剤部，職種：薬剤師）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	○有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （○有・無）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：インフォームドコンセントに関する責任者が定期的に入院診療録のピアレビューを行い、不十分な場合には適切に実施されるよう研修・指導を行っている。医師による次の7項目のカルテ記載を必要としている。</p> <p>1. 対象者（患者またはその代諾者） 2. 説明場所 3. 説明日時 4. 同席者（医療者） 5. 説明内容 6. 説明時の患者またはその代諾者の反応等 7. 患者またはその代諾者に同意を得たこと</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	①・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療録管理責任者は、定期的に診療録等の記載内容の確認を行い、不十分な場合は、記載方法や内容の研修・指導等を行っている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	①・無
<p>・所属職員：専従（４）名、専任（２）名、兼任（４）名 うち医師：専従（１）名、専任（１）名、兼任（２）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（２）名、専任（ ）名、兼任（１）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>医療安全に関すること</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療安全管理委員会の方針に基づき、同委員会と連携し、院内の医療安全に努める。 (2) インシデント事例収集、分析及び再発防止策を立案する。 (3) インシデント・アクシデント審議会・事例検証会等を開催し、事例の検証、調査及び対策の立案を行う。 (4) 医療安全活動の企画、立案を行う。 (5) 院内外で収集した医療安全情報の院内周知や医療安全に関する職員教育を行う。 (6) 医療者相談・医療紛争及び医療訴訟事例等の検証を行い、対応する。 (7) 高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関する検討を行う。 (8) 医療安全に配慮した各種マニュアルの作成、改訂を行う。 (9) その他、医療安全に関する業務を行う。 <p>医療の質に関すること</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療情報から医療の質の評価に役立つ指標を情報分析推進室と協働で分析、評価する。 (2) 医療の質において評価が低く、問題となった点の分析、改善策の立案を行う。 (3) 臨床倫理に関した事例等の対応支援を行う。 (4) 総合的質管理委員会、業務標準化委員会と連携し、医療の質向上に努める。 (5) 部門横断的な質改善活動等、院内の医療の質改善活動の支援を行う。 (6) その他、医療の質改善に関する業務を行う。 <p>モニタリングの具体例</p> <p>院内死亡事例、院内急変事例、DVTの発症、手術・麻酔に関連した予期せぬ出来事 など</p>	

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（7件）、及び許可件数（7件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - (1) 病院長の命を受け、新規医療技術等の責任者として業務を掌理する
 - (2) 新規医療技術等の適否等について関係各部署に対し、意見を求める
 - (3) 決定した内容及び規程等の遵守状況を病院長に報告する
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（8件）、及び許可件数（8件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - (1) 病院長の命を受け、未承認新規医薬品等を用いた医療の責任者として業務を掌理する。
 - (2) 未承認新規医薬品等を用いた医療提供の適否等について関係各部署に対し、意見を求める。
 - (3) 決定した内容及び内規等の遵守状況を病院長に報告する
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 230 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 83 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - (1) インシデント、アクシデント等の報告（全死亡事例及び一定基準以上の有害事象等の報告）の実施の状況の確認、必要な検証及び確認結果の報告
 - (2) (1)の実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための職員への研修及び指導

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（）（病院名：奈良県立医科大学附属病院）・無
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（）（病院名：京都府立医科大学附属病院）・無
- ・技術的助言の実施状況
新型コロナウイルス感染拡大の影響で、令和3年度特定機能病院業務相互のピアレビューは紙面調査のみとなった。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
患者支援センターに入退院支援・総合相談部門を置き、患者相談業務を行っている。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
「身体抑制ナビについて」（令和3年4月15日質・安全マネジャー連絡会議）
「院内救急体制」（令和3年7月1日質・安全マネジャー連絡会議）
「医療安全管理マニュアル第16版の改訂ポイント～インシデント報告を生かして～」（令和4年3月25日質・安全マネジャー連絡会議）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

公益財団法人日本医療機能評価機構が主催する令和3年度特定機能病院管理者研修を受講
管理者（令和3年12月23日受講）、医療安全管理責任者（令和4年1月25日受講）、医薬品安全管理責任者（令和4年2月2日受講）、医療機器安全管理責任者（令和3年12月15日受講）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

令和3年10月27日から令和3年10月29日にかけて、公益財団法人日本医療機能評価機構（以下、機構）が実施する病院機能評価のうち、一般病院3による評価を受審した。

令和3年12月24日に機構から中間的な結果報告を受領した。

令和4年1月25日に機構へC評価項目（6項目）に対する補充的な審査の受審意向登録（申込み）後、令和4年2月4日に改善報告書を提出した。

令和4年3月3日にC評価項目の内容及び改善報告書に基づき「訪問による審査」の旨が決定され、令和4年4月11日補充的な審査を受審した。

令和4年6月3日付けで、「認定留保」となった旨、審査結果を受領した。

令和4年6月28日付けで審査結果報告書を受領し、この日から起算して6ヵ月以内に再審査を受審し、改善要望事項として挙げられた4項目に係る改善の取り組みが評価できる資料を提出することとされている。

令和4年7月25日付けで、再審査の申込みを行った。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

機構から、令和4年6月27日付け文書（6月28日受理）にて審査結果報告書が届き、「認定留保」とする旨の通知があった。審査結果到着後6ヵ月以内に、「改善要望事項」に対する改善の取り組み内容が確認できる資料を提出することとされている。なお、指摘事項及び改善策は病院ホームページに掲載する予定である。

・評価を踏まえ講じた措置

C評価項目への対応（取り組み内容）について

■1.5.2 診療の質の向上に向けた活動に取り組んでいる（クリニカルパス関係）

<指摘内容（課題と思われる点）>

218種類のクリニカルパスが作成され、30%を超える適用率であったが、診療科間のばらつきが大きく、バリエーション分析が行われていない状況であった。また、臨床指標に関するデータの収集・分析では、国立大学附属病院機能評価指標を公表しているが、ベンチマーキングは行われておらず、病院として活用する指標を改めて選定している状況であったため、診療の質向上に向けて、バリエーション分析からクリニカルパスの見直しにつなげる取り組みと、臨床指標を用いて改善活動を行う仕組みを定着させるよう改善を求めた。指摘を受けて、クリニカルパス委員会を中心に院内で検討が行われ、バリエーション分析会議にてアウトカム評価 80%以上、適用回数 50 回以上のパスを対象としてバリエーション分析を行っている。消化器内科パスではバリエーション分析の結果、アウトカム評価内容の観察項目の見直しがされているなど、具体的なバリエーション分析による取り組みを確認した。また、他の大学附属病院との間で、AF、胃 ESD、大腸 ESD 等のパスについては、パスを統一して両大学でベンチマークを設定し、改善活動につなげる取り組みも開始しており、パスの共用、ベンチマーキングが順調に稼働しており、先進的取り組みを進めていることを確認した。さらに、新規パス作成時には薬剤師による抗菌薬使用のチェック、医事課による DPC を含めたチェックが行われ、実際に新規パスの作成に取り組んでおり、直近の 1、2 年に適用実績のないクリニカルパスの整理・削除も進んでいる。臨床指標に関しては、病院執行部会議、病院戦略室会議にて重点的項目と対応部署の選定について適切に審議され、公表されている指標のうち 13 項目を選択して PDCA サイクルによる改善活動がこれから開始される場所である。病院の特性を踏まえて周術期口腔ケアに関する臨床指標も設定して分析・検討を進めているところであり、その他の指標も含め、引き続き継続的な質改善に向けて取り組み、実績を積み上げることが求められる。

<取り組み内容>

クリニカルパス委員会を中心に継続して以下の取り組みを実践している。

- ・職員への周知：クリニカルパス特別会議の開催、病院長月曜朝礼での周知など
- ・診療科間のばらつき解消：クリニカルパスの本数・適用率を診療科別に毎月算出し院内に報告する、クリニカルパス委員会にて改善状況を随時確認
- ・バリエーション分析の実施：バリエーション分析会議の開催、バリエーション分析を毎月行いその結果及び改善案を通知
- ・クリニカルパスの整理：直近の 1、2 年に適用実績のないクリニカルパスについては、該当の診療科に確認の上、適宜整理・削除

■1.5.2 診療の質の向上に向けた活動に取り組んでいる（臨床指標の活用による改善活動）

<指摘内容（課題と思われる点）>

臨床指標に関するデータの収集・分析では、国立大学附属病院機能評価指標が公表されているが、ベンチマーキングはされていない。臨床指標を用いて改善活動を行う仕組みを定着させることが必要である。

<取り組み内容>

・国立大学病院長会議が実施している「病院機能指標調査」については、今までは国立大学病院データベースセンターに当院のデータを提供するとともに、全86の項目ごとに当院のデータをホームページで公表するのみで、他大学病院との比較した立ち位置や当院として改善すべき指標項目の評価、対応策の検討ができていなかった。

・今回の病院機能評価での指摘を受け、DBCから受領する全国立大学病院の調査結果報告書をもとに、当該データを病院の質改善に活用する仕組みを次のような形で構築した。

・まず、病院戦略室において、病院戦略上、特に重要視すべき指標項目、改善すべき指標項目について10指標を選定した。次に、各項目を担当する部署を決定の上、当該部署で一旦、データ分析や評価、改善策の策定を行っている。また、分析評価結果や改善策は病院戦略室でブラッシュアップを行い、最終的に病院執行部会議及び病院運営審議会において承認の後、院内周知するとともに、病院ホームページでも公表する。なお、DBCから提供されているWebページ作成支援サービス（他国立大学で導入実績あり）を利用することで、今までのような単なる「数字の羅列」による公表ではなく、外部から見ても、評価指標とその改善計画について視覚的に理解しやすいホームページの作成に向けて、現在、準備を進めているところである。

・その上で、改善活動を毎年繰り返し行い、その改善策の実施状況は病院戦略室が定期的にフォローアップするとともに、例えば、病院長ヒアリングなどの機会を通じて、各部署の活動の評価資料として活用し、質の改善に向けたPDCAサイクルを機能させていく予定である。

■1.5.4 倫理・安全面などに配慮しながら、新たな診療・治療方法や技術を開発・導入している

<指摘内容（課題と思われる点）>

高難度新規医療技術を用いた医療の説明において、自院における過去の実績や実施者の実施経験について、説明されていない、あるいは説明されていても一部の内容に留まっている。新規医療技術であるがゆえのリスクについて、患者が理解できるように説明文書の見直しが求められる。さらに、医療者の同席が把握されておらず、患者の理解を得るためのさらなる工夫が求められる。また、適応外の薬物等の使用により発生した副作用について、医薬品副作用被害救済制度の対象外に

なることが説明されていないので、使用前に同内容の説明の実施が望まれる。

<取り組み内容>

●高難度新規医療未承認医薬品等実施審査委員会（以下、「審査委員会」という。）の審査において、新規医療を実施する際に実際に使用する患者説明書も審査対象としているが、その申請説明書に下記の内容を追加することとした。

- ・高難度新規医療技術の実施者の経験を記載する項目
- ・新規医療であるがゆえのリスクを記載する項目
- ・同席した医療従事者の氏名を記載する項目
- ・適応外の医薬品使用により発生した副作用については、医薬品副作用被害救済制度の対象外になること

これらの記載漏れを防ぐため、あらかじめ上記内容を記載した患者説明書のひな型を準備し、当ひな型を用いて申請書類を作成する手順とし、2022年2月の全職員を対象とした職員研修で周知を行った。審査委員会でもこれらの記載に漏れがないことを確認することとした。医療安全管理マニュアルの改訂を行い、審査委員会にかかる新規医療については、説明医師以外の医療者の同席を求めることを明記した。当該説明書を使った説明が実際に実施されていることや医療者の同席が実施されていることについては、各担当部門に実施報告書があがる仕組みが既にあったため、担当部門長が診療録や説明書同意書を定期的に監査している。

●担当部門長の監査において、説明医師以外の医療者の同席率向上が認められなかったため、各診療科に現状を把握してもらう目的で、説明時の高難度新規医療技術実施時の患者説明書の内容や同席者の有無、カルテ記載に関して、院内規程通りに実施されているかを確認するセルフチェックを各診療科単位で実施した。チェック内容を集計した上で、院内会議において改善項目の周知を行う予定である。

■2.1.8 患者等の急変時に適切に対応している

<指摘内容（課題と思われる点）>

全職員向けのBLS訓練は、新入職員以外は各部署に任されており、全体の受講履歴などの把握がされていないため、定期的訓練の方針や受講履歴の把握などの仕組みについて改善が求められる。

<取り組み内容>

- ・総合臨床教育センターに設置した「救急蘇生研修部門」、救命救急センター及び地域医療活性化センターが連携し、新規採用職員以外の全職員（事務職員を含む）向けのBLS講習会を年に複数回（うち9回が医療従事者向け、3～6回が事務職員向け）、約500名を対象に、年度後半に実施で

きるよう計画中である。また、本院で開発した研修管理システムに研修科目及び受講者データを登録することで、研修の記録及び個人ごとの受講歴を把握できるようになっている。

■3.1.1 薬剤管理機能を適切に発揮している

<指摘内容（課題と思われる点）>

入院注射薬セットは1施用毎にセットされているが、定時（定期）処方が11時までとされており、それ以降の払い出しについては、施用別ではなく、一括して払い出されている。注射薬の安全な使用を促進するために、1施用ごとの取り揃え率を向上させるよう検討し、改善されたい。

<取り組み内容>

- ・入院定時注射処方of締め切り時間について、医師の認識が低いことが明らかとなったため、定時処方入力についての協力依頼について12/9付で院内周知文書を発出するとともに、各種会議において同様の啓発を行った。また、定期的に各診療科、病棟ごとの定期注射処方率を報告し、継続的な改善を促した。
- ・定時注射処方の締め切り時間が他院と比して早いことから2/28より11時の締め切り時間を13時に変更した。
- ・病棟に交付した定時注射薬カートの回収が24時間ごとであり、看護師が施用するまでにあらかじめ薬剤を取り出す必要が生じていたため、定時注射カートの回収タイミングを約48時間ごと（交付は現状通り24時間ごと）に変更する方針が確認され、実施するための整備を行った（9/20より開始予定）。
- ・平日の緊急処方についても1施用ごとの払い出しとすることについて合議し、10月より開始するために具体的なスケジュールや課題の一覧を策定し、実施するための取り組みを行った。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 病院長は、人格が高潔で、学識に優れ、大学附属病院の運営に関し識見を有し、かつ以下の資質・能力を備えていることが求められる。 (1) 医療法第10条に規定された病院の管理者として要件を満たす医師であること。 (2) 大学附属病院の管理運営に必要な資質・能力を有すること。 (3) 医療安全管理業務の経験並びに医療安全を第一に考える姿勢及び指導力を備え、医療安全確保のために必要な資質・能力を有する者であること。 (4) 神戸大学医学部附属病院の理念・基本方針を理解し、その実現に向けた強い意思とリーダーシップを有すること。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無) ・ 公表の方法 神戸大学ホームページに掲載
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無) ・ 公表の方法 神戸大学ホームページに掲載 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
木戸 良明	神戸大学理事(企画 ・ 人事・総務担当)	○	理事のうち学長が指名した者	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無

河端 俊典	神戸大学理事(研究 ・社会共創・イノ ベーション担当)		理事のうち学長が指名した者	有・無
南 康博	神戸大学大学院医 学研究科長		医学研究科長（役職指定）	有・無
秋末 敏宏	神戸大学大学院保 健学研究科長		保健学研究科長（役職指定）	有・無
平田 健一	神戸大学大学院医 学研究科循環器内 科学分野（医学部 附属病院循環器内 科）教授・診療科 長		医学部附属病院において診療科長 を兼務する神戸大学の教員のうち から、学長が指名した者	有・無
置塩 隆	神戸市医師会 顧 問		学長が委嘱する学外の有識者 一般社団法人神戸市医師会 顧問 として、医学・医療全般について 高い識見を有し、神戸市を含めた 地域医療における医療政策につ いて助言をいただくため、選定す る	有・無
上田 裕一	地方独立行政法人 奈良県立病院機構 理事長		学長が委嘱する学外の有識者 地方独立行政法人奈良県立病院 機構 理事長として、病院運営・ 管理はもとより、医学・医療全般 について高い識見を有し、兵庫県 外からの見地に立った助言をい ただくため、選定する	有・無
鈴木 康之	兵庫県立淡路医療 センター院長		学長が委嘱する学外の有識者 兵庫県立淡路医療センター 院長 として、病院運営・管理はもとよ り、医学・医療全般について高い 識見を有し、兵庫県外からの見地 に立った助言をいただくため、選 定する	有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 主要人事（病院管理部門の長，診療支援・企画部門の長，診療科長，中央診療部門の長，専門診療施設等の長，薬剤部長，看護部長及び医療技術部長）に関する事項 (2) 病院組織の改編に関する事項 (3) 人事制度，定員の変更に関する事項 (4) 予算の配分及び執行並びに決算に関する事項 (5) その他答申を行うべき事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 <ul style="list-style-type: none"> ホームページ及び業務連絡会議にて報告 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（(有)・無） ・公表の方法 <ul style="list-style-type: none"> ホームページ ・外部有識者からの意見聴取の有無（有(無)） <ul style="list-style-type: none"> ※内規上は、必要と認められる時に意見を聴取できることとされているが、令和3年度においては聴取していない。 	

合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
眞庭 謙昌	○	大学教員（医師）	病院長
味木 徹夫		大学教員（医師）	国際がん医療・研究センター長
佐々木 良平		大学教員（医師）	副病院長
児玉 裕三		大学教員（医師）	副病院長
溝渕 知司		大学教員（医師）	副病院長
黒田 良祐		大学教員（医師）	副病院長
前田 英一		大学教員（医師）	病院長補佐
伊藤 智雄		大学教員（医師）	病院長補佐
掛地 吉弘		大学教員（医師）	病院長補佐
松本 理器		大学教員（医師）	病院長補佐
寺師 浩人		大学教員（医師）	病院長補佐
明石 昌也		大学教員（歯科医師）	病院長補佐
小林 和幸		大学教員（医師）	病院管理部門の長
宮良 高維		大学教員（医師）	病院管理部門の長
眞田 昌爾		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の長
高橋 路子		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の長

青井 貴之		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の長
松岡 広		大学教員（医師）	診療支援・企画部門の長
坂口 一彦		大学教員（医師）	診療科長
平田 健一		大学教員（医師）	診療科長
西 慎一		大学教員（医師）	診療科長
三枝 淳		大学教員（医師）	診療科長
小川 涉		大学教員（医師）	診療科長
南 博信		大学教員（医師）	診療科長
岩田 健太郎		大学教員（医師）	診療科長
村上 卓道		大学教員（医師）	診療科長
野津 寛大		大学教員（医師）	診療科長
久保 亮治		大学教員（医師）	診療科長
山口 崇		大学教員（医師）	診療科長
福本 巧		大学教員（医師）	診療科長
國久 智成		大学教員（医師）	診療科長
岡田 健次		大学教員（医師）	診療科長
尾藤 祐子		大学教員（医師）	診療科長
篠山 隆司		大学教員（医師）	診療科長
中村 誠		大学教員（医師）	診療科長
丹生 健一		大学教員（医師）	診療科長
中野 雄造		大学教員（医師）	診療科長
寺井 義人		大学教員（医師）	診療科長
原岡 剛一		大学教員（医師）	診療科長
小谷 穰治		大学教員（医師）	診療科長
酒井 良忠		大学教員（医師）	診療科長
矢野 嘉彦		大学教員（医師）	中央診療部門の長
大竹 寛雅		大学教員（医師）	専門診療施設等
豊永 高史		大学教員（医師）	専門診療施設等
山口 雅人		大学教員（医師）	専門診療施設等
福沢 公二		大学教員（医師）	専門診療施設等
立原 素子		大学教員（医師）	専門診療施設等
矢野 育子		大学教員（薬剤師）	薬剤部長
丸山 孝樹		理学療法士	医療技術部長
福井 浩司		事務職員	事務部長
小林 大介		大学教員	情報分析推進室副室長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
ホームページ
- ・ 規程の主な内容
医学部附属病院規則第3条第2項に「病院長は、病院全般の管理、運営を総括し、所属職員（病院配置教員を含む。）を監督する。」とある。
職員の任免については、病院内の内部規則で定めたもの以外は、学長の任免になるが、その職員の選考（人選）にあたっては、病院長に権限が付与されている。副病院長、病院長補佐については、それぞれの設置要項により病院長の指名となる。
主要人事（病院管理部門の長、診療支援・企画部門の長、診療科長、中央診療部門の長、専門診療施設等の長、薬剤部長、看護部長及び医療技術部長）及び予算の配分等の重要事項については、医学部附属病院規則第3条第3項、執行部内規第3条及び運営審議会内規第4条により、病院長及び副病院長等により組織される執行部等において決定される。
以上のことから、病院長に一定の人事・予算執行権限が付与されていることを明確化している。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - ・ 神戸大学医学部附属病院副院長設置要項を定めており、副院長は、病院長の職務を分担し、病院長不在の際はその職務を代行することとなっている。
 - ・ 神戸大学医学部附属病院病院長補佐設置要項を定めており、病院長補佐は、病院の管理運営等に関する個別の具体的事項について企画立案を行い、病院長に提言することとなっている。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - ・ 人事について
病院内の内部規則で定めたもの以外は、学長の任免になるが、その職員の選考（人選）にあたっては、病院長に権限が付与されている。副院長、病院長補佐については、それぞれの設置要項により病院長の指名となる。
また、主要人事（病院管理部門の長、診療支援・企画部門の長、診療科長、中央診療部門の長、専門診療施設等の長、薬剤部長、看護部長及び医療技術部長）については、医学部附属病院規則第3条第3項、執行部内規第3条及び運営審議会内規第4条により、病院長及び副院長等により組織される執行部等において決定される。
 - ・ 研修について
公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2022年度特定機能病院管理者研修」を病院のマネジメントを担う者（管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者）に受講させ、その育成を行っている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>下記業務について、病院長に対し報告を求め、必要に応じて実地監査を行う</p> <p>(1) 医療安全管理に係る体制</p> <p>(2) 医療安全管理責任者，医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務の状況</p> <p>(3) 医療の質・安全管理部の業務の状況</p> <p>(4) 医療に係る安全管理のための委員会等の業務の状況</p> <p>(5) その他医療安全管理に関して必要な事項</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 公表の方法：ホームページ</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
寺尾 秀一	加古川中央市民病院 副院長/臨床研究・ 治験センター長/診 療部長/内科主任科 部長/医療安全管理 部長/医療安全推進 室長	○	医療に係る安全管理又 は法律に関する識見を 有する者その他の学識 経験を有する者	有・(無)	1
丸山 英二	京都府立医科大学大 学院医学研究科 客 員教授 (非常勤)		医療に係る安全管理又 は法律に関する識見を 有する者その他の学識 経験を有する者	有・(無)	1
武田 高	関西住宅品質保証株 式会社監査役 (非常 勤)		医療を受ける者その他 の医療従事者以外の者	有・(無)	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・ 体制の整備状況及び活動内容
管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制については、国立大学法人神戸大学内部監査規程（平成16年4月1日制定）に定める内部監査その他の本学において実施する各種監査により整備されている。
なお、管理者は、内部統制システム（e-learning）研修を受講し、病院における内部統制システム実施状況を定期的に学長に報告している。
学長は、報告の結果必要と認めるときは、内部統制委員会の議を経て改善を管理者に命ずる。
管理者は、改善内容及び結果について学長に報告する。
- ・ 専門部署の設置の有無（有・無）
- ・ 内部規程の整備の有無（有・無）
- ・ 内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
ホームページ

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 開設者（学長）による特定機能病院（医学部附属病院）の業務の監督に係る体制については、病院業務監督会議において、病院の運営方針、中期計画、予算及び決算その他の附属病院の管理運営に関する重要事項について監督されており、確保されている。 ・ 会議体の実施状況（ 年1回 ） ※対面会議のほか、四半期ごとの経営状況に関するメール報告あり ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）（ 年1回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ） ・ 公表の方法 ホームページ 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：病院業務監督会議			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
木戸 良明	神戸大学	○	<input checked="" type="radio"/> 有・無
眞庭 謙昌	神戸大学医学部附属病院		<input checked="" type="radio"/> 有・無
上田 裕一	奈良県立病院機構		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
木下 芳一	兵庫県立はりま姫路総合医療センター		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
森 悦朗	大阪大学大学院連合小児発達学研究科		有・ <input checked="" type="radio"/> 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法 ホームページ、医療スタッフポケットマニュアルに掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>方法：病院ホームページに掲載</p> <p>内容：各種治療実績・成績、医療機能情報提供、先進的な医療について など</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>呼吸器センター(呼吸器内科、呼吸器外科等)、腫瘍センター (腫瘍・血液内科、緩和 支持治療科等)、I C Uにて複数の診療科が連携し対応。</p>	